



花生けられ打ま



はせなさ三房

打アツサモ房事ヨワレ丸ハ切也仕ムカ  
角ハ二三代え内ハ丸ク仕ム

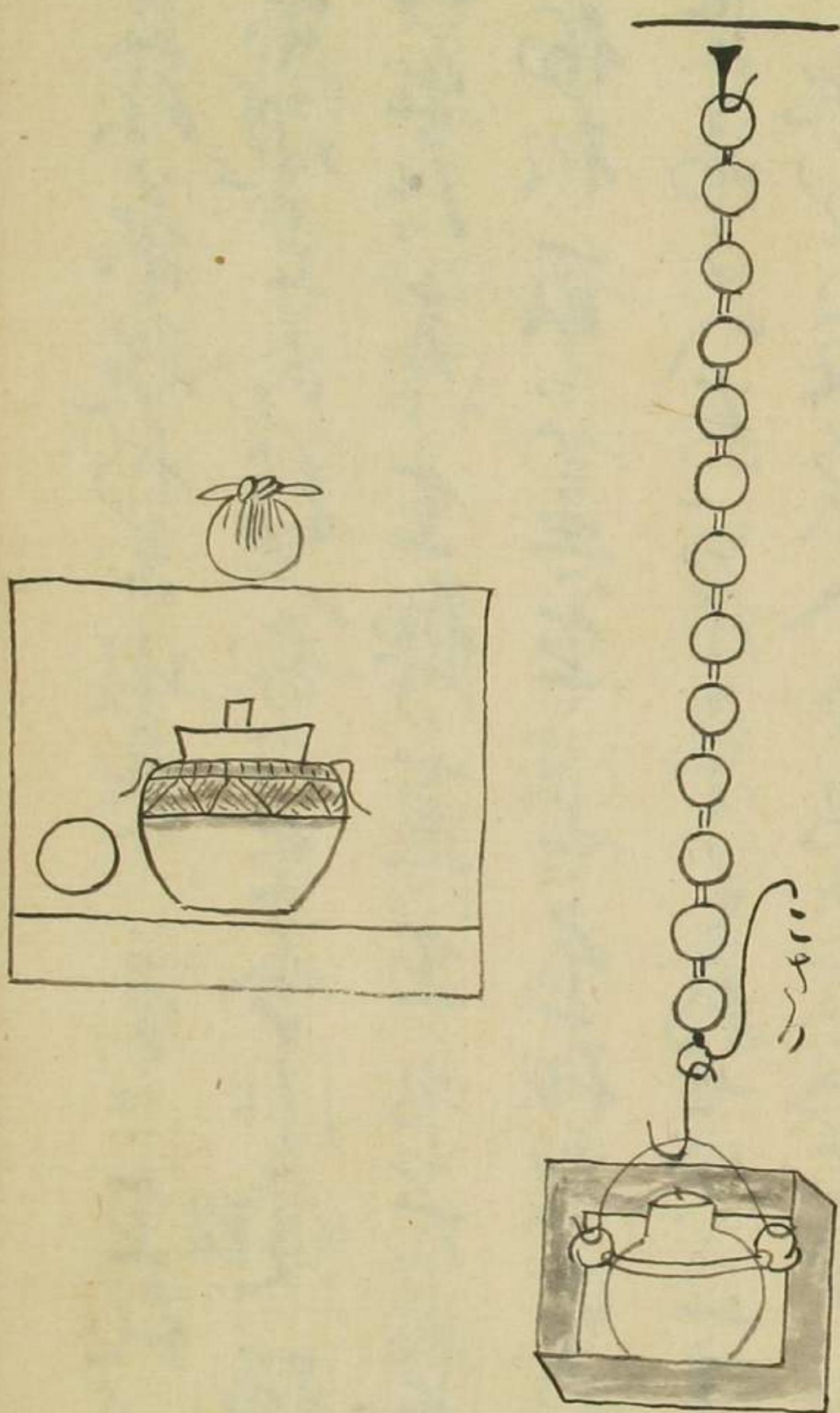
二重打ま



も、なな花生打ノ如



はせな  
はせな  
はせな房



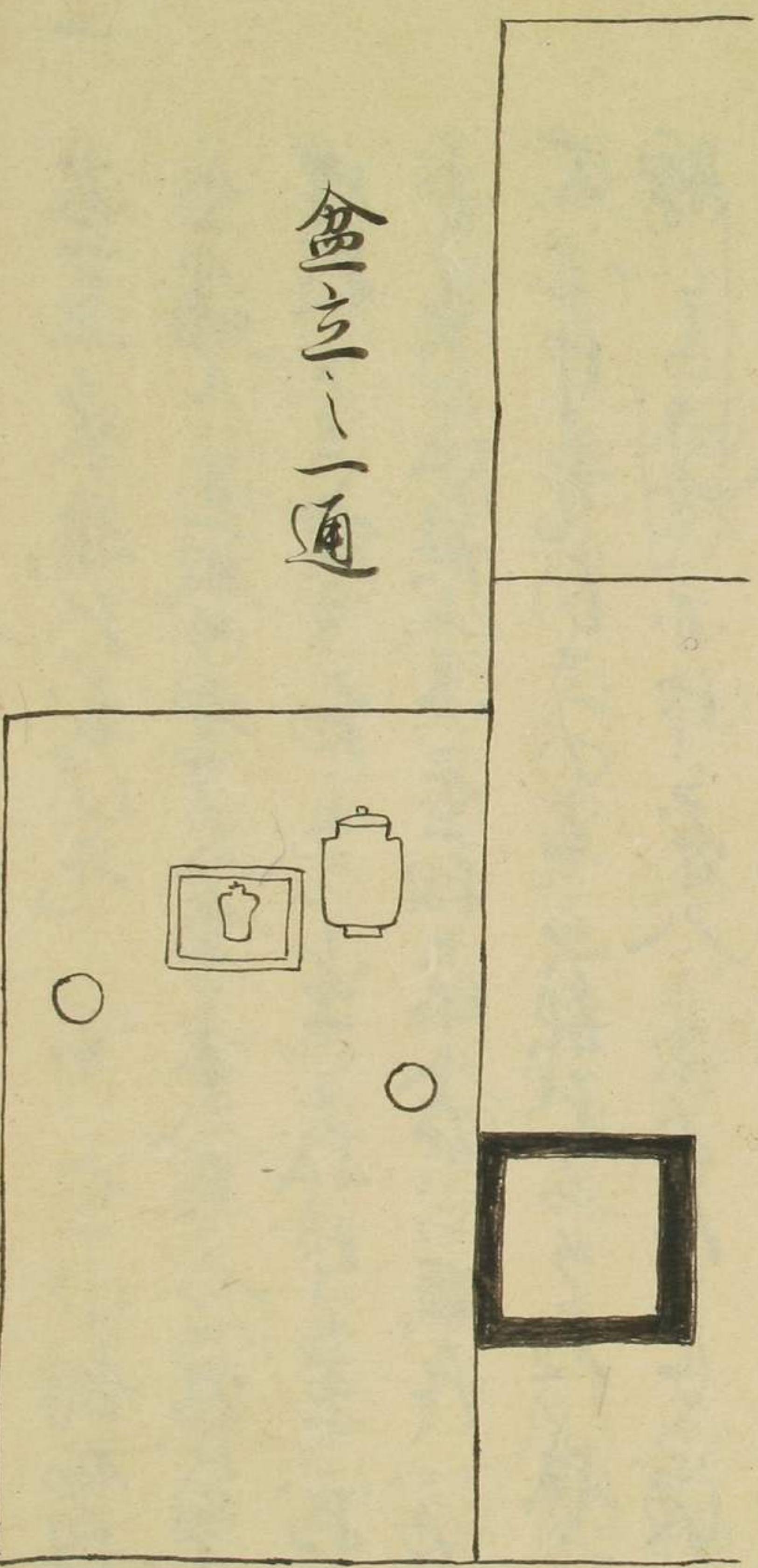
一  
奈  
立  
小  
旅  
お  
主  
身  
立  
也  
下  
奈  
旅  
と  
み  
持  
あ  
立  
今  
連  
櫻  
木  
立  
也  
主  
也  
蓋  
主  
也  
か  
た  
も  
立  
也  
主  
也  
上  
立  
也  
主  
也  
の  
も  
立  
也  
主  
也  
一  
す  
も  
立  
也  
主  
也  
入  
也  
主  
也  
れ  
立  
也  
主  
也  
と  
も  
立  
也  
主  
也  
立  
也  
主  
也  
立  
也  
主  
也

登取る事入と極角アノ色更本柏抄  
水元、後入全、其れ湯汲木旅入  
すとす又湯入原ヤシト入ミモモ  
而立原中カツ木原モ立モ  
ナリハナリナリナリナリナリ  
木南ル、柏抄瓦、立  
巴小御也テ又今モハナリナリ  
常、炉ニモナリ、全六方下り

一  
くさり日立岸、立は岸牛ねま事、立  
ゆくわこう全、蓋しめづくと拂ひどき  
全委もあしたく方、立毛らとんもさ  
ほのへげよのよけうさのちとおる」とた  
こつてお能狂角と極太もじうりき  
まことりたとすわれうた、縦じよと  
お縦もゆい一、もうお今とおけ冬と委上  
立と作角とみつてり常とあ、立角

たとえすたとくう角と中とお大とすう  
太とえす全と角とく方と角と中と秋  
方と立と立と、かく成とぬもあした  
す、立とよたよ立とよ立と、立と立と  
岸と立と立と立と立と立と立と立と  
ねくとくのくの立と立と立と立と立と  
自立と立と立と立と立と立と立と立と  
むお大と立と立と立と立と立と立と立と

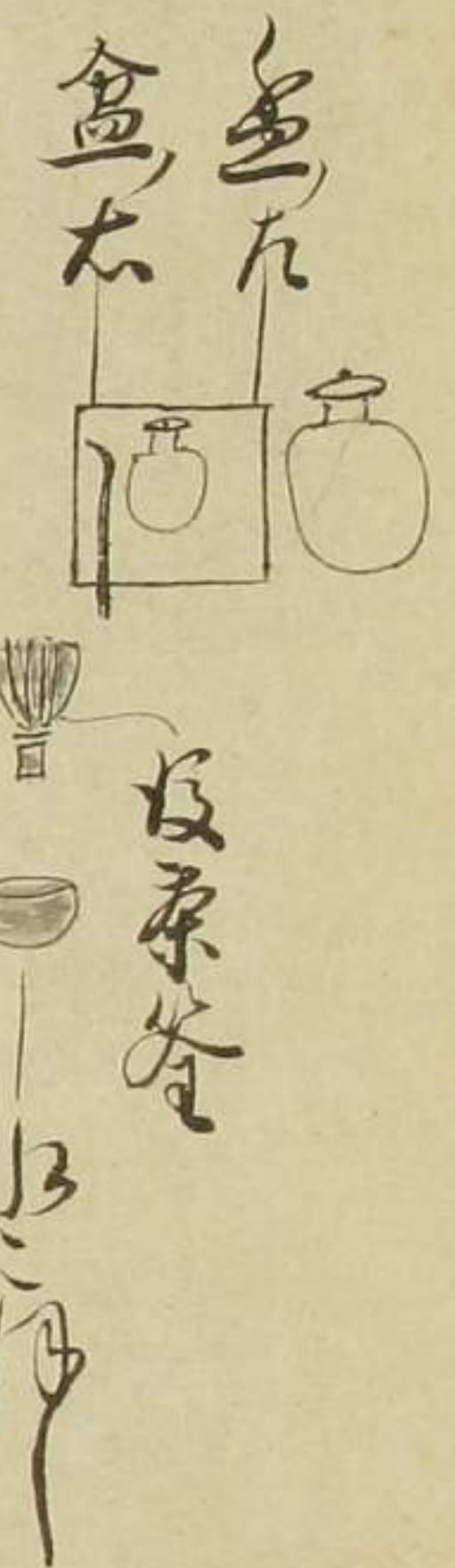
金立一通  
金立一通  
金立一通  
金立一通  
金立一通



一

主茶碗入と取り事、主茶入たう、内袋も  
中袋もとくとあわせらすと袋中とおは  
たうゆは能や、主茶入右う取た、渡し  
たうゆもひつとう能わらうた、持くさ  
腰もとまゆ亦中茶入下よたよ、渡し左  
じて茶入も主茶入中腰すもす、茶主  
主茶入腰ちへ能わ、主茶入腰主とち

ありたうてつちのよつて、主茶入、お模小  
主茶入もあらうけは茶入中腰と、主茶入  
大う方柄ねじ柄と並べ、くりのう、主茶入  
取合、蓋あらうた、茶入主は茶入ん小翻先  
主茶入茶入下を、何たうちに、渡し  
あくさからほたのとく、あくしとくとく  
茶碗、湯入茶入茶入茶入袋とく



一  
其とみりあり小手ハシれられた眼鏡而ミ、立板  
奈入多大ニ五メト下シあ指ノあミ立奈太ニ  
反重ハシタ、ああ、立袋ハシラトモトウ、立蓋ハシカ  
れゆ、うす能ハシナ、立奈入、袋ハシラれ奈入持  
立ハシタ、立とノ天同立ハシタ、あもト下シ  
あ、立奈板持ハシタ、立奈父ハシタ、  
少海ハシカの江、立奈ゆ、れのねとミ立天有  
意ハシタ、先ハシタ、立板蓋ハシカ、立反ハシタ、角ハシタ、あよ立

柏枝立、柏枝ぬまたとす。波の中、う合、  
うちも湯ヲ、り汲うて月、入とす。湯於又湯  
汲テ、右、入茶釜入テ、右肩と、意より下  
意、中、うねらし、右、入茶釜す。さて左、  
右、至る月、湯とて茶角、もう右肩、左  
茶中て、月、中、入、意、のセ茶中、わらの  
右、入茶入ら、右、波、一蓋、もう左、  
中、うねらし、う茶おれ茶ホ、入茶釜右肩、

左、茶入、茶つまうく中、うねらし、右、蓋、左、  
右、茶入、左、入茶枝、う茶く、ま、中、ゆめ  
茶枝枝右、右、入茶釜、蓋、左、湯入、う茶釜、  
右、うねらし、翻、こ、う、左、も、う、右、茶  
た、う、意、と、お、あ、お、一、中、う、こ、い、う、あ、  
茶の、仕とす、さだり、常、柏枝立、柏枝共  
釜、う、一、め、蓋、左、も、う、左、入茶入、  
左、も、う、う、阿、右、月、意、共、よ、柏、中、左、

衆入れ前、立叶れも事ノ威らすも云  
出一いと、ももこいりく、城主一、松水達也  
猪も入る意するも、金のす、前後柏枝  
も、湯汲も

一 席立候、柏枝立、下にて、金蓋する  
亦立、も金蓋、からく、柏枝、れあ  
一小物、蓋、ある、立わの角、在下、あねて、  
れどよせみて、り、をま

一 柏枝立、少少人、坐り、夷方、

主式は、柏枝、ぶり、  
かけ、金の、柏枝

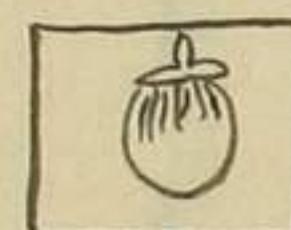
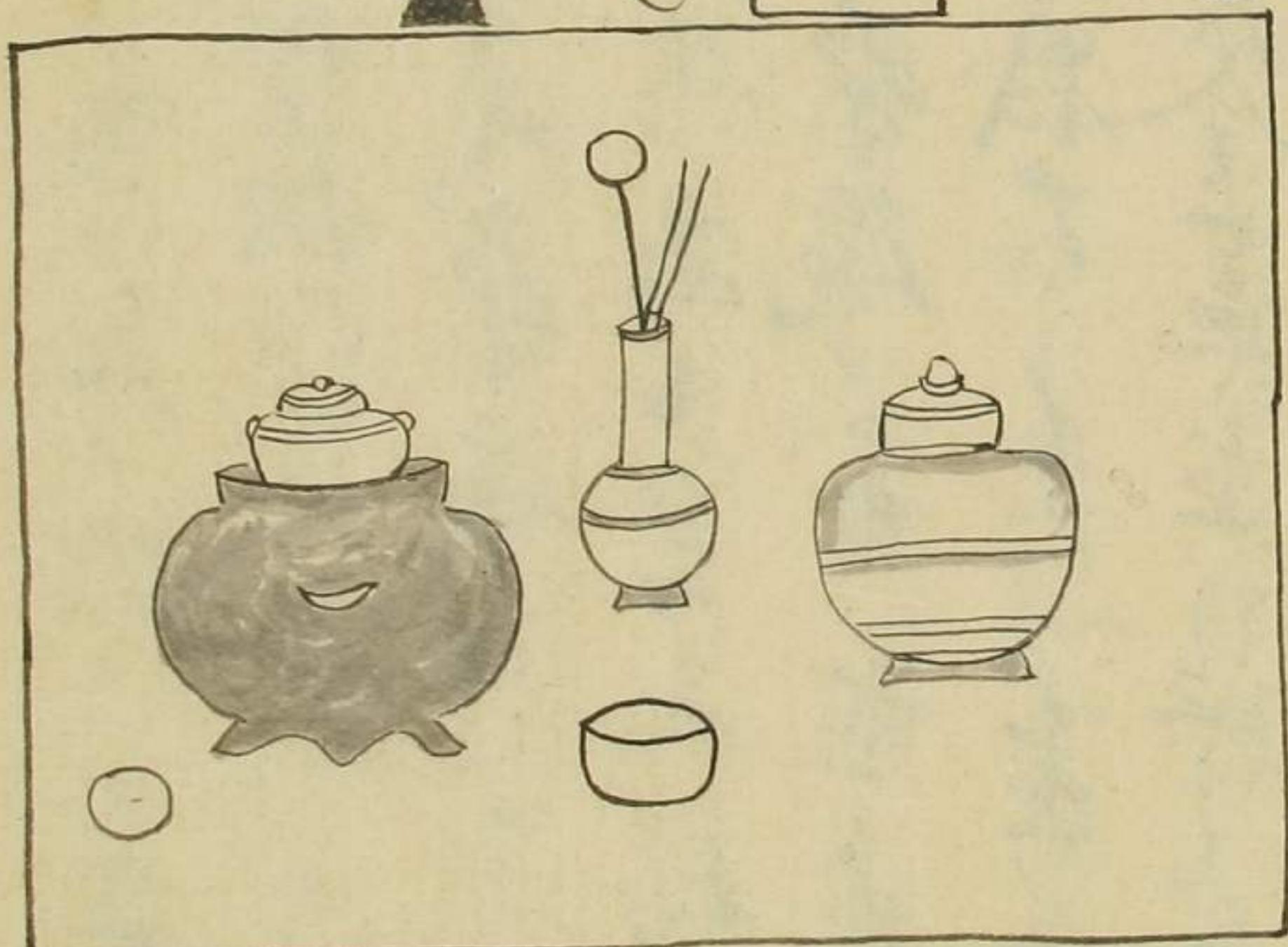
柏枝、内、水達也

るの、方、(がう)、と、す  
わゆ、ゆ、度、り、す  
は、正、立、わ

中、立、わ、ち、わ、し、立、

几、坐、二、枝屏風

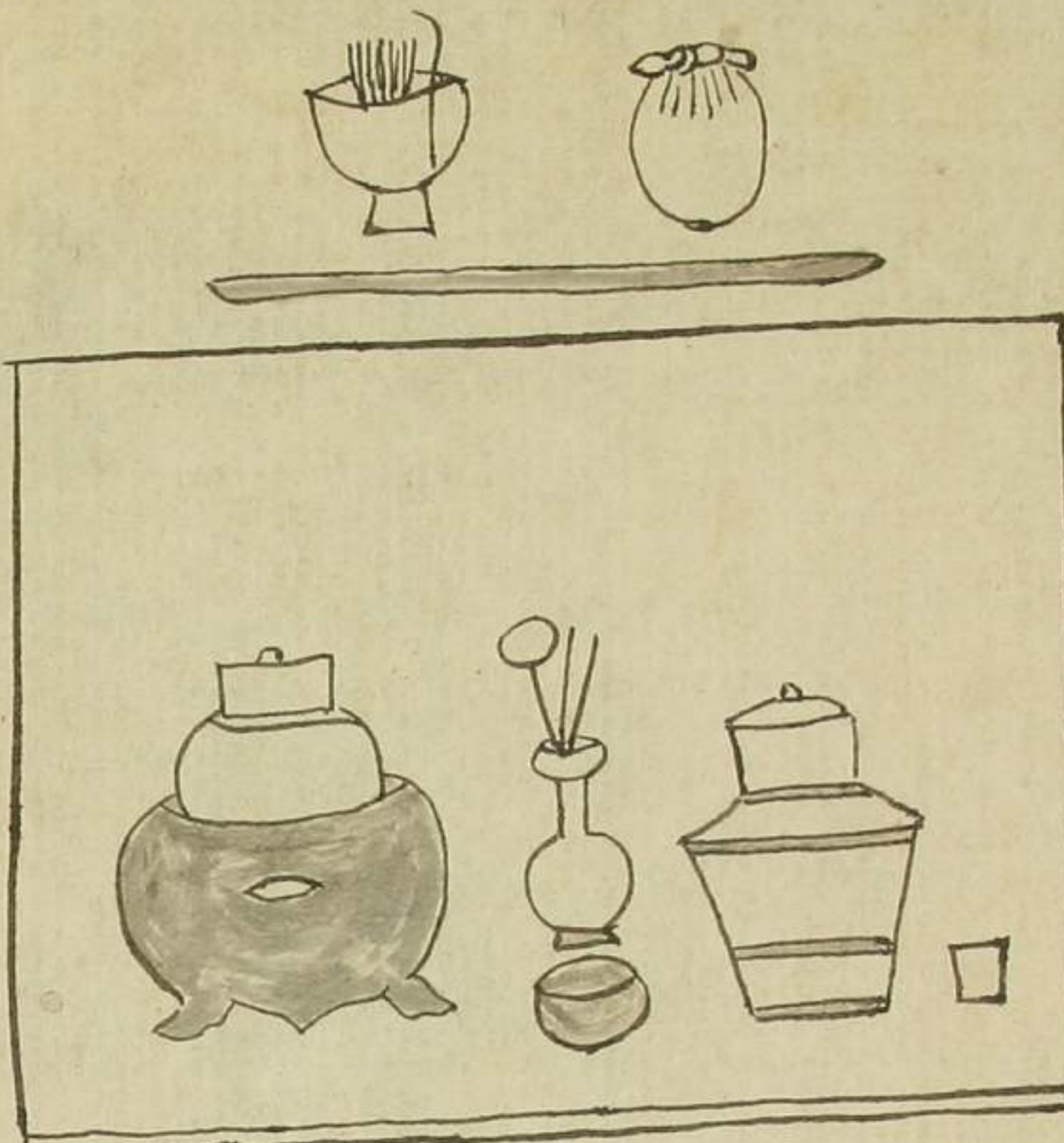
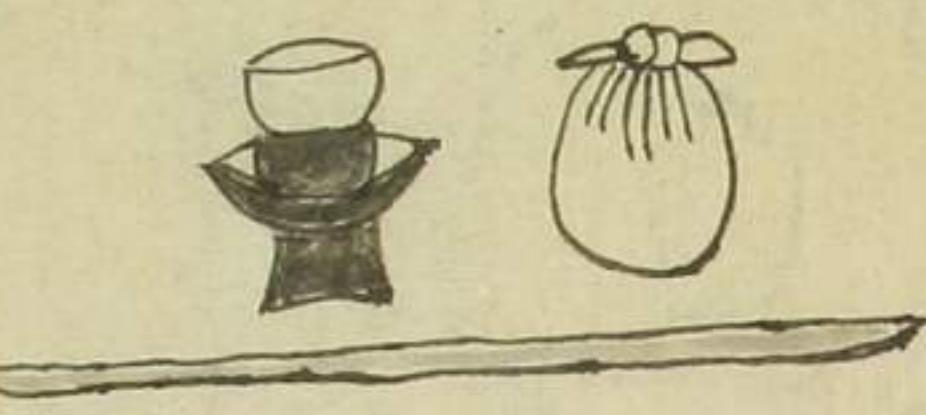
ふ、二、アハ、す、わ、  
ス、ド、ハ、通、い、あ、西、メ  
タ、ト、あ、本、地、ノ、屏、風  
か、ん、こ、と、て、オ、ミ



一長主立水に附れられたる所、立蓋、立  
りて、立翻ひに立板ひよしニ立  
立共、下す又立碗計下し前立  
立入立中立あひうみ指前立  
立立入れ立常立碗立あ立立立  
立入立袋れ立た立立立立立  
立立立立立立立立立立立立立  
立立立立立立立立立立立立立立

蓋立立立立立立立立立立立立立  
能立立立立立立立立立立立立立  
立立立立立立立立立立立立立立  
立立立立立立立立立立立立立立  
立立立立立立立立立立立立立立  
立立立立立立立立立立立立立立  
立立立立立立立立立立立立立立  
立立立立立立立立立立立立立立

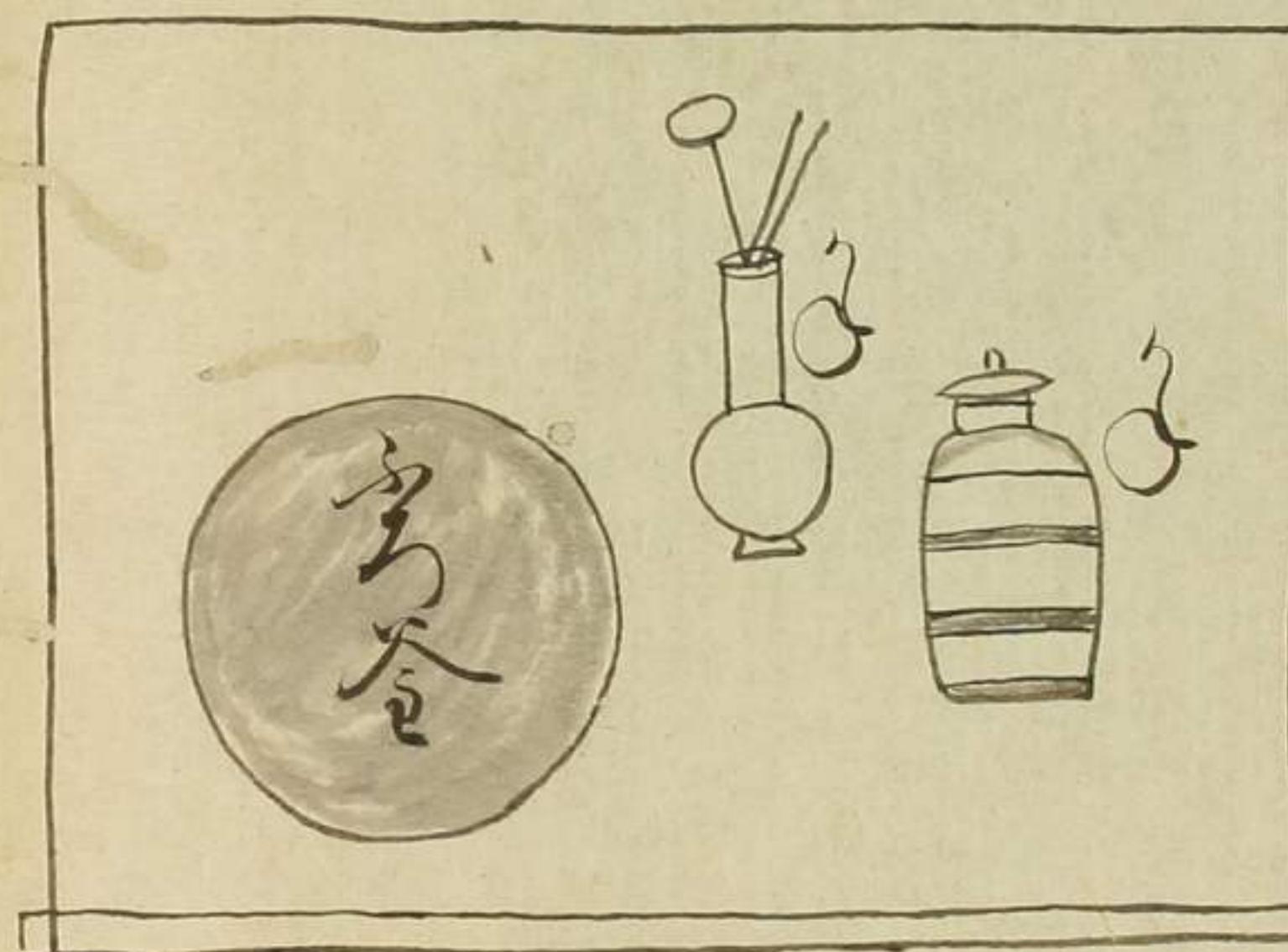
是も立て意と用と前に者りそ  
立れど、いといとちゆの意と用、  
ありり、いぢり、そく前こり書く代  
茶碗わもは



いも前ハ茶碗おもてノ様、玉小翻、蓋玉  
入うおも能可、玉板あじこうと、玉茶、下し  
立レモ外セリ

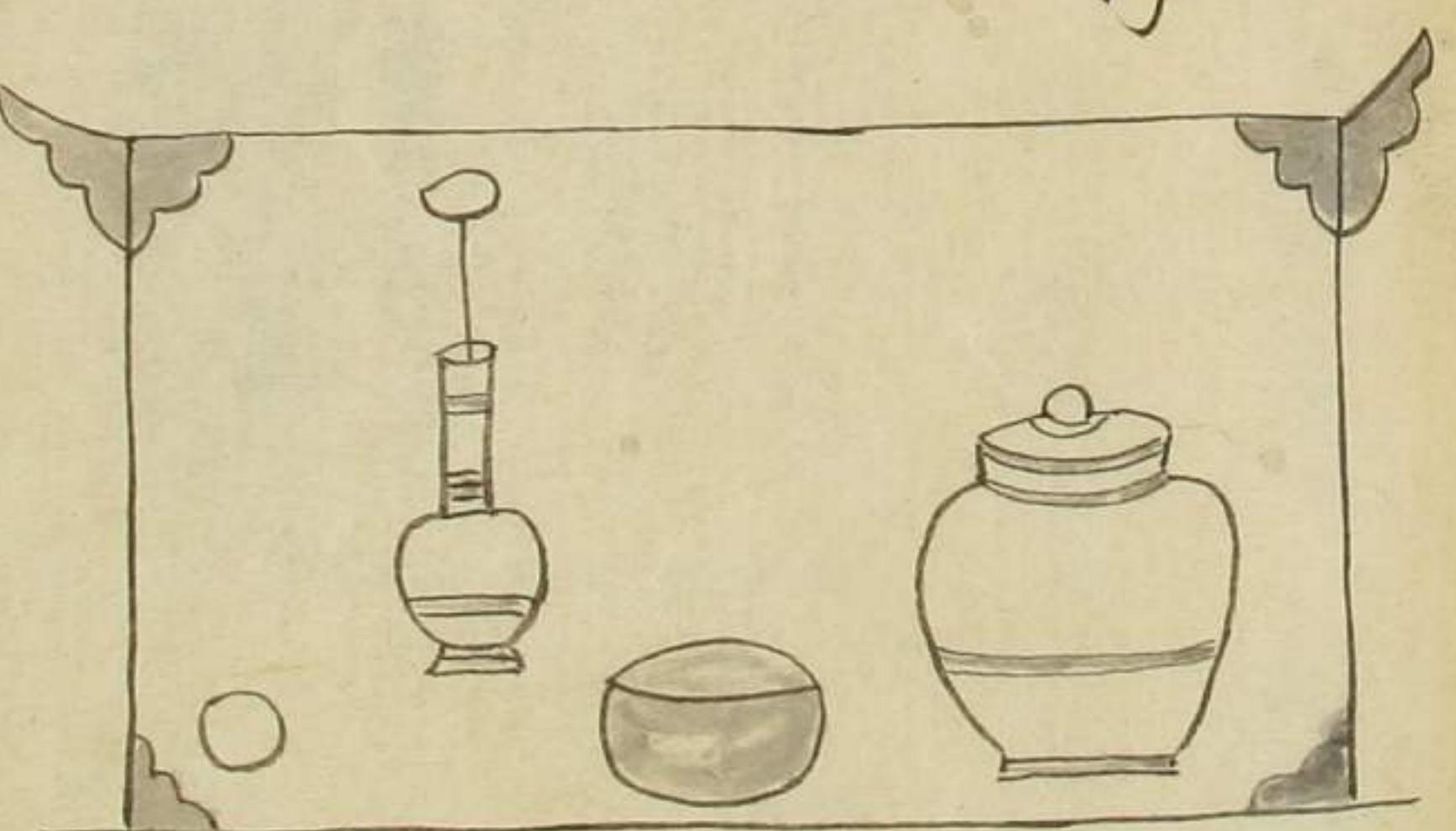


茶紋  
かづみ

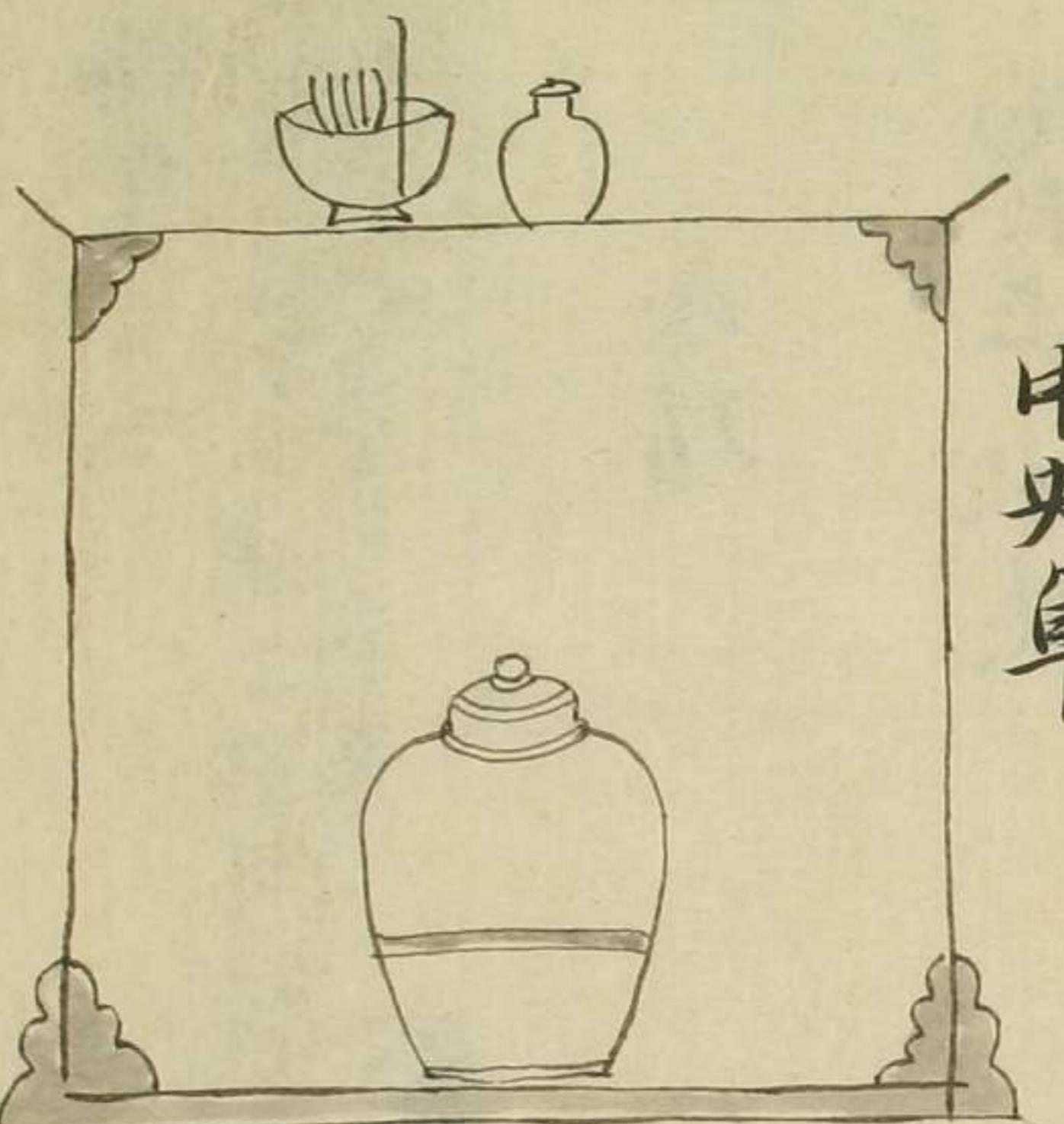


茶合

久喜子



中央卓



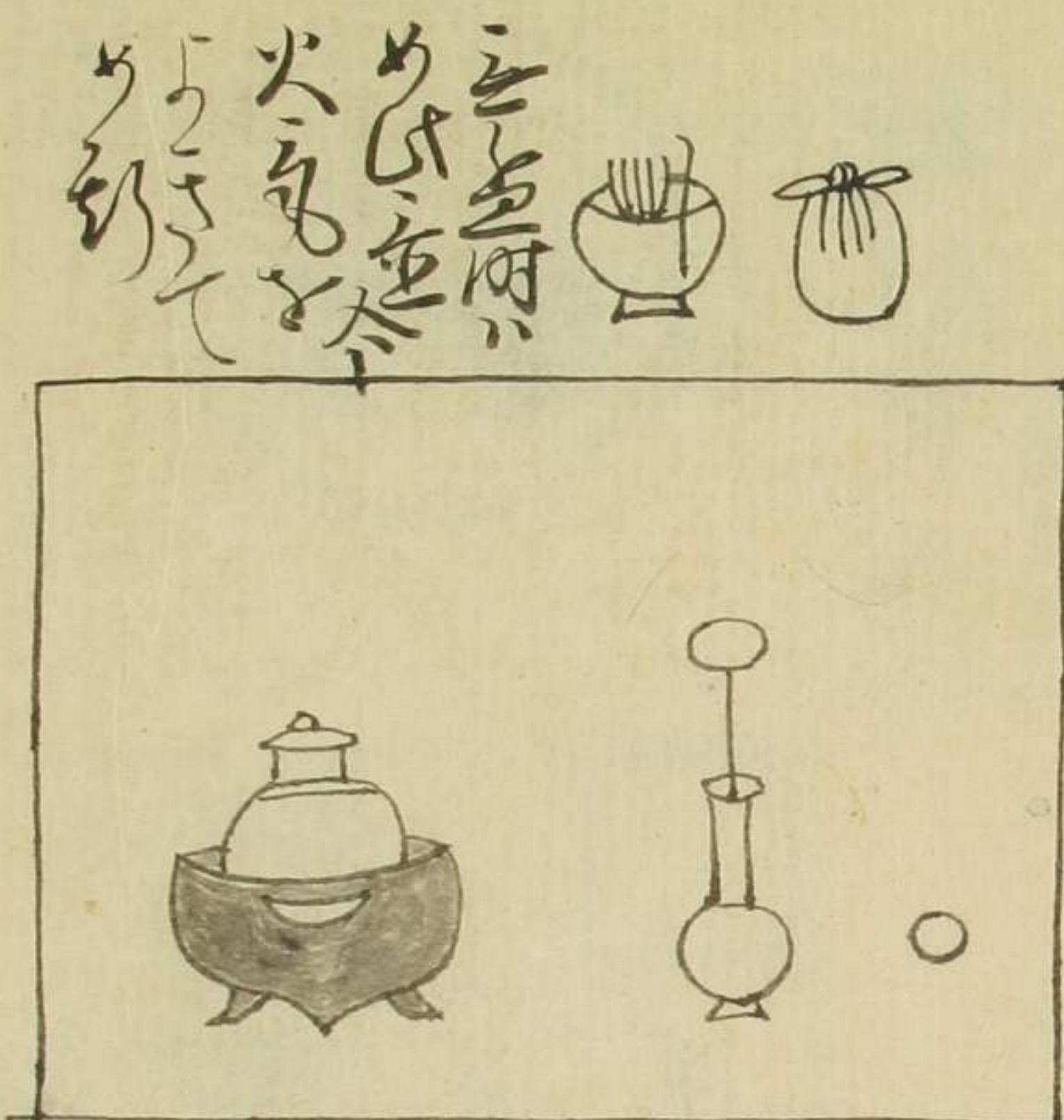
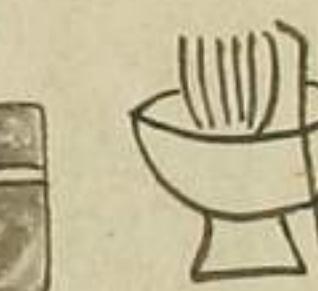
是ハ今勝寺と云  
ばんゆくじつんやハ主のせ  
たつまうりといすくよあ

みお

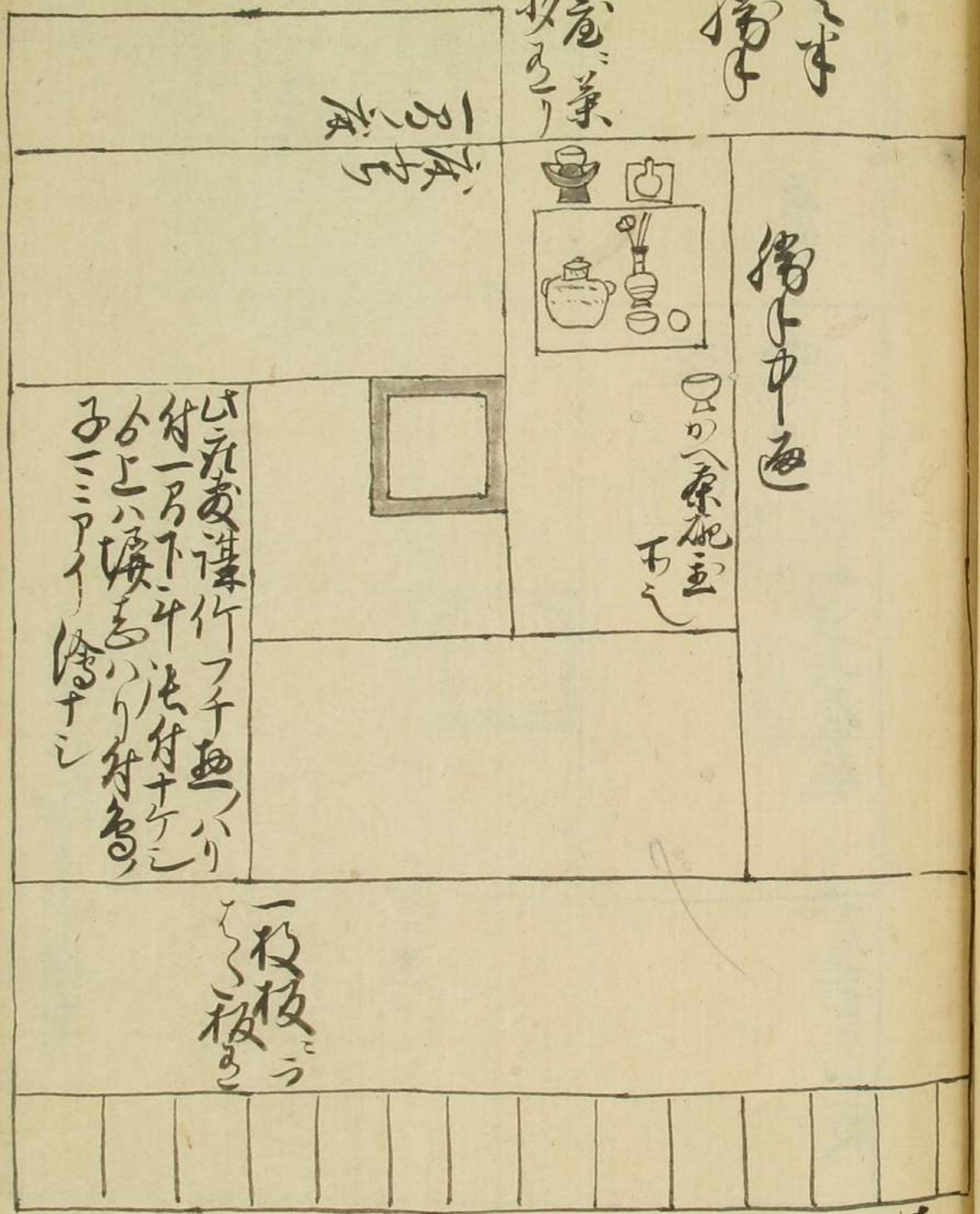
柏枝立水建

凡所令

此花式は、時ハ  
常處に中は、茶施  
の在、立、す。

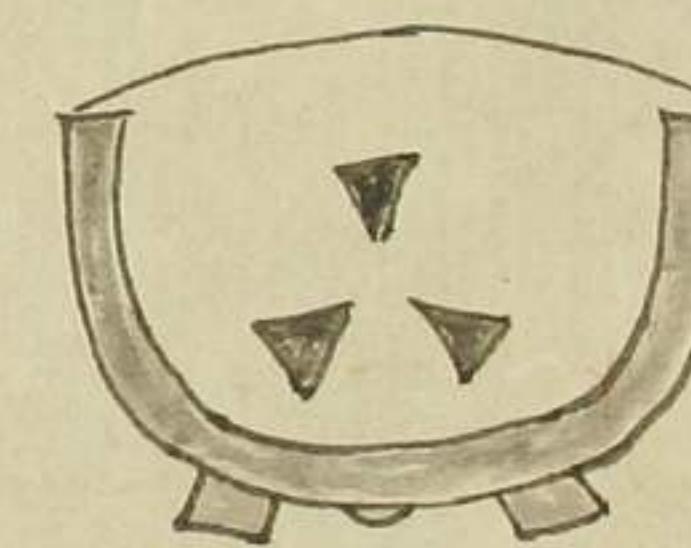
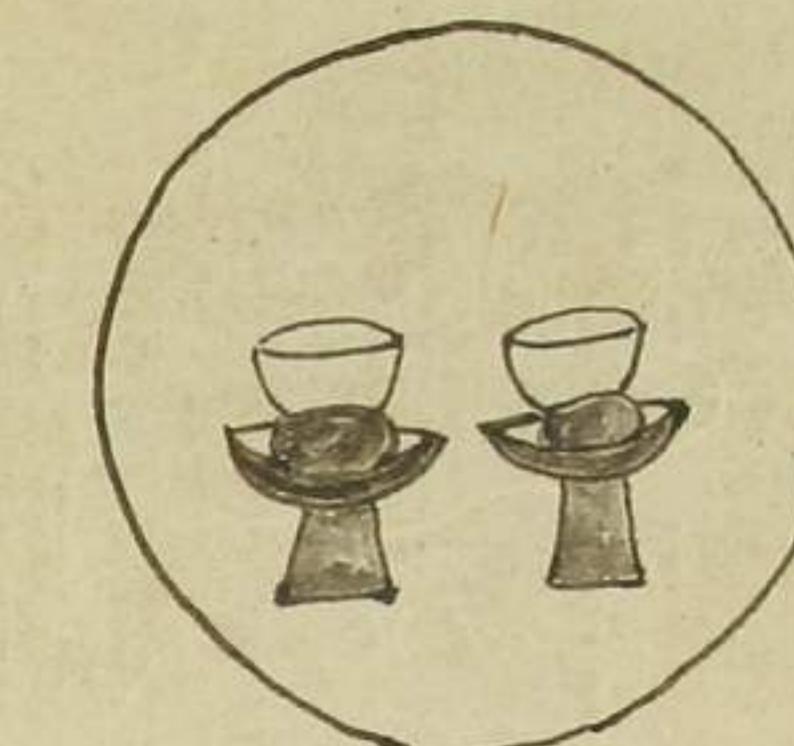


此は前ハ一青、小指わも細く、無事、主柏枝  
ぬ柏枝と、主柏枝立能ても、主蓋、主うり  
凡て、急、のけの指事  
の有、主柏枝立てて  
東入東瓶あり、下  
立、アヒ、か尖、とく  
火も、今  
火も、今  
火も、今  
火も、今



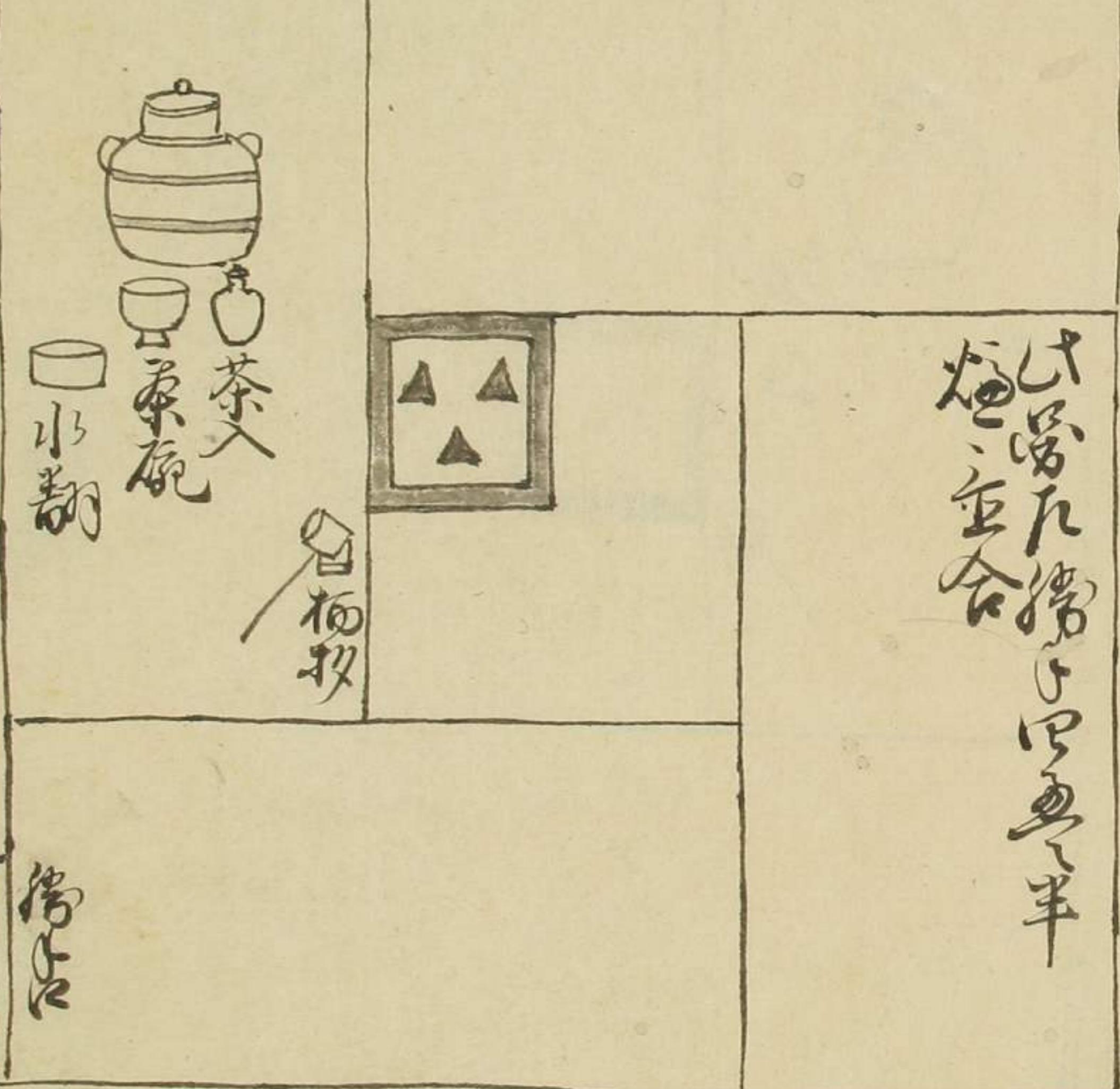
二  
大仕珠多  
竹物え

秦牧齋のハルの口で  
同人月記の所とて  
はるかにうきよ  
のうきよのうきよ



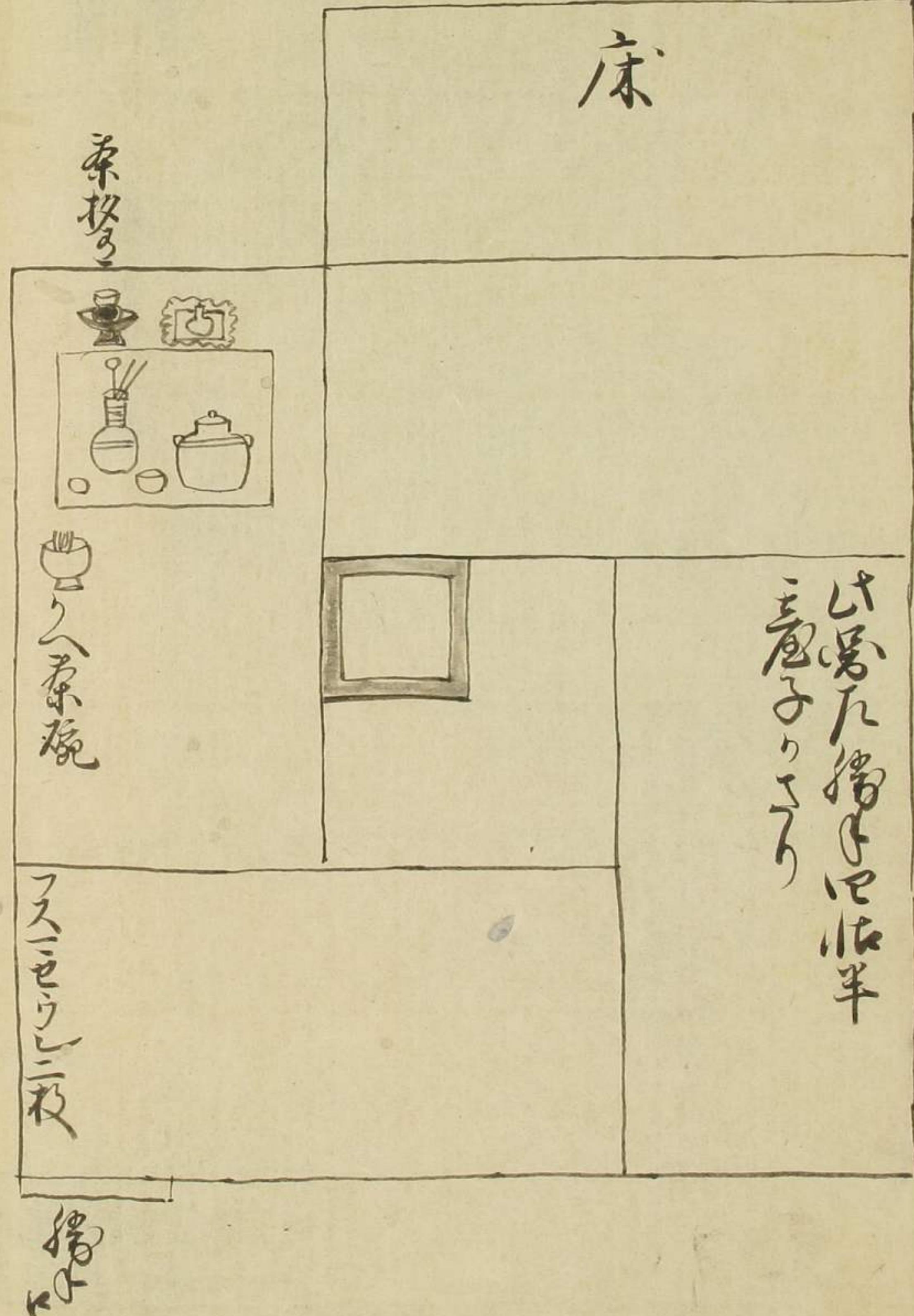
卷之三

床



じゆふた寝ふとひ半

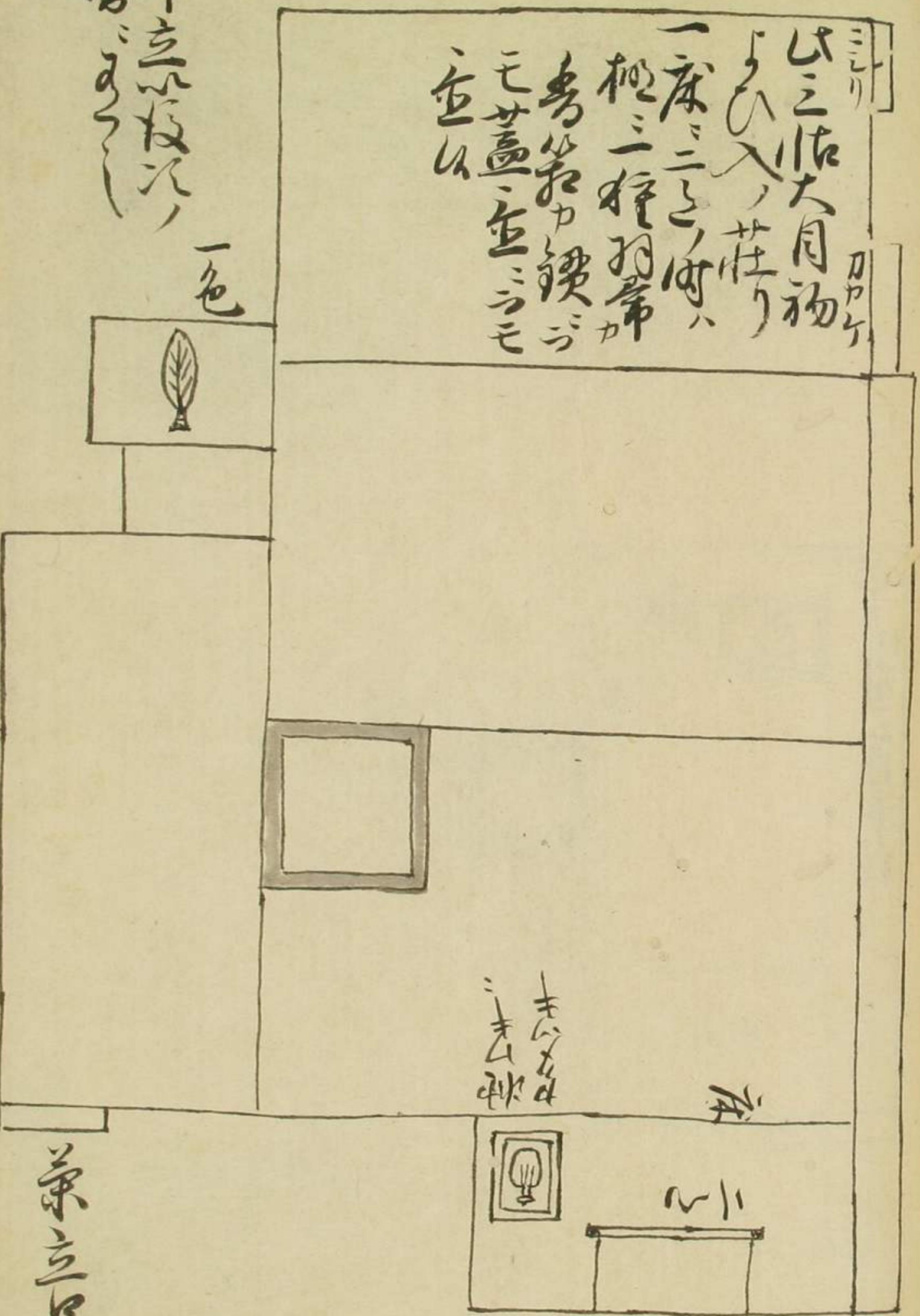
床



じゆふた寝ふとひ半  
主意すりこすり

中華書局影印

一色



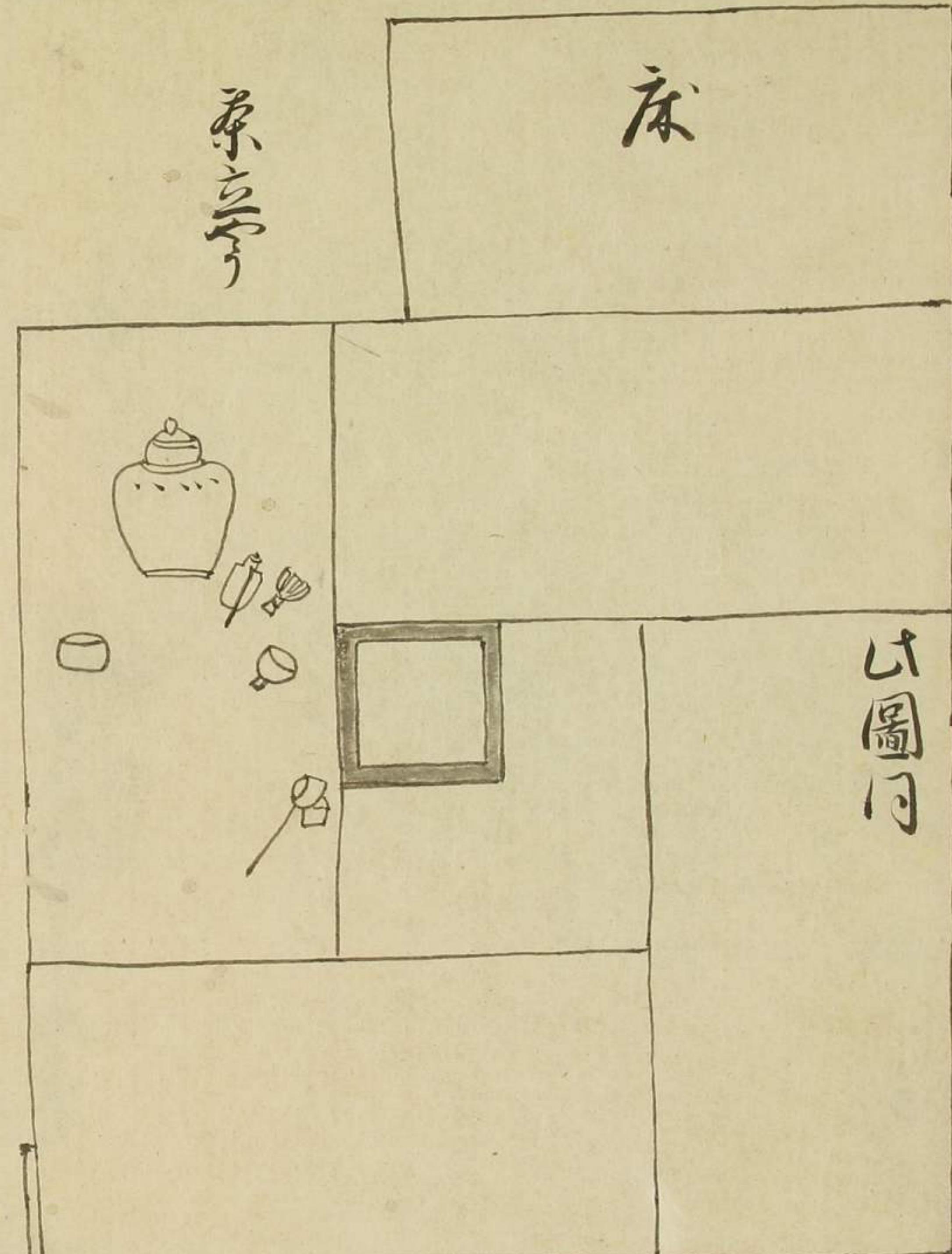
卷之二

卷之四

一一

卷之三

床



卷之二

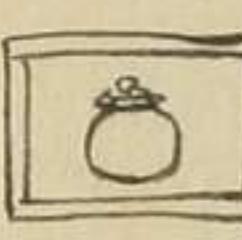
は嘗右中立

以



○蓋立

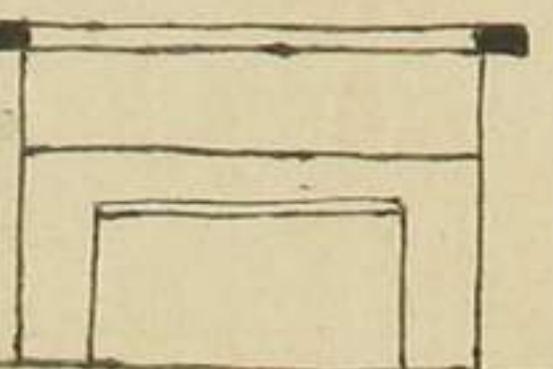
九角



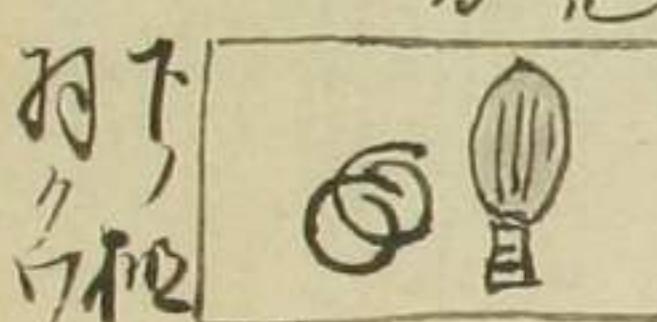
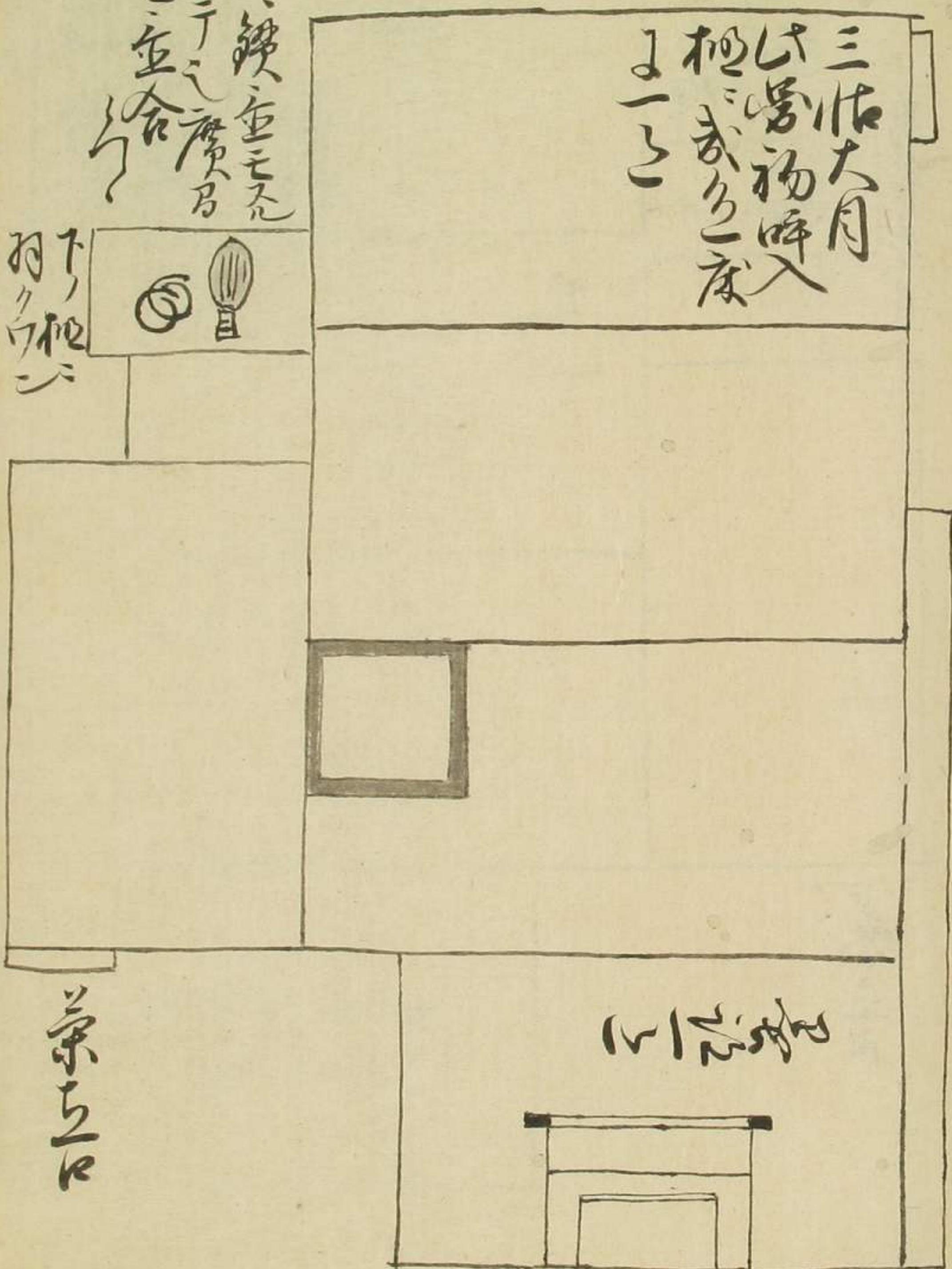
四引之月半瓶

三八十八月  
は嘗初辟入  
極ごく底そこ本  
よこと

三八十八月



茶碗

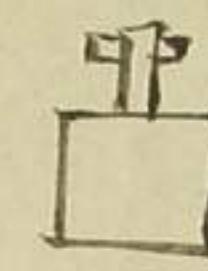


ノイ方々鍵金モ元  
羽ヨリテ廣乃  
モ何モ立合給

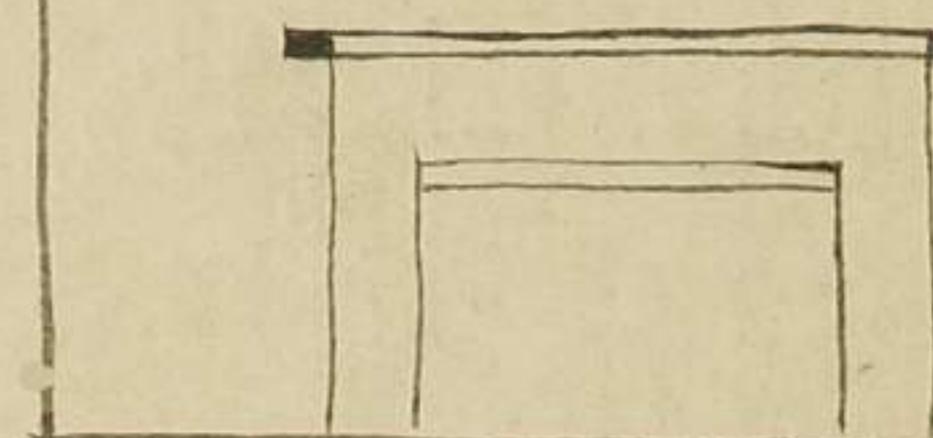
三底  
楊峰入底  
一上加二  
水經

アラナスハタク  
ハミウ立

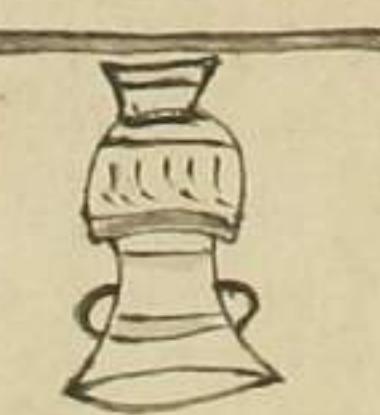
方器度斗



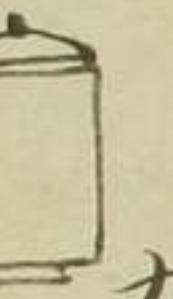
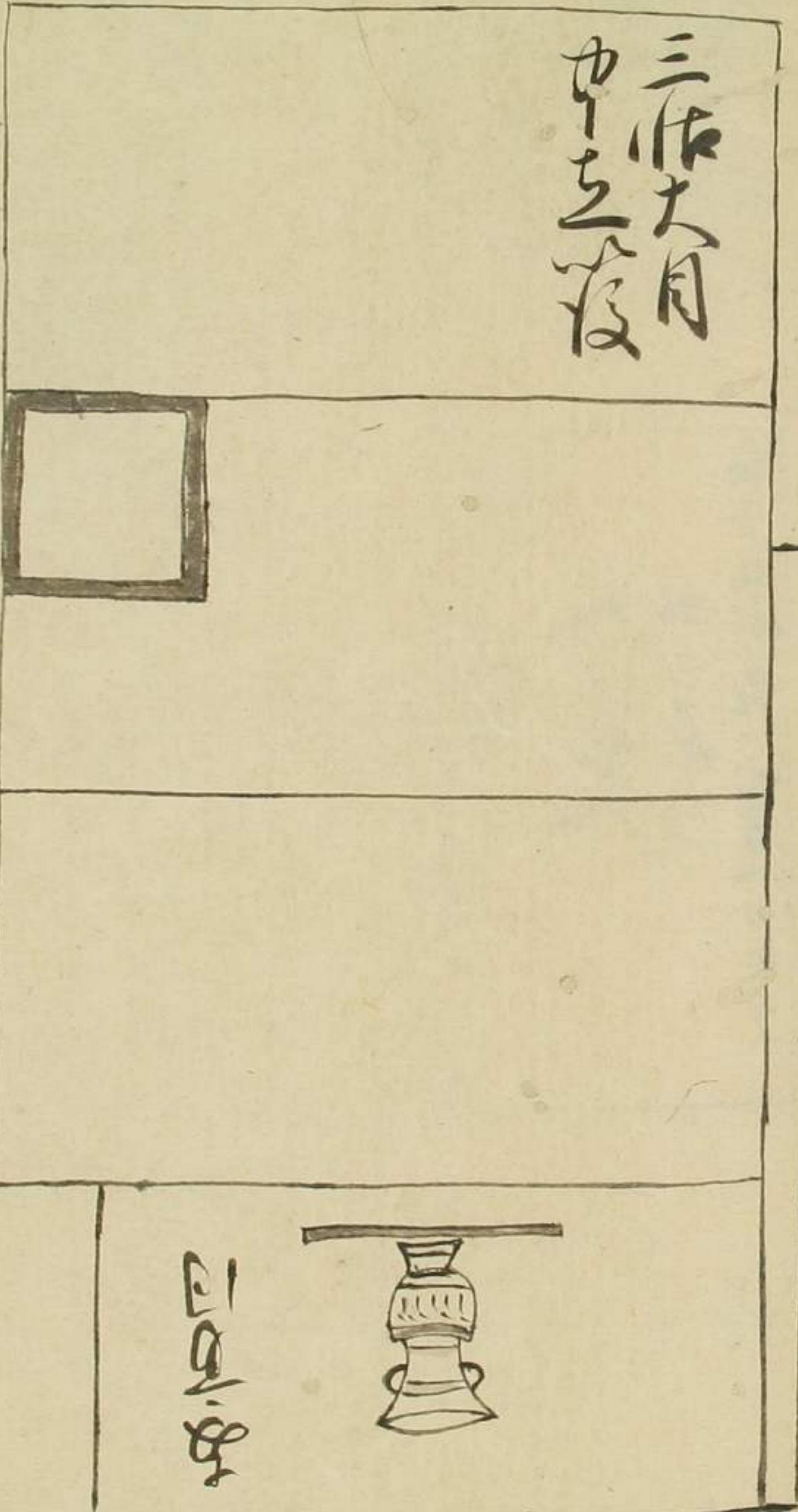
東立



三底大月  
中立夜



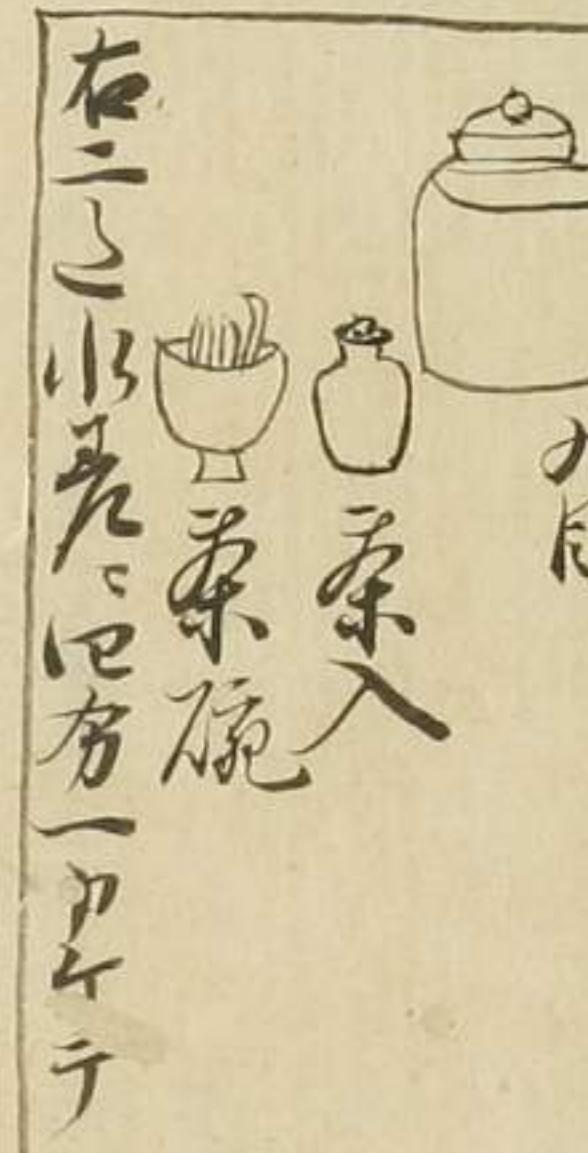
日立



九月

請

此處中立  
以役



此處三處  
月中立  
役中立

タシケイ



九月

小指茶入ノ月

西抄本

一月二月三月四月五月六月七月八月九月

茶立

上半  
中月  
大

卷之三

半

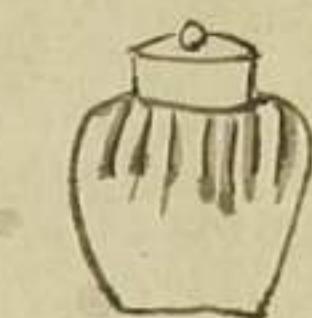
二

四

乙

通  
七

柳葉枝



九同

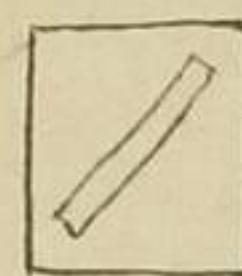
卷之三

是ハ既と月夜を御國アヤ、リ三  
度大ニ考リシ此事は時ハ久テ  
モ此ノ主ナホ

卷之三

六萬之處

吉田の焼、佐倉の



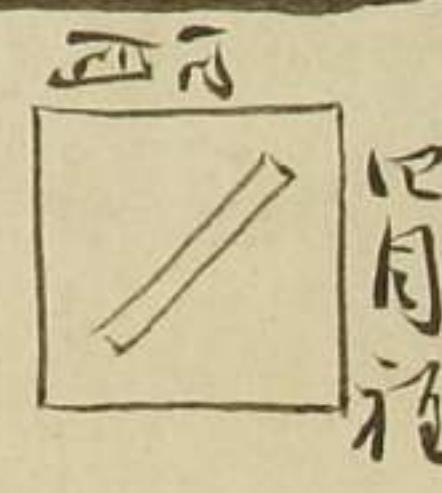
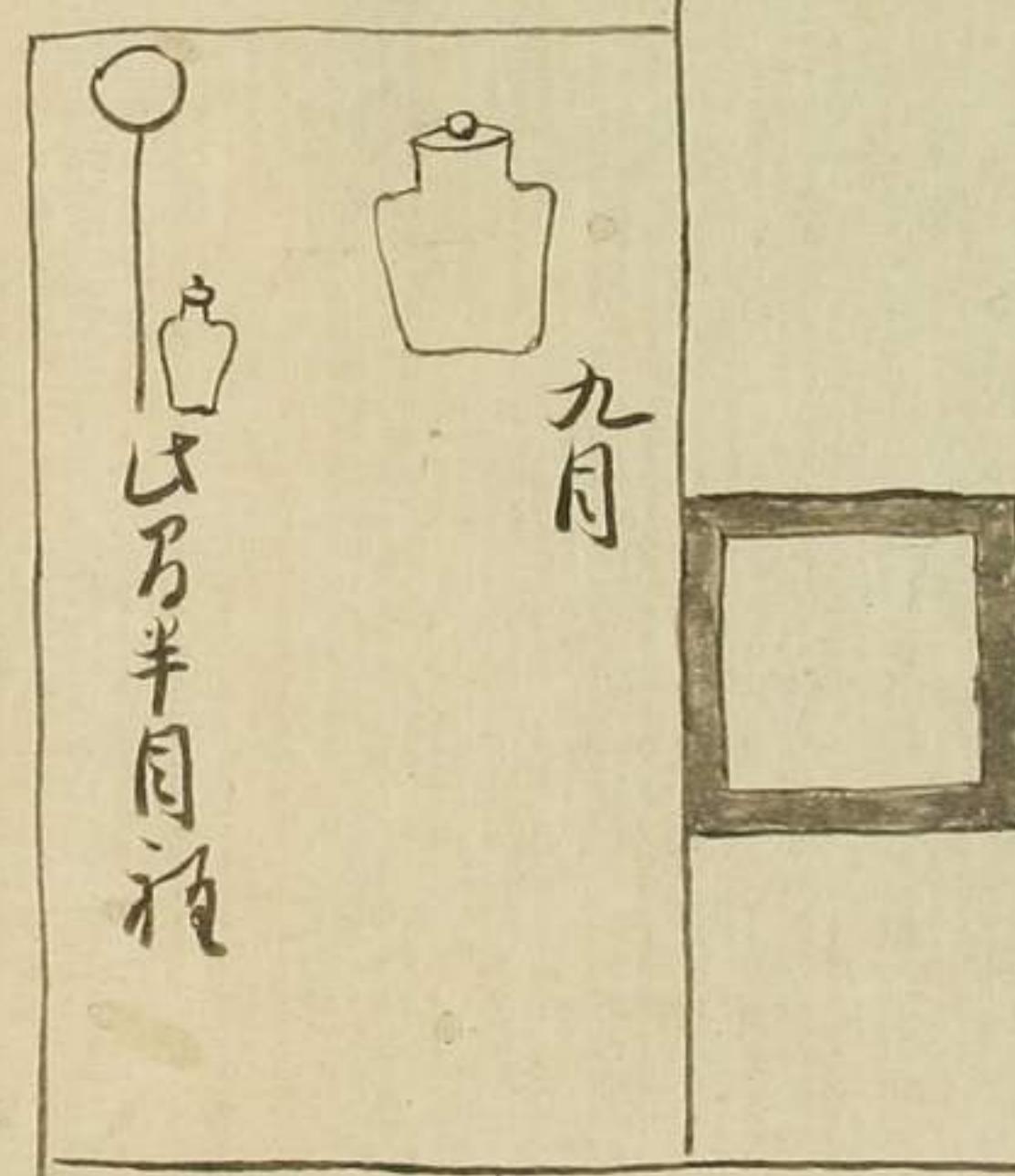
九同



茶入蓋立而散  
一月三日

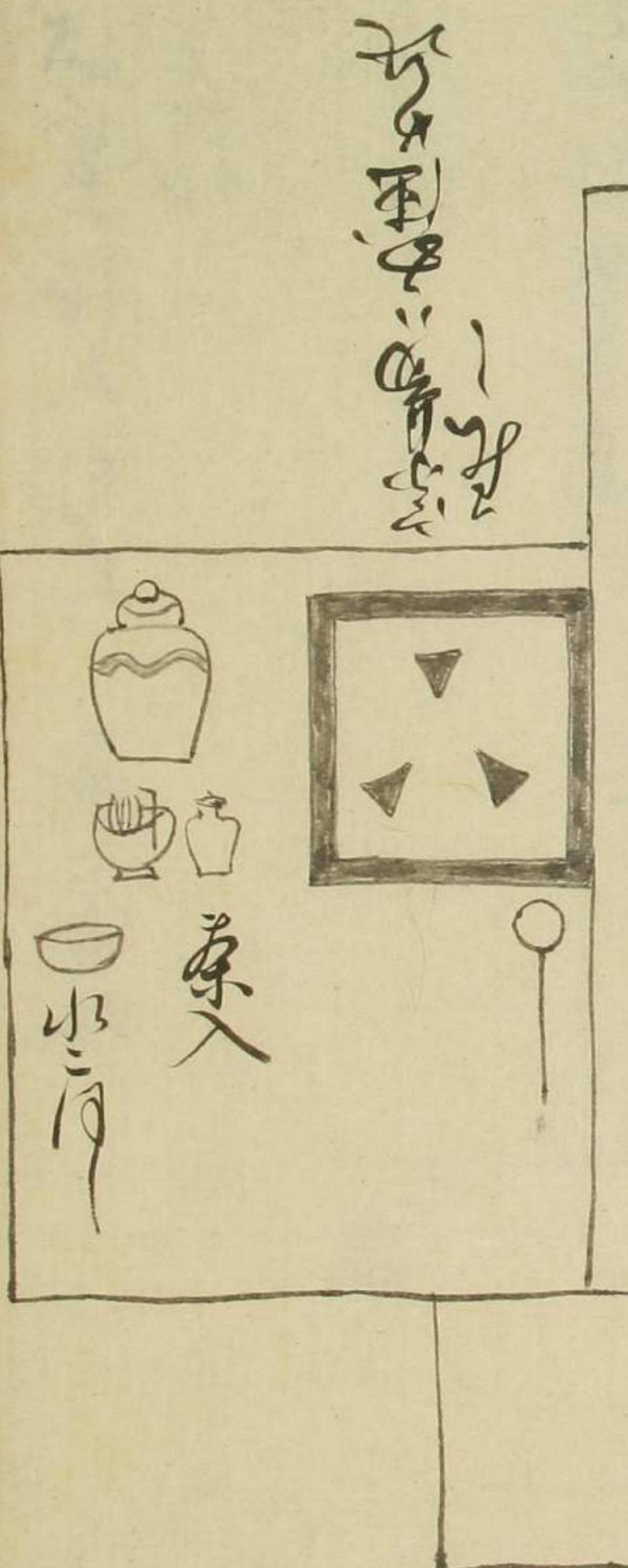
己卯三月半

此圖中立  
八段



はま一はん角入小丸ノ半角、索瓶  
茶入桶放せ蓋立ぬ、内  
お金索ちし仕向犯次、  
喫す。

床



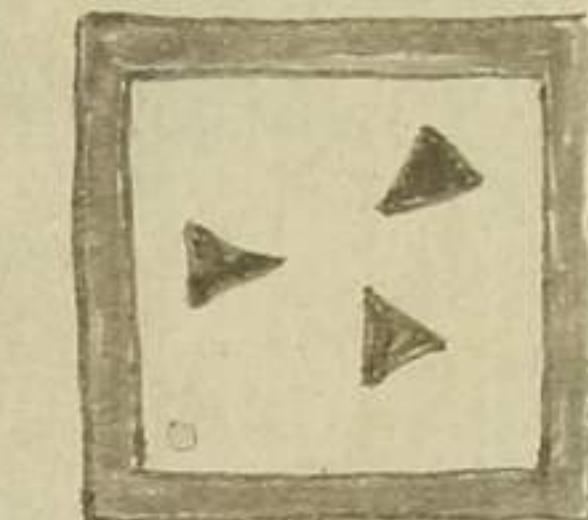
は第一帳大同大通之通重元

立根

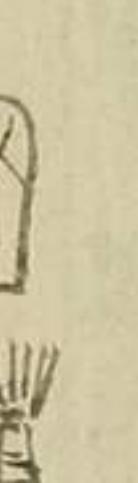
床

墨子  
アガハナ

○よこせ



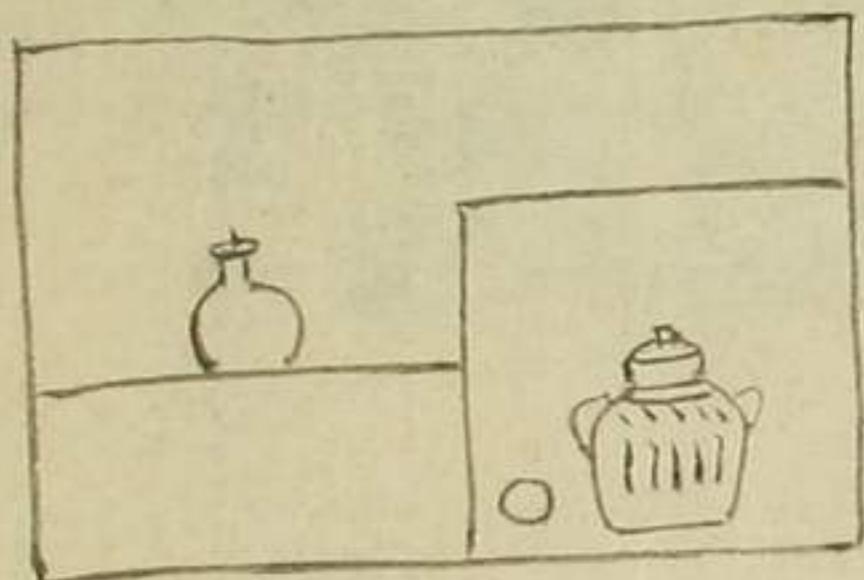
○の翻



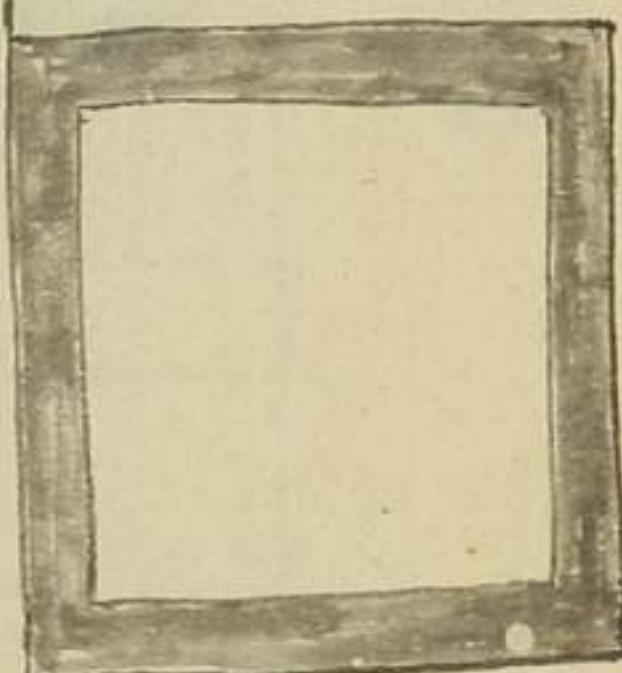
や袋桶水指首は三方同前、蓋入前ね  
支方四脚、角桶、指板大もど、三重え  
蓋、立小板、方、ゆうせて  
前小板ノア  
もじろく

炉うちと桶ノハスナ

七此弓

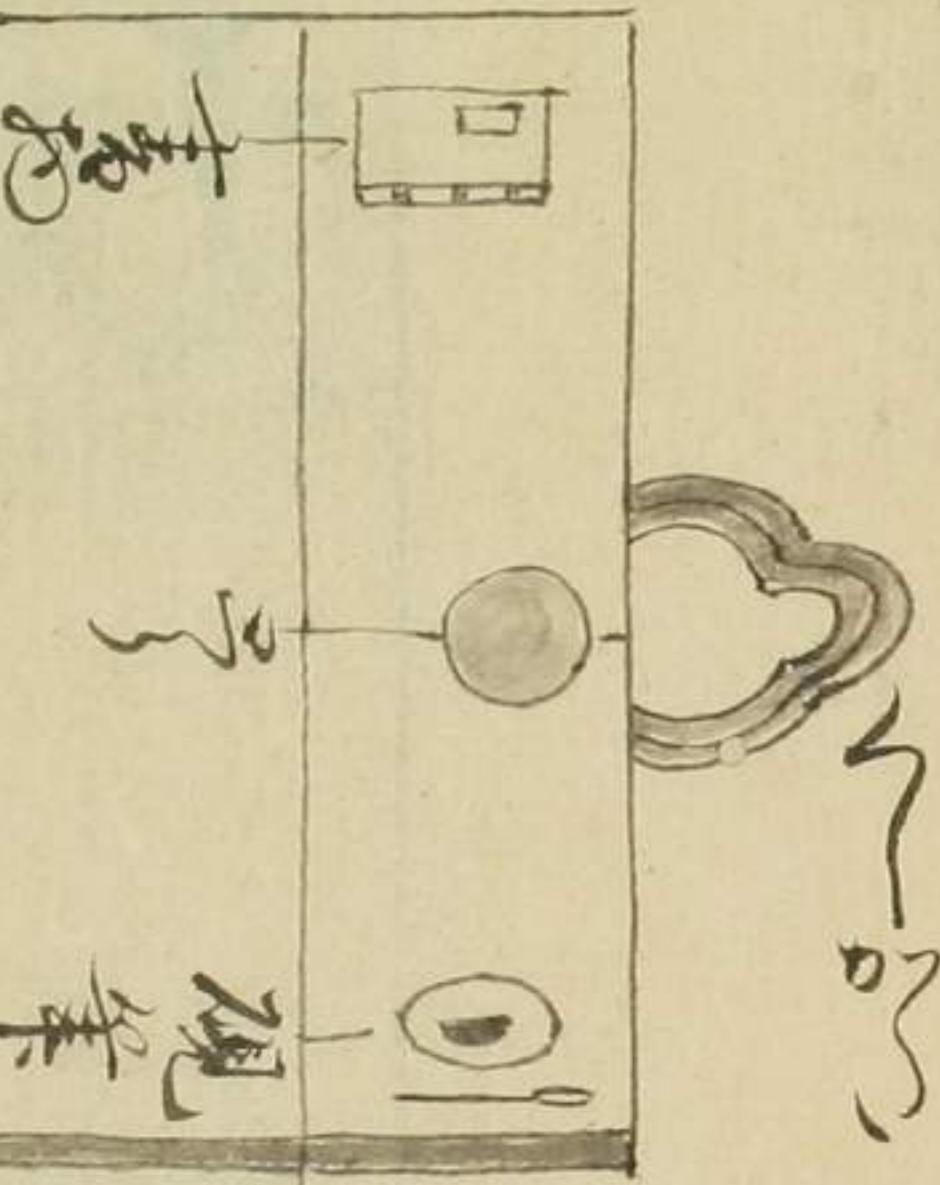


八弓五弓



書院

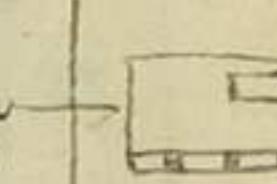
前上



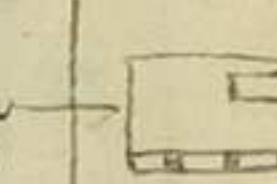
墨

研磨器

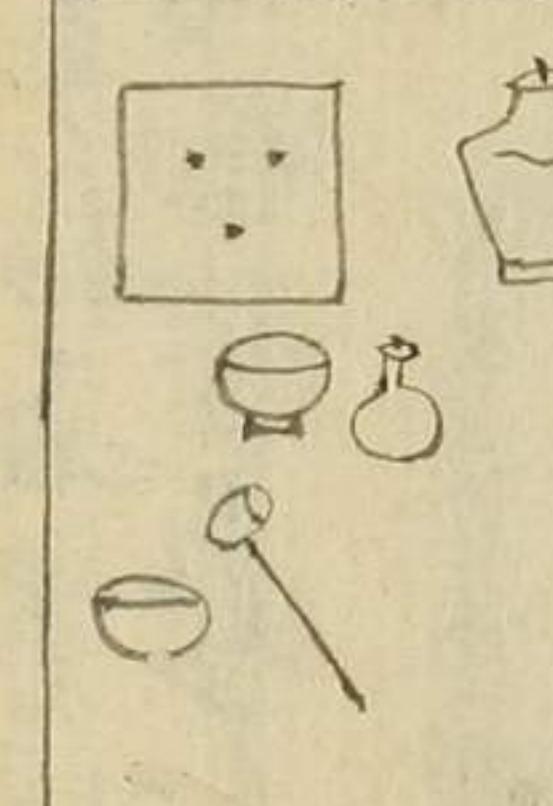
墨



墨



墨、研磨器、筆筒



此是風流雅致  
小物也，用之  
承瓶承入在

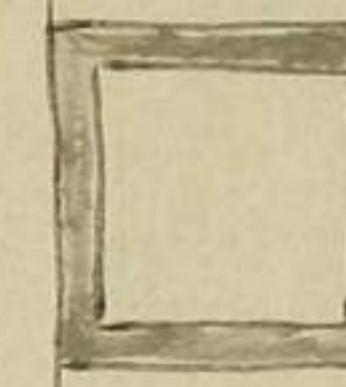
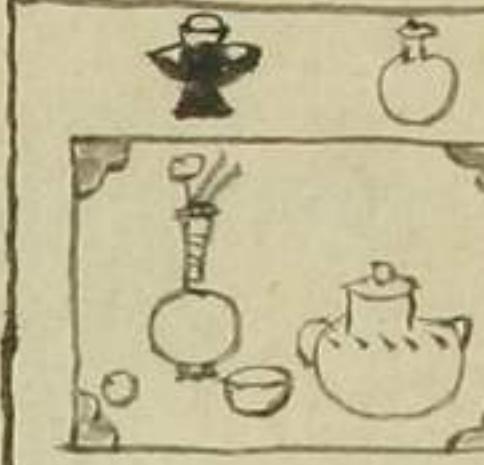
水

承瓶

承瓶

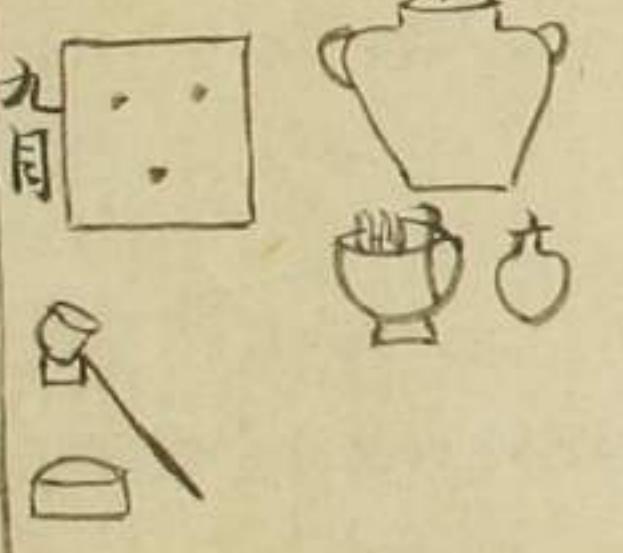
承瓶

茶松アラ  
ナ



此風炉  
中立役

11月、御用中立役



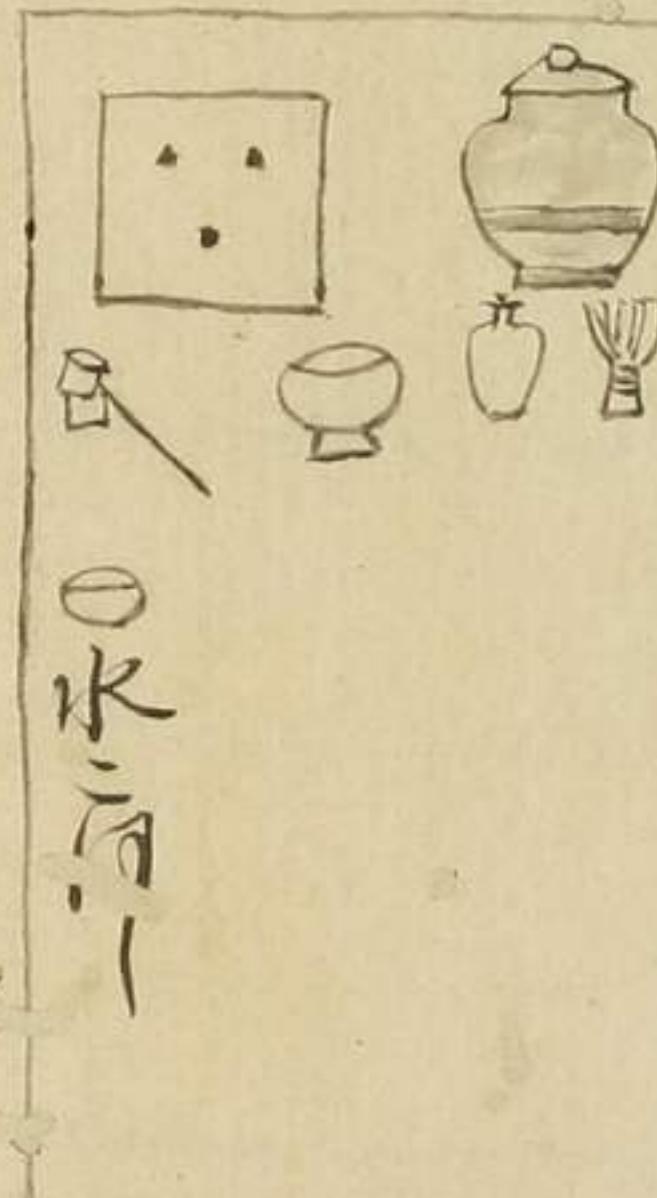
九月

八月

蓋立竹檻ナラ  
月ヲノ前、月三日ナラ  
一旦ラニヘ、柄秋リ

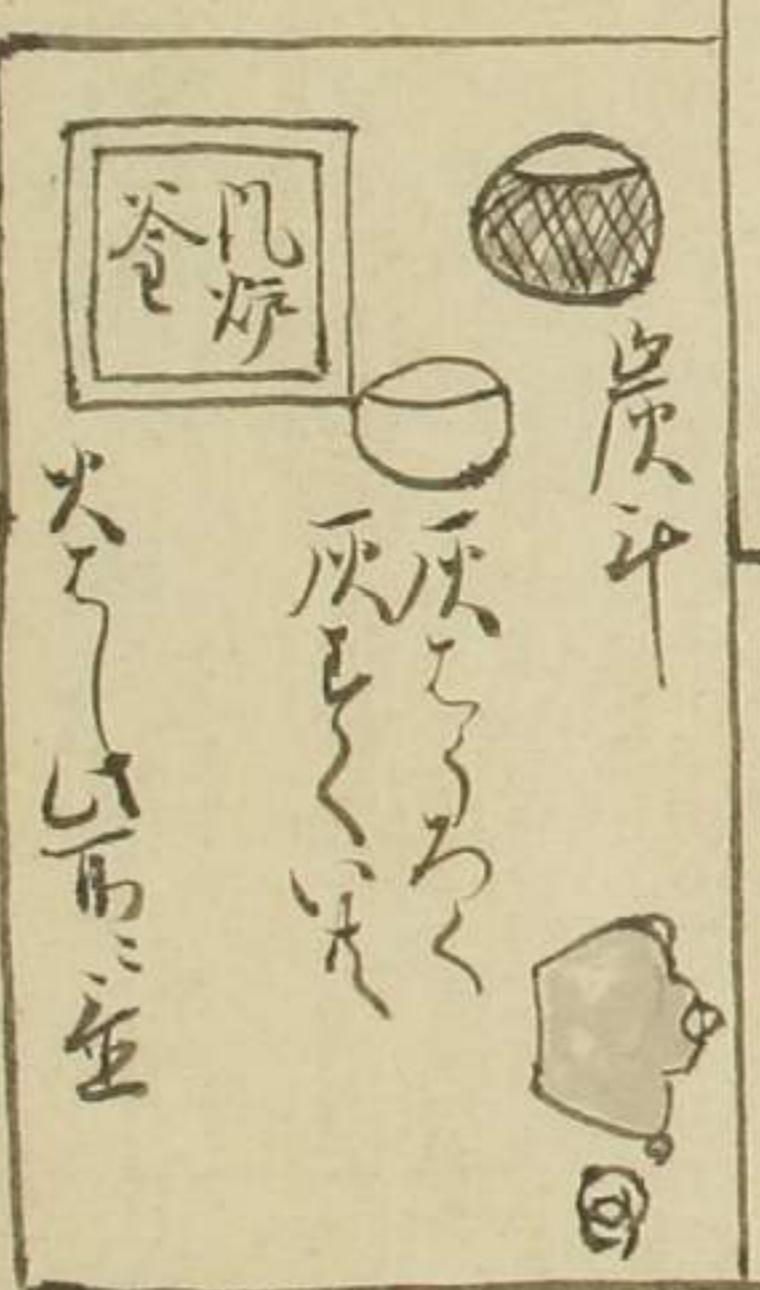
火器  
中立役  
茶室門  
火器

茶室入小  
中角茶碗  
火立役  
角  
御物籠

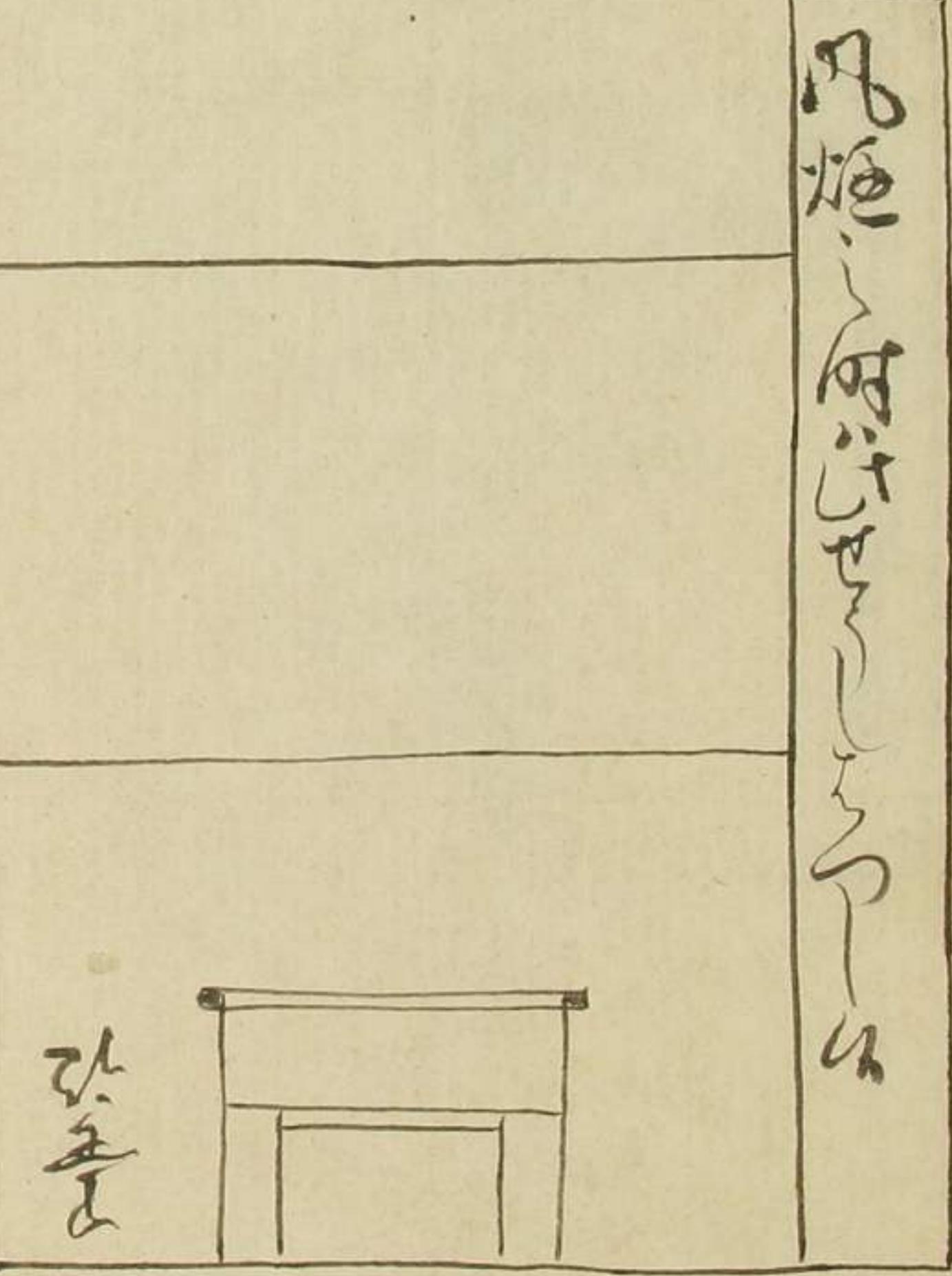


床

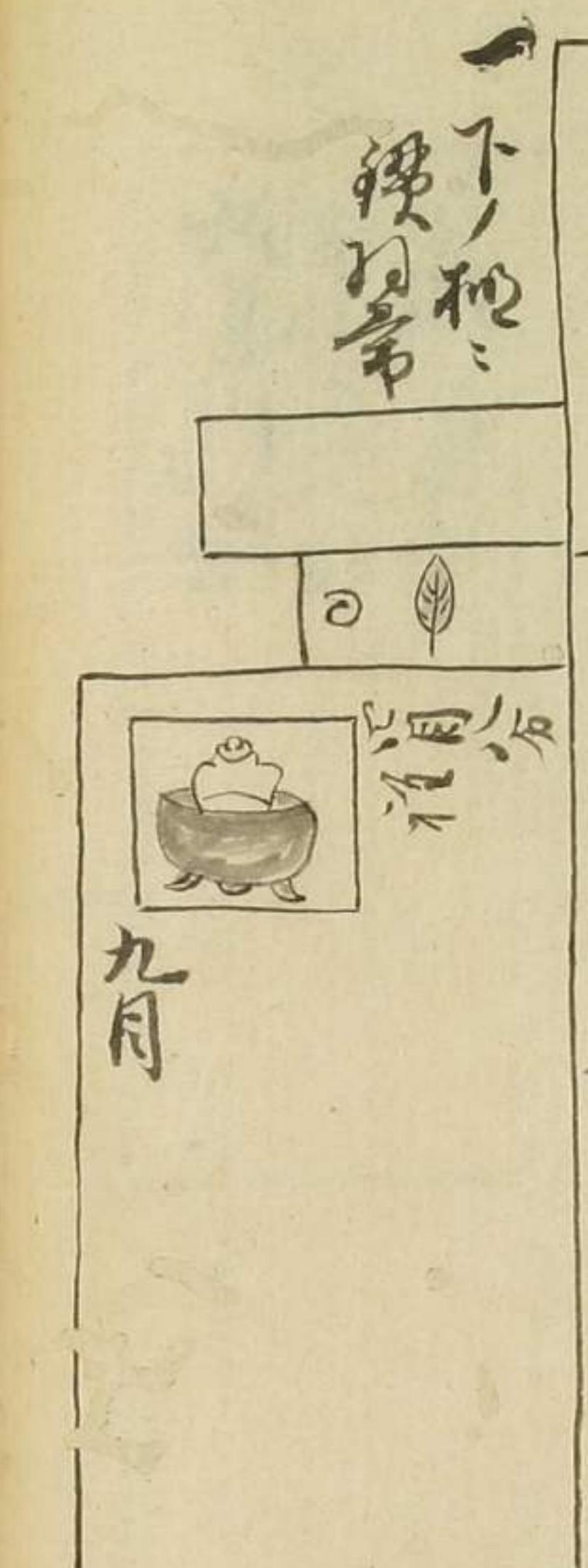
火器  
中立役  
炭金



呼入  
口鼻內極熱

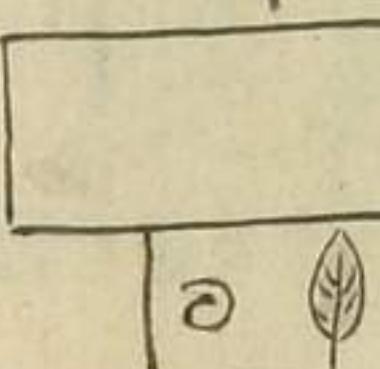


口鼻

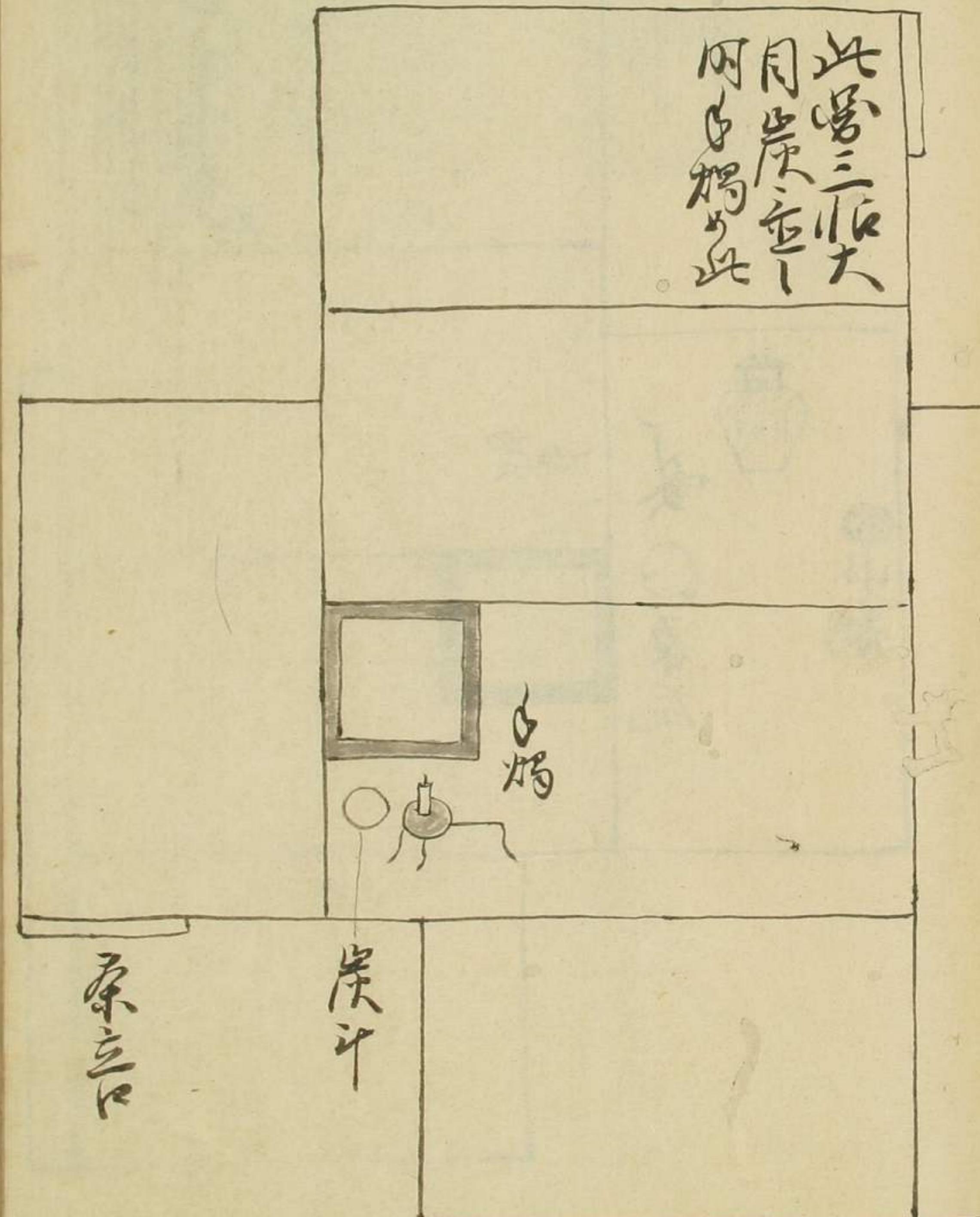


九月

下  
煙管



口鼻



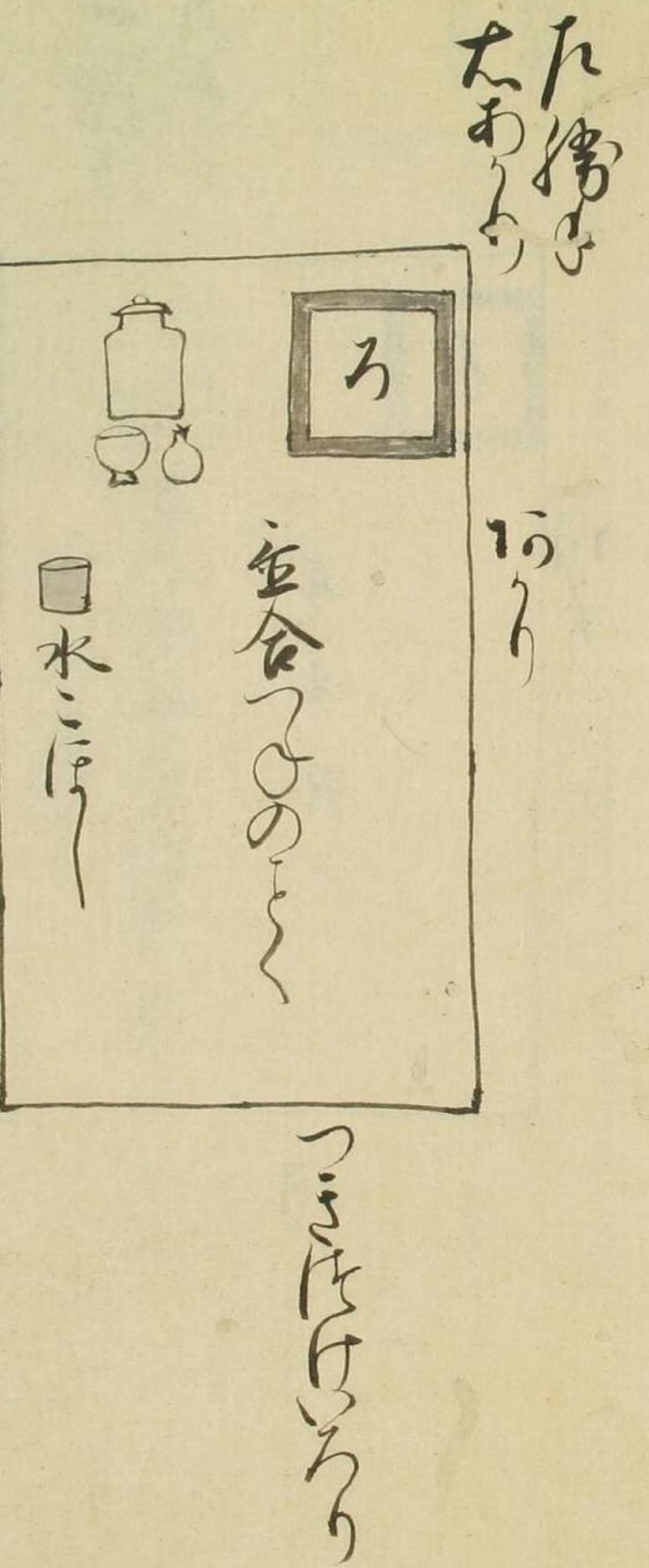
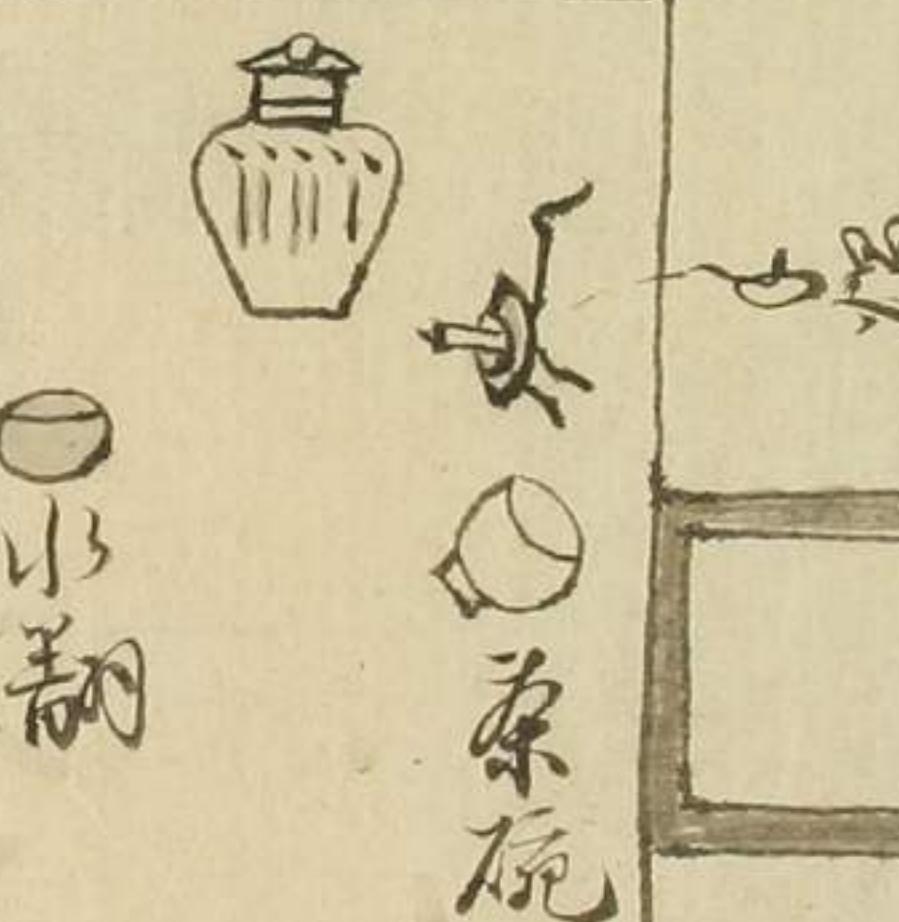
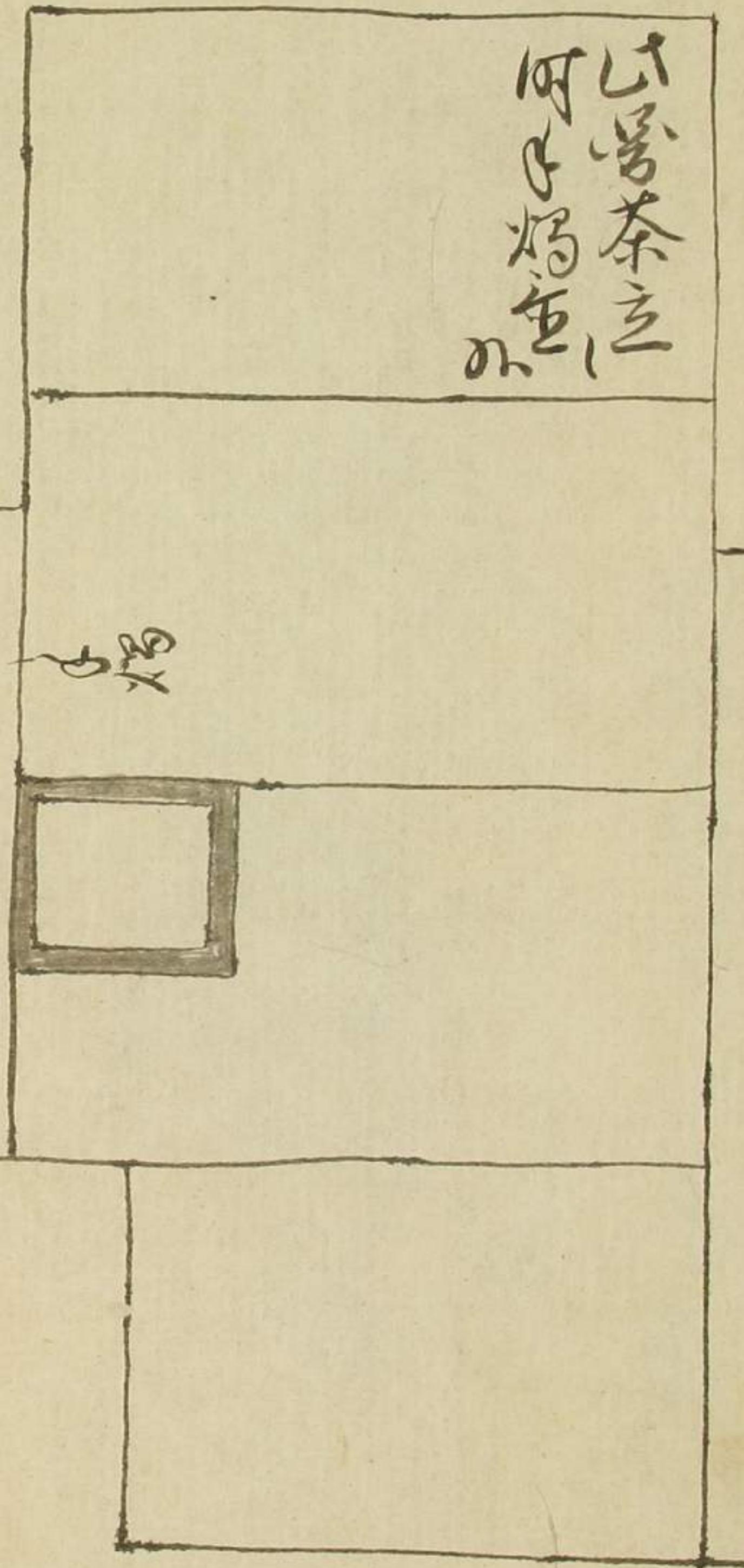
口鼻

炭火

此器三面大  
同炭火一  
同火此

火

じき茶立  
阿子焰毛



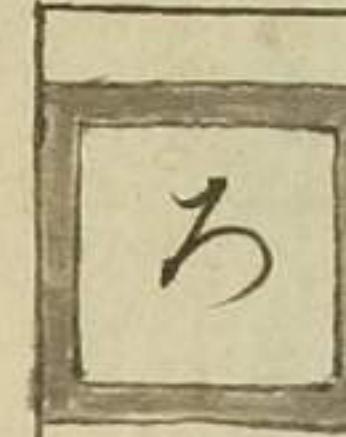
石擣  
たあり



茶入茶碗、古器等と有る

口あくゆ

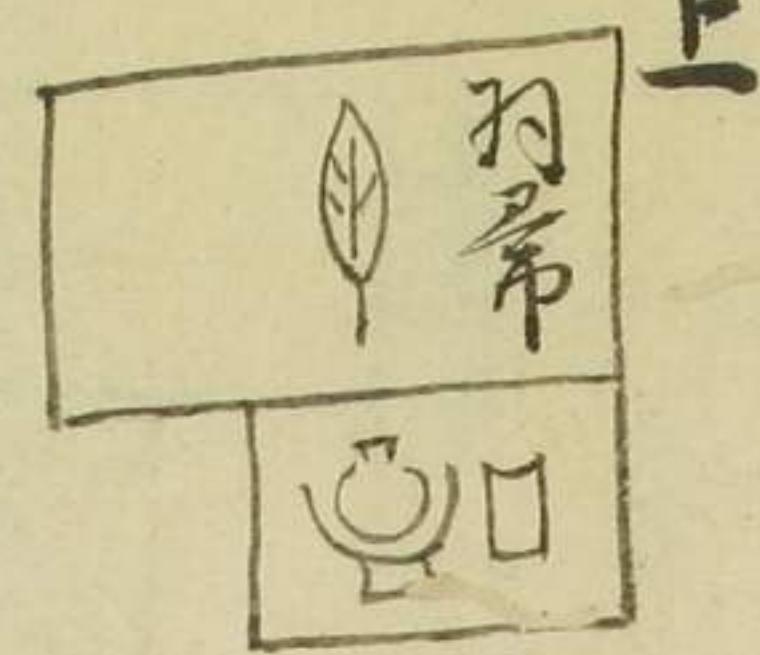
口



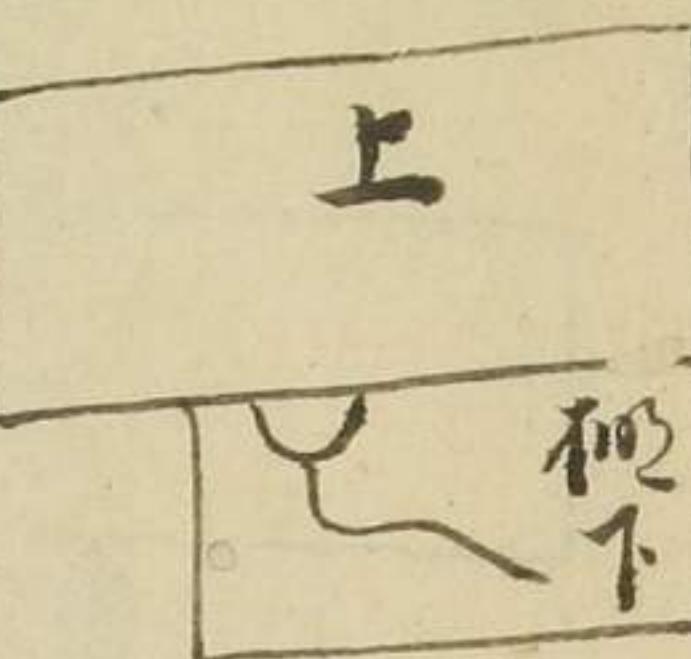
口り

口あくゆ

口

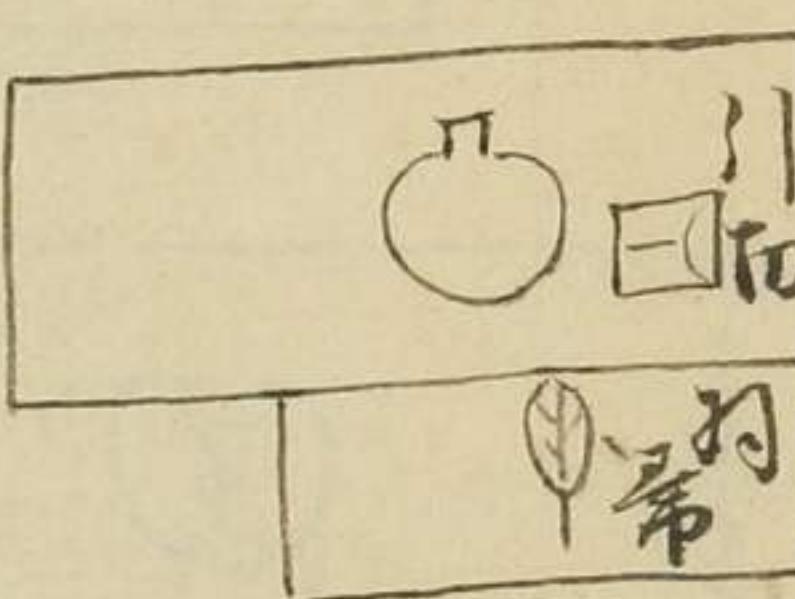


上

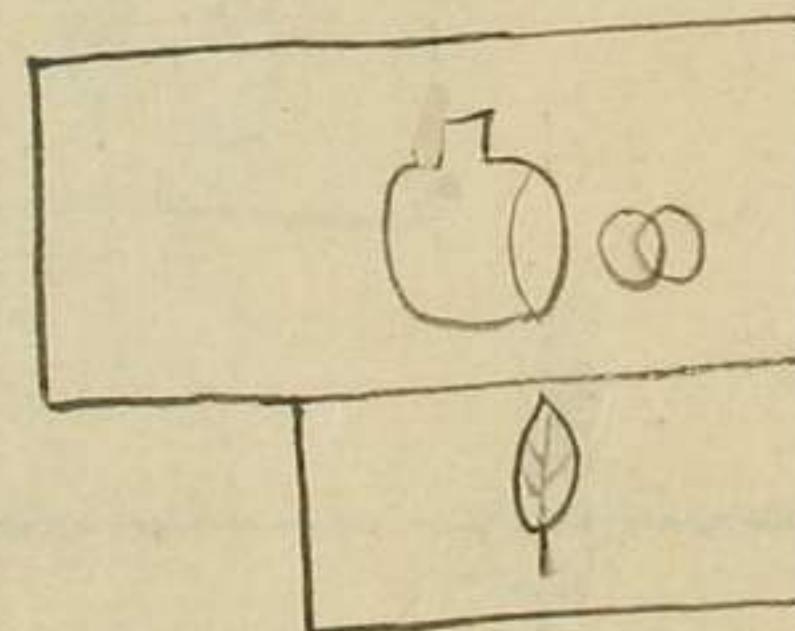


上

下



羽扇



○

○

炉の前

几帳とモ燐

炉の前

コウキ

小指十二月廿年六守半

肩半

あさき

壺

口

口

口

口

口

小指十二月廿年六守半

あさき

壺

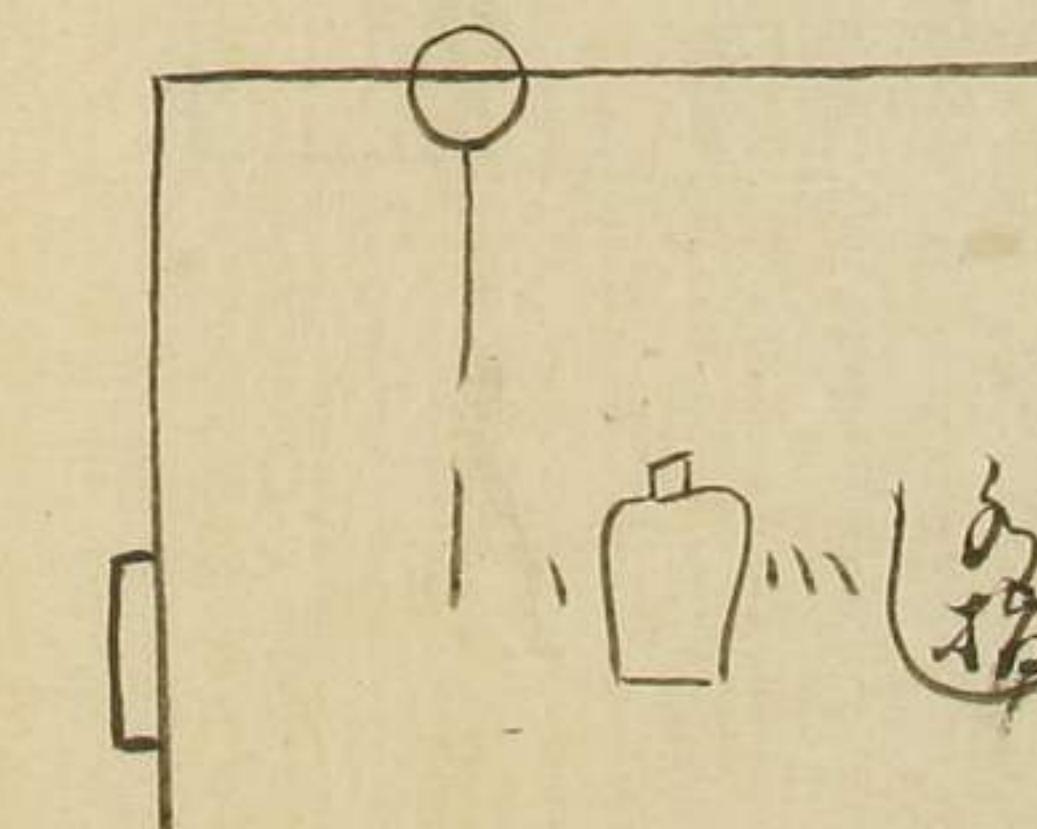
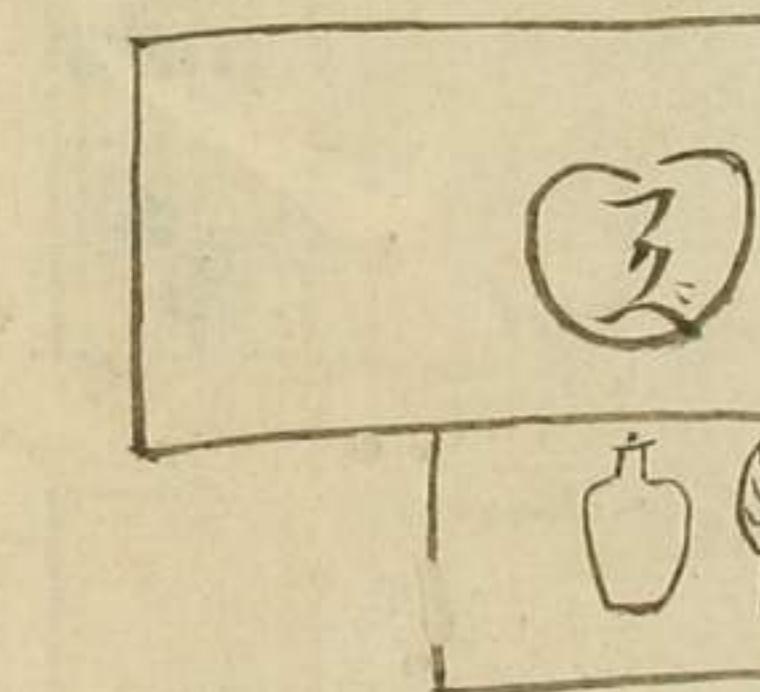
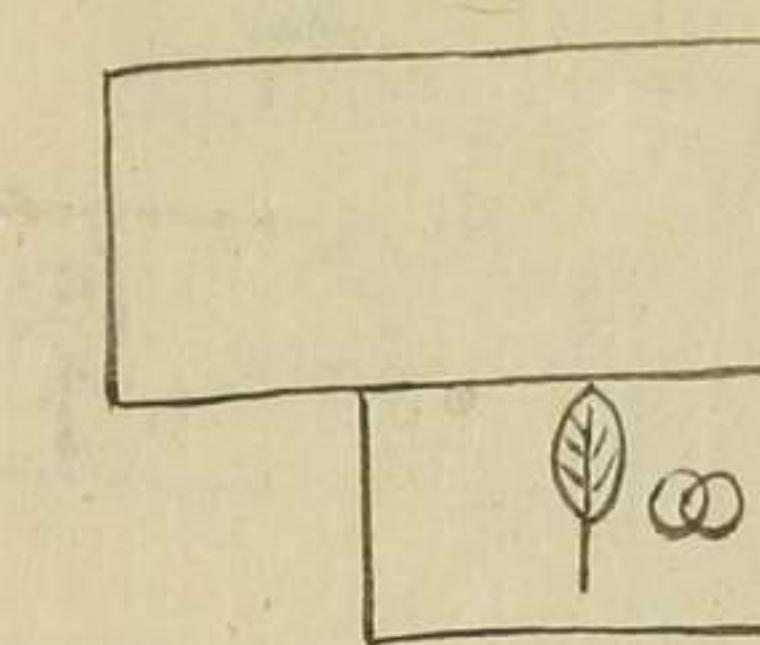
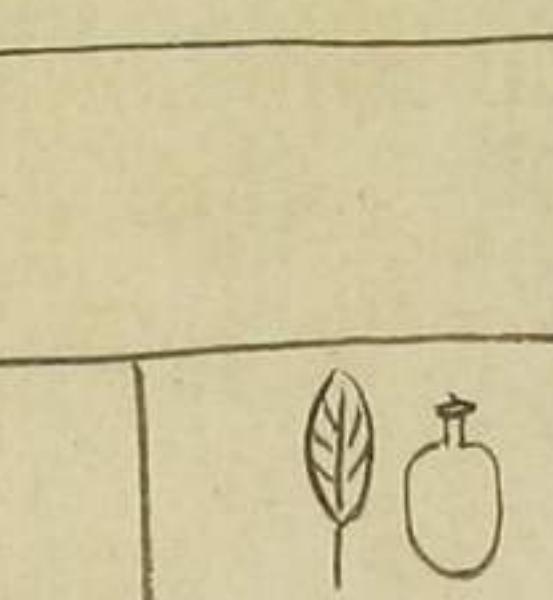
口

口

口

口

口



肩半八肩

リカヒトアラケテモ

煮

口

口

口

口

几帳とモ燐

麦床、荷物を

の

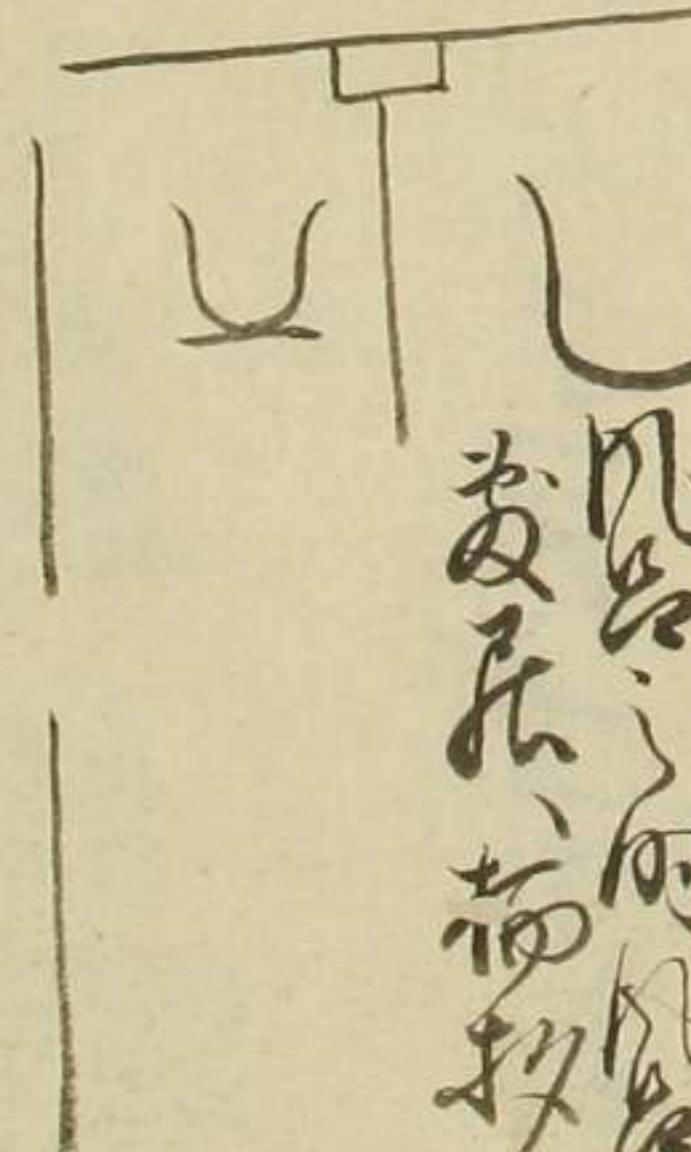
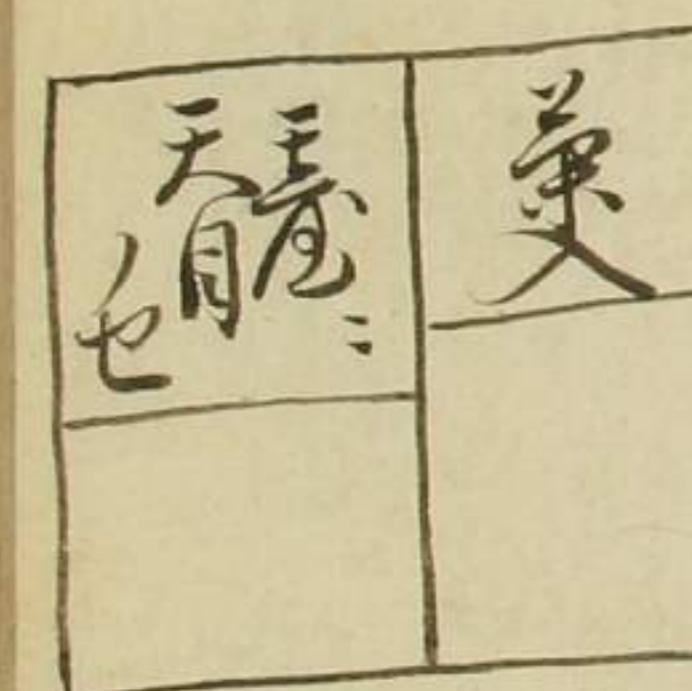
方へ

中指六十二半

水指と凡火ノ另肩半

凡火服小板と九肩

風炉先六寸四守半



方へ

一  
一  
一  
一  
一

をわ打壁（よの）すと天井（あまの）をすつ

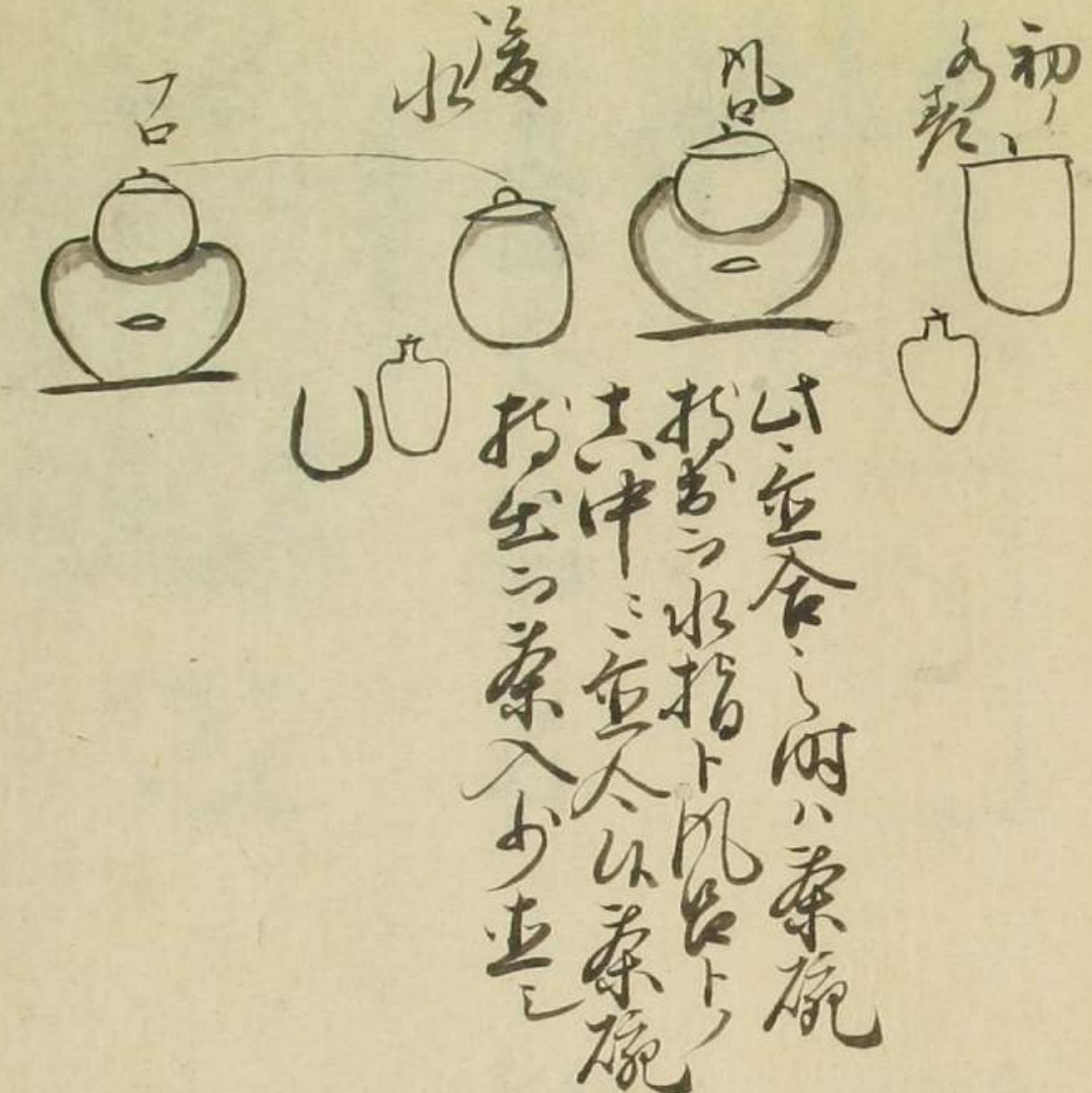
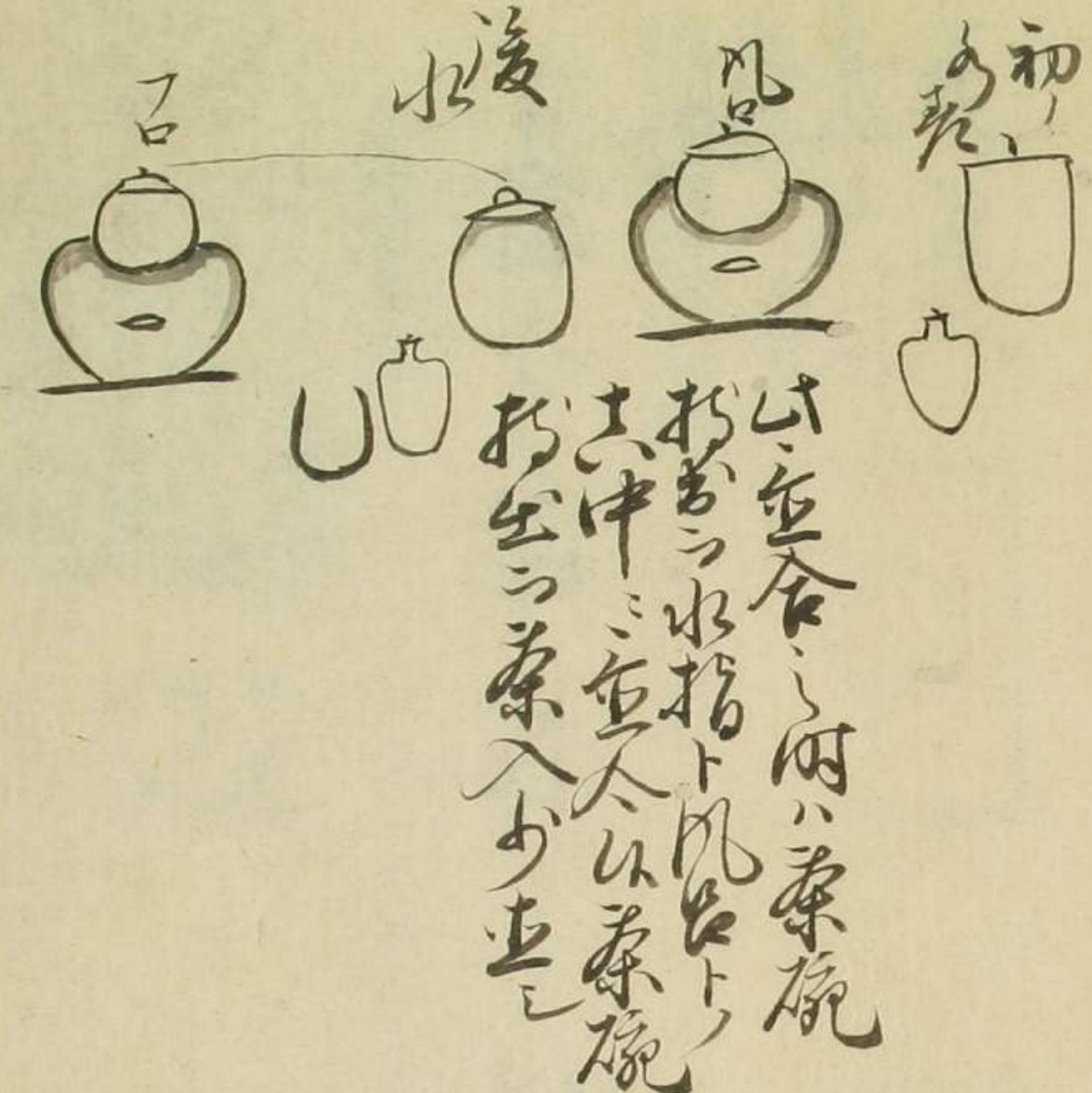
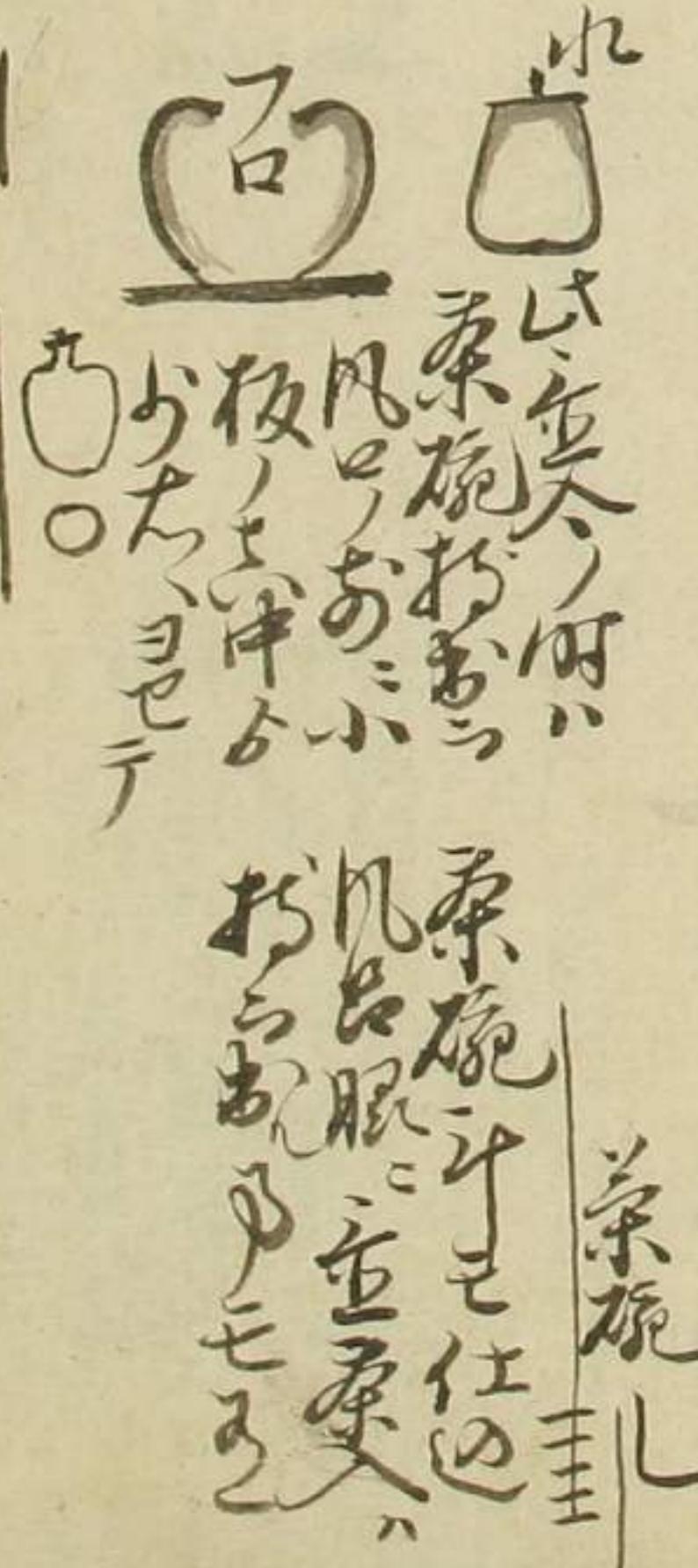
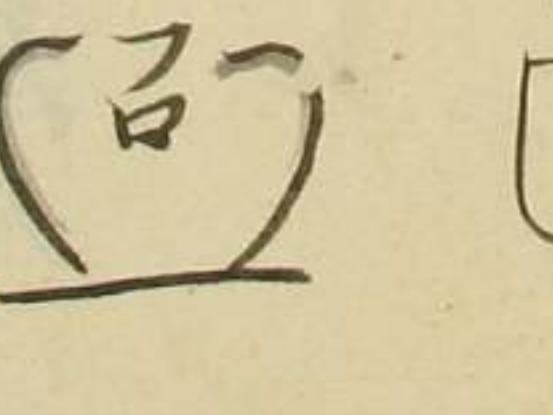
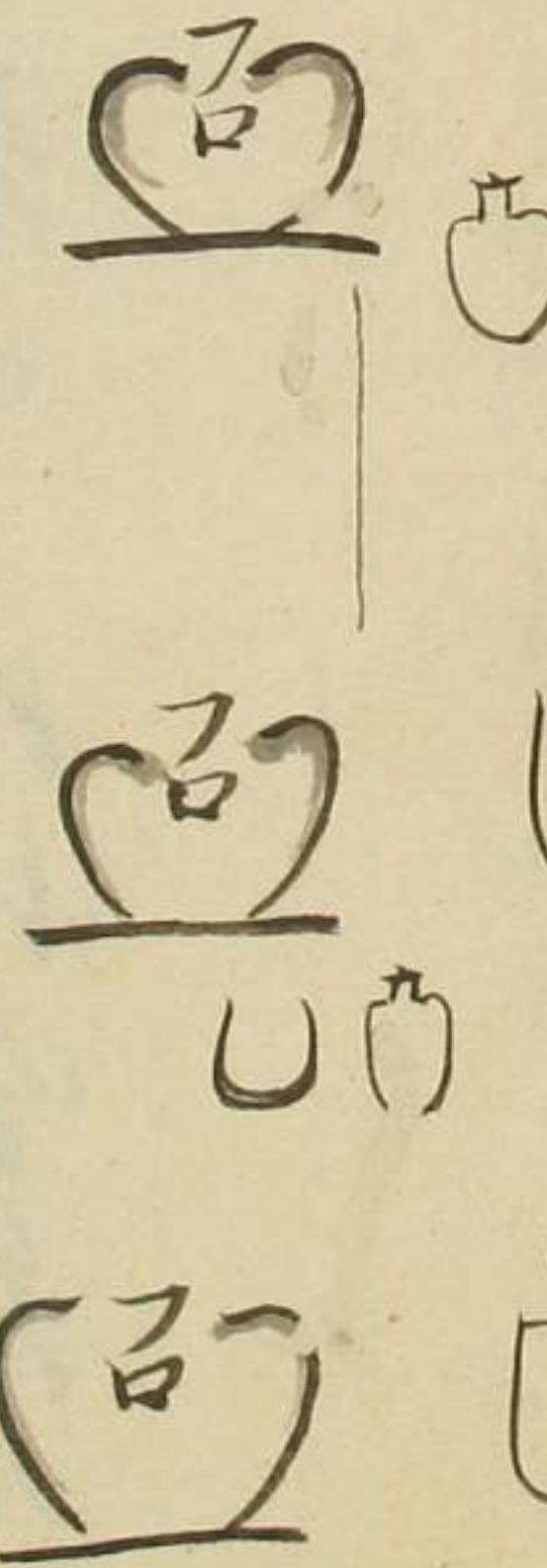
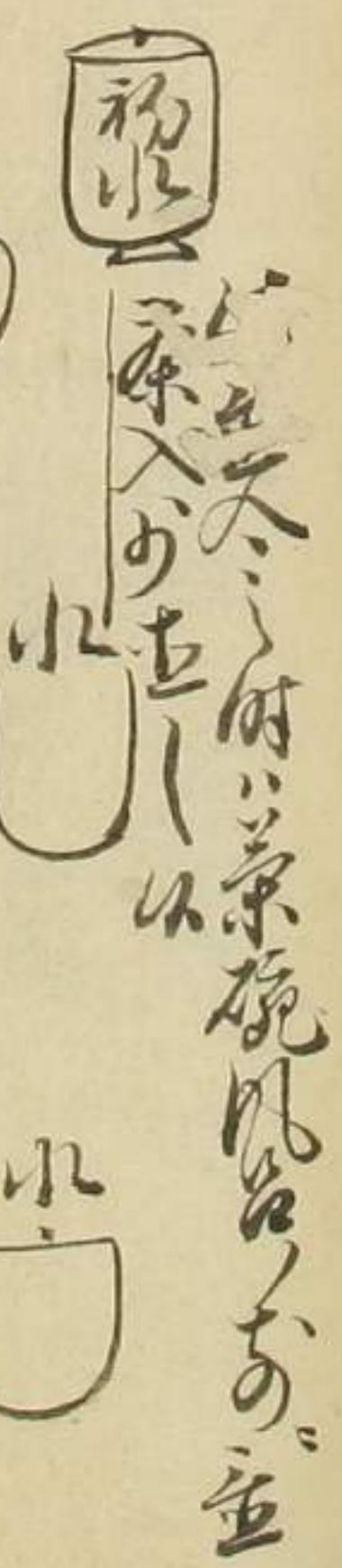
但（ただし）ね（ね）か有（あ）

中柱（なかしゆ）に中立人（ちゆうりつじん）が茶碗（ちゃわん）下（した）を打（う）三寺（さんじ）ハ四

すり

床（ゆか）に地主屋（じしや）お打（う）三寺（さんじ）一すすり

## 風爐（ふろ）之付



卷之三

A small, simple line drawing of a bottle or vase, oriented vertically. It has a narrow neck with a small cap-like detail at the very top.

卷之三

卷之三

A small, circular, light-colored object, possibly a seal or a piece of debris, located at the bottom right corner of the page.

卷之三

此度は、前  
京碗と度  
小れりあり、  
食スルに京碗  
が當り

卷之二

10

10

、 )

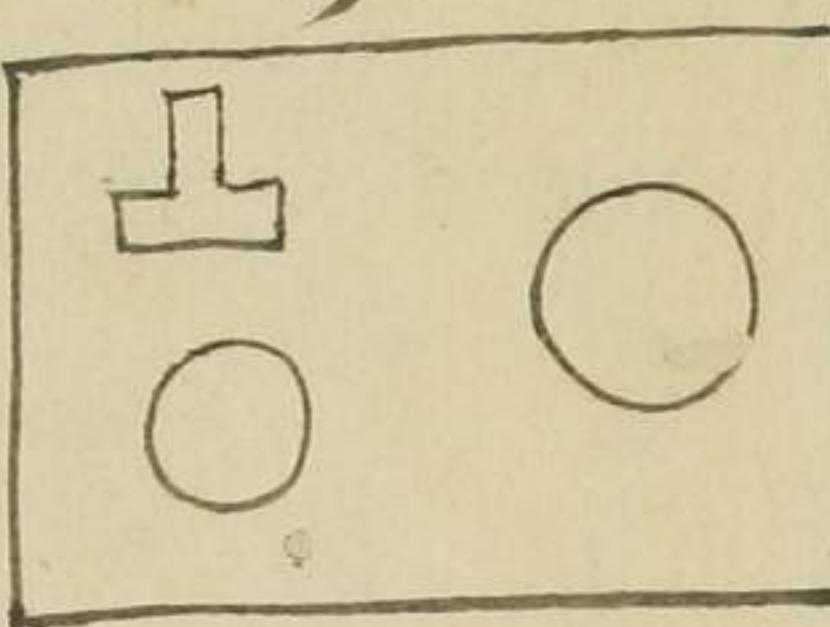
1

A photograph showing two small, dark, rounded objects, possibly seeds or small fruits, from different angles. The object on the left is shown from a side-on perspective, while the one on the right is shown from a front-on perspective, highlighting its rounded shape and texture.

一  
喜  
か  
れ  
サ

何不竟自向於方外絕口人

主：東入  
九、壹  
仙多人  
原教  
工、育



金華

久金、上ノ月十ニ又至、奉入金也。トシ  
大いに、重金、極意、月、ハモリ、レ  
きまへ、一、叔也、奉入貰、お、主とされ  
りて、かま

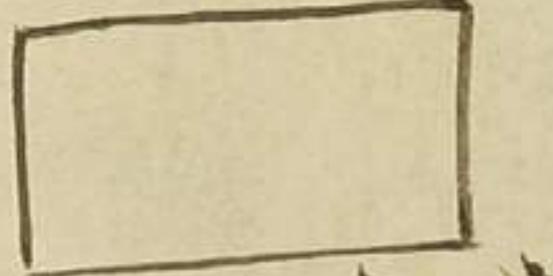
一 小書院上帳  
一書院上帳、先代より承り御座、定めどもあ  
下卓ロウゾク、炉ロウ、毛炉モロウ、押入邊ハタケ、仰敷坐ヨウフクザ  
柏カハ、砍箱カハキボウ、松原マツハラ

一 上垣カミガニ、下床シキ、たて幕タテマツル、小  
くさりクサリ、向久臺カミクダ、と、あ衣アヒ、どうり生ドウリシナ、三番サンバン

天月テンツキ、天月テンツキ、月ツキ、と、さくけ、幕カマ、松マツ、柏枝カハシ、小翻張コハタカ、蓋カバ、立タチ、す、六角ロクガク、上板カミバン、毛モ、  
砍カハ、ちチ、力カツ、毛モ、墨モク、少シ、入ス、たタ、す、こ、す、去スル

卷わる

一  
領も來、内に出来入と老來腕、事常  
入來父も入老來腕た、根、立久(立)  
立大月も久立大、枝、角角(け)て立來  
入立て月在、立久立、枝(う)と立合(二)の  
弓、立久(立)、立入(立)



立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)

天日炉前、立一來入に立、袋も袋(袋)、  
來腕(來腕)、立(立)、立(立)小勘下、立(立)、立(立)、立(立)、  
久立(久立)と壁(壁)の方(方)、月つ(月つ)、立(立)、立(立)、立(立)  
來入(來入)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)  
立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)  
湯(湯)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)  
天日、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)、立(立)

らり拂下、至二月未又二月、秦父又能  
す。おもて秦疏、秦父今二月、湯於秦中。  
かの秦中亦おもて秦疏、入二月未。秦父  
取う秦ヲ入りよとく、法秦立あり、出しある  
仕事も、波レ、ノ何も二月未。家レ、立ニ  
未て月丸在レ、市、立湯入一夜旅、大坂湯  
又入小坂、蓋れ久立、凡、柱レ、よセど、立ニ  
丁目、入秦父主す。又おもて秦疏、入二月秦中。

かの秦中もおもて秦疏、入秦叔中、立柱二月  
と、至京入大、レ、も未て月未。立合水谷、  
ト、蓋メ桶叔中、主、亦のせみ野より蓋メ  
未て月久立、レ、も未て秦入大、立御席秦  
入大、又大、レ、桶叔ひ多々立、レ、也、立、  
支、立、おもて秦疏拂、ル、丸袋、丸小翻取  
翻、立、蓋、立、立、

一  
及未、レ、と、未て月未、た、秦叔秦

依  
家入た。立れ帝へ、立法奉立の御  
事務取扱事務院内、事務官入れ  
候。重及書も直日取次入れ、重令み  
勅下し。極抄ね毛を、至りて重相  
抄、素意て自あ、先し屋事入た、民、よ  
家取家へ水の底、至事入けらる  
事、意て自、汝、重兼抄れやう旨、事入  
事極意て自わ、お下せ極抄れ、各蓋

尤湯入水滴、於亦湯入水、水湯入水、水入水  
也、水之友、水湯一交、交入水、水蓋也、水之友仕  
水前、水之友、水之友、水之友、水之友、水之友  
入水、水之友、水之友、水之友、水之友、水之友  
す、水之友、水之友、水之友、水之友、水之友  
水、水之友、水之友、水之友、水之友、水之友  
水、水之友、水之友、水之友、水之友、水之友  
至水、水之友、水之友、水之友、水之友、水之友  
蓋、水之友、水之友、水之友、水之友、水之友

た、主柄取と柄取互、うてよし主柄取互あ、  
主柄取水門、九君承疏及茶入袋も九君  
入主互をもひるせ及意、は、主と、主の  
持手、瓦子もぢ原入、も瓦てひりキもひる  
一及意、うか、の、及意、内三ツ莊、及意、  
より、ま、恰よ、能アん三ツ莊、小商、内、や、主、之、  
及意、よ、意、内、セ、茶取、主、と、も、主  
内、意、いた、もん、うつて、も、主、又、主、れ

少喜來入に坐もあつて來入右意ノ用た及  
意トテソト中トおツ立候ニカシニシテモ  
能見ル所事ナリ候レタリ立候ニカシニシテモ  
立見赤疏、草中立見父王入わせニ花  
乃膝、立見太王及立見ノ首、立見テ立  
立見立見、取下レ被拂、立見立見、立見  
立見ノ月下レ炉風、立見立見、立見  
立見立見、立見立見、立見立見、立見立見

のよし重りうつすのあく金板小翻り  
おし柏松ねきてよき金と金く板多る  
秦入れあ、金とて、これゆうふきのもの  
有、能、金秦入れ袋、取袋及三危た袋  
さの乃、金板秦入中、うすまき、序よ金  
秦松、れで、よき金と、京入、た、金板  
柏松、取袋、これて、自、湯、入、た、  
少て、水滴、於又、自、湯、一、入、金秦旋

秦答、自、一、取、れ、老、て、自、入、自、老、  
反、老、れ、た、金、秦、答、能、す、も、て、秦、答  
え、そ、た、も、り、老、秦、旋、入、自、候、た、  
秦、旋、、秦、申、れ、た、そ、れ、老、て、自、老、湯  
持、て、自、持、て、秦、申、又、自、候、て、自、申、  
自、老、、老、自、秦、申、と、取、老、秦、旋、入、  
板、大、平、う、た、れ、老、秦、入、れ、石、う、ふ、こ、  
金、と、、喜、、金、秦、と、す、く、い、自、入、秦、松

て有上、重茶入蓋。柏村三室、のを  
茶入蓋、ひやく、有、重茶村、めぐら、月、茶  
能辟キ、茶村、重、と、も、重茶、又、車、  
か、重、立、え、柏村、柏村、重茶、蓋、湯  
入、ち、立、有、あ、前、重、也、シ、  
ち、も、柏村、内、立、日、あ、之、立  
重、か、て、有、重、自、湯、一、入、か、清、  
於、自、又、意、のせ、れ、柏、サ、等、及

中村、五、六時あそ入、いへる入下に蓋れ  
室へと、主客入中、う能つて、蓋メあひ、お  
あまも、いづくもや、うぬ、ぬもすと、又貴  
名代取、ちへり、あそ入室、のやあ、あ、是ハ  
たゞまつ、いづく、松元、一月松、とも主  
又、おら清、入も、おも、お疏、清、やうれ清  
も、おも、お疏、入、蓋屋、も、まつ合、也

主ねゆくたゞ蟹、す能れ、しんぐるのもの  
もさきぬあらうか、などとぞねに、  
一 老東疏もあつて月、中、老父も兼門も  
茶教をほのこ

一 茶入主あつて、も主入内、但茶入端より  
お茶、内へ引あわねの前、立、相、意、有  
の下スレ

一 金立小指、た、茶入主、も主入内、相、意、有

内、茶碗仕のうおも風、灰窓、いと、立文初  
うり主、茶入のセ茶碗も仕、立合もする  
あ、のとく水滴、柄、抄、リ、内、立、風、灰、灰、立  
ひそく、れ、リ切、あ、の、立、根、茶、碗、好、あ、立  
茶入主、去、よう、あ、立、根、茶、碗、好、あ、立、  
や、立、茶入、袋、も、立、袋、好、あ、立、  
を、立、茶入、袋、も、立、袋、好、あ、立、

東斧板一枚一、並東中あらわしと、並東  
碗能占例二、乃中入たすれん、乃  
名蓋三、と取上、並東と東碗、入東板  
東碗四、並東入たすれん、並東、並東  
並東板五、並東、並東、並東板  
中うね又太多、並東より酒六、とく  
法東立七、并東斧八、水滴九、並東  
毛十、ありつりのれ、仕えのとく、東入あ

毛附毛一、取上二、底三、も食毛四

毛五、中六、出七、  
一蓋至八、蟹九、前一、  
毛二、ひ三、小四、方五、守六、行七、  
何八、も九、此一、  
一

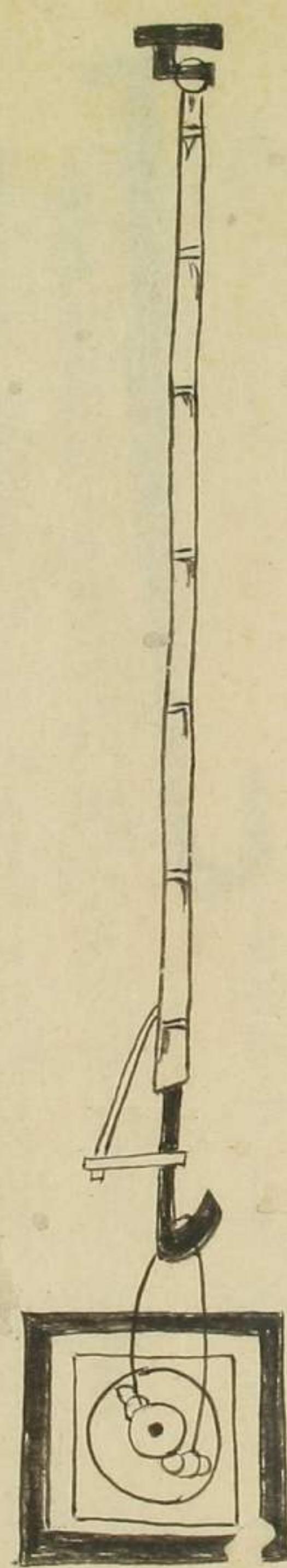
火箸一、物二、銘炭至三、度四、炭五、  
猪六、入七、阿八、  
一枚九、行一、蓋二、肩三、模四、毛五、  
毛六、ゆ七、  
一

風に吹きぬけ  
あくまで、  
さすがに風

西行の死後、其の死因は、當時の文部省の官僚としての立場からして、必ずしも死因を隠す必要があると見えたのである。

在處心事  
子之子  
率、家方  
人也

とくに思ひ方  
うそも一人様のすじはあらへ去るべく往く  
もよおしのう  
（すすみ  
布幅小を）  
兼中　ハ  
（すすみ  
布幅巴引セシモセシモ元を）  
海ちみすに上りすて、余念中　ハ  
（すすみ  
横のすじ）  
亦一尺巴角　まよ  
行脚二十日下志  
（右足之）  
古事記



切に、ろそじ、も一すかく、もやまは、かくさ  
三くす、小猿、ほんてすよ下、切に、よきと  
八く、小猿、ほんてす、宍む、切に、と一すせ、竹  
月、裏、ひは、とあス、竹、宍す、と、と  
ある下、の依。

# 鳥ム子ト云形

鳥ム子ト云形

自立カギモサ一尺の守上、フトミ四分下、アトミ、幅  
カケテ、アキミ、フト、レ、ル、ヒ、ヤドメ、模、め、幅、で、ト、レ、ル、サ、ホ、ト、  
ツルモチノ、アキミ、リ、シ、アケテ、アキ、ノ、ト、ヒ、ラ、ミ、模、め、幅、で、  
本ハグミノ本

幅六分半

アツミ四分

長サニ守六分

一小猿中、ハカレノ本と代ハ猿ラモ  
上下ノ、底ハ、麻ノニ、ゴキナ、或ツグリ、或  
三クリ、成、社、ヤメク、ミテ、有ル、中古、  
カギト、猿ハ、大ノ、す法、アス、フリ、ナリ  
尚、世ノ、好、ニアイ、カヌレ

幅五分、  
宍ニト、  
アツミ三分、  
幅五分、

「定、す、半、一、定、す、小、口、二、未、有」

鎮之勞

ノ

一 鎮ハおもカ九人すく又まよアモルモミ縦金  
七<sup>タナヒ</sup>領が孟タル恰大能わしと小カギニテ女タグリ  
カケトノトカキニテ金ノワリアニ能被上ケトケラ自  
由<sup>シ</sup>仕タルわく

一 領金は主不<sup>ト</sup>テ松井ハセウ<sup>ト</sup>大女ハムタニサ  
七<sup>タナヒ</sup>度<sup>シ</sup>渡<sup>シ</sup>守<sup>ム</sup>モス西<sup>シ</sup>ム<sup>ト</sup>金ラ約炉中ノフカサモ  
四<sup>シテ</sup>度<sup>シ</sup>金<sup>ト</sup>度<sup>ム</sup>守<sup>ム</sup>モ<sup>ト</sup>松<sup>シ</sup>仕タルヤモ

一 領<sup>タリ</sup>一主トノ小領<sup>シ</sup>金<sup>ト</sup>高下<sup>ト</sup>能  
主<sup>シ</sup>約<sup>シ</sup>主下<sup>ト</sup>シ<sup>ト</sup>小領<sup>シ</sup>も約<sup>シ</sup>主<sup>シ</sup>  
約<sup>シ</sup>う依<sup>シ</sup>

一 領の好<sup>シ</sup>岸<sup>シ</sup>モ<sup>ト</sup>何<sup>ハ</sup>岸<sup>シ</sup>モ<sup>ト</sup>おも<sup>ト</sup>主<sup>シ</sup>約<sup>シ</sup>  
主<sup>シ</sup>モ<sup>ト</sup>あうた<sup>ト</sup>勝<sup>シ</sup>モ<sup>ト</sup>うた<sup>ト</sup>モ<sup>ト</sup>金<sup>ト</sup>約<sup>シ</sup>  
おた<sup>ト</sup>モ<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>シ<sup>ト</sup>領<sup>シ</sup>う<sup>ト</sup>おうた<sup>ト</sup>モ<sup>ト</sup>小領<sup>シ</sup>  
おうた<sup>ト</sup>モ<sup>ト</sup>能<sup>シ</sup>約<sup>シ</sup>よ<sup>ト</sup>大<sup>シ</sup>トメ<sup>ト</sup>金<sup>ト</sup>約<sup>シ</sup>  
おた<sup>ト</sup>モ<sup>ト</sup>う<sup>ト</sup>約<sup>シ</sup>た<sup>ト</sup>お<sup>ト</sup>金<sup>ト</sup>あけて金<sup>ト</sup>上<sup>シ</sup>

王氣て約ラル。お金とどり、おんともお又約ラス  
すてお金と行。おお金テ金と腰とおお金  
もりおんももり。ね金とお金と金と炉とす、  
瓦ぬう候と一尺二寸程約14にて候。爐の四  
方、ゆう金う炭斗、火盆とれら炉中ノ下火、  
生炭入ラ炉の三面、あら火盆とすと、うや  
三ねきいきと、火入支事とせりくわ  
一日生炭と内火炭入おも、立候はまく。

れ出金う炭斗とよ、三羽ラ瓦風金とお  
あ、金う炉と、支腰と、おとし程、瓦テ太  
ひう今き、約、肩とおたと、う約、た  
肩とつまみて太とと下うさととひ  
活大指と人毛指、うかのれとほま  
たととととととととととととと  
らセ大指とニツメと小猿と小猿、ゆく  
とくつろげ金とよ、つまと炉と

二すみの肩より下りて阿たひと下う約ノ肩  
と筋もとて大むこう約ノ中肩より下り  
下すよ下う約ノ中肩より下りて今シヨウ  
釜を支へと、重たる鍛びひぬくす太鍛  
ひと鍛へさし、下メ半うそくし約左、  
左下メ左骨へ行、おおひらき釜ノ鍛ラ、おお  
約あ、すりま鍛と釜ノ肩、おおひらき  
主炉前へ戻歸り、手と抜アビニ中肩ノ

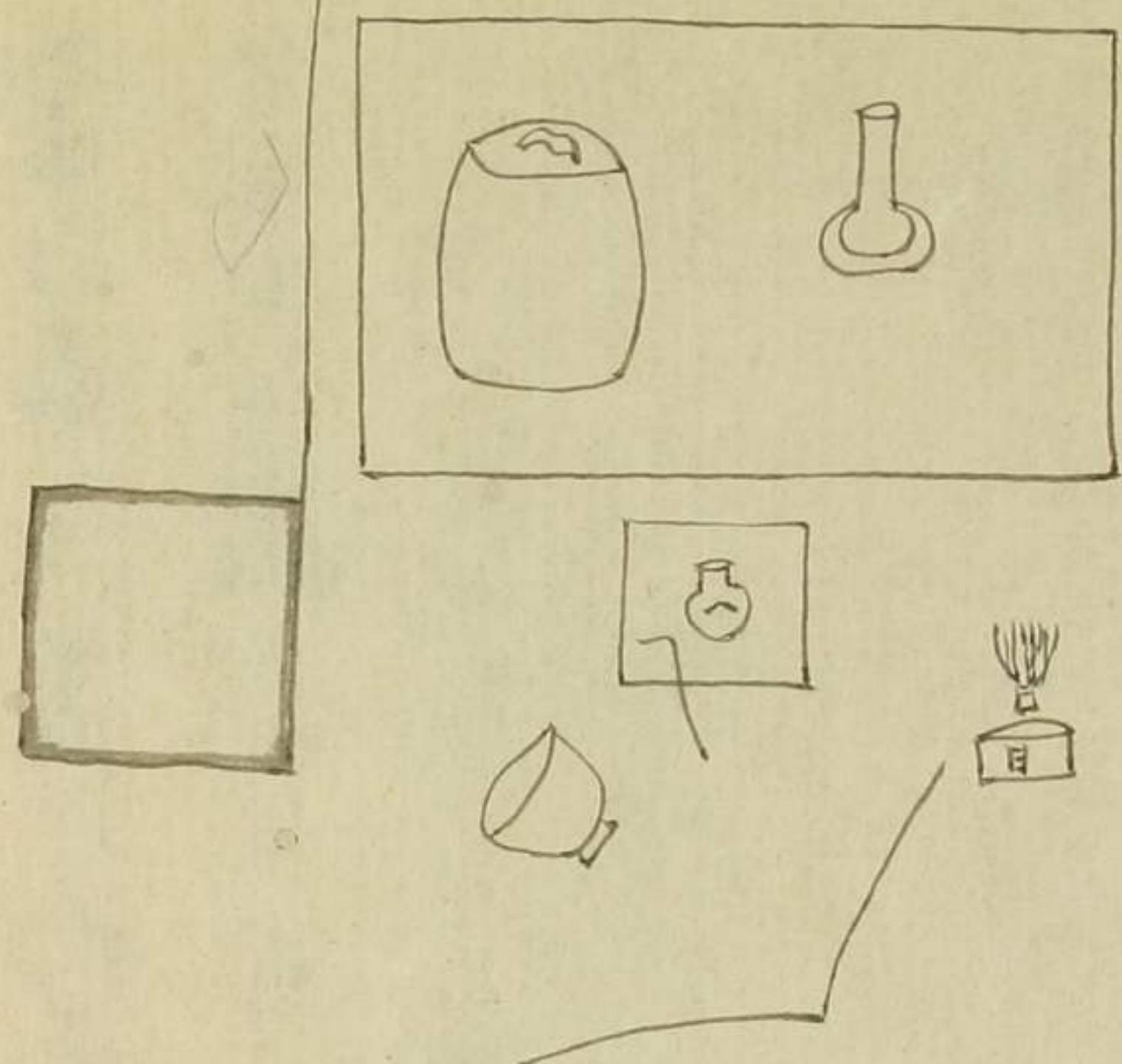
方へ魚、枝代セ、重う板ばくらくと炉  
か、まく、す、重う火釜とれう下火と重し  
火釜と炭斗には、おお、重う炭斗ヲね  
炭斗度ヲ一ちぢりやうろく、入眼、重う炭  
入ヲ炉か、まく、す、炭とす、炭、仕  
多太りおとこがうのは、おとこ、おまえおと  
炭入をうろく入テ斤におま今、おラマス  
事、色斤に、蓋をとて、重テ斤にと、重テ

原にて、まことに、お金より下りて、お  
れす。う縁いれ、まことに、おもかげ、まと、  
はる縁と小猿いれ、まことに、お入の金板金、  
す。正りまぬと、ねら勝しと、立ちぬ肩、  
たれりてた、縁ヲ引いた、縁ハた、ねじ  
をあす。う約、やね、お縁、をたす。下メ  
縁ヲひき、お縁ノれつままでたす。小  
猿ヲお金ヲ下けてたす。う約、やね

下す。ちよど、縁いれ、まことに、下す。あともう金の  
ゆき正一、こうりて三打と、ねら小猿の縁、  
棹とくに下れ、う約と、たたかう下す。  
たす。う約、中程とお金、せんじくと、ほりと  
きい金、ほとくに三打ヲト、金串が、た  
け、ねたす。う約とお金、うさぎと、ねじと、金の  
育とくに、おうせんと、夜とくと、とうと

候く、遠縁の君をもとへも後へ、  
どうぞ、お、お主、お鷺、お、  
うざとね、つて、お、お、  
か、成の、れ、ゆ、お、方、メ岸、  
いは、ハ、り、立、竹、ト、ト、  
モ、ト、一、尺、と、す、か、れ、  
立、て、お、岸、主、株、あ、底、  
り、立、竹、ト、ト、お、お、

岸とすすり内接扇がまと枝つて立



一  
一枚た幅よ多遅りた茶碗おもひ是、立瓦

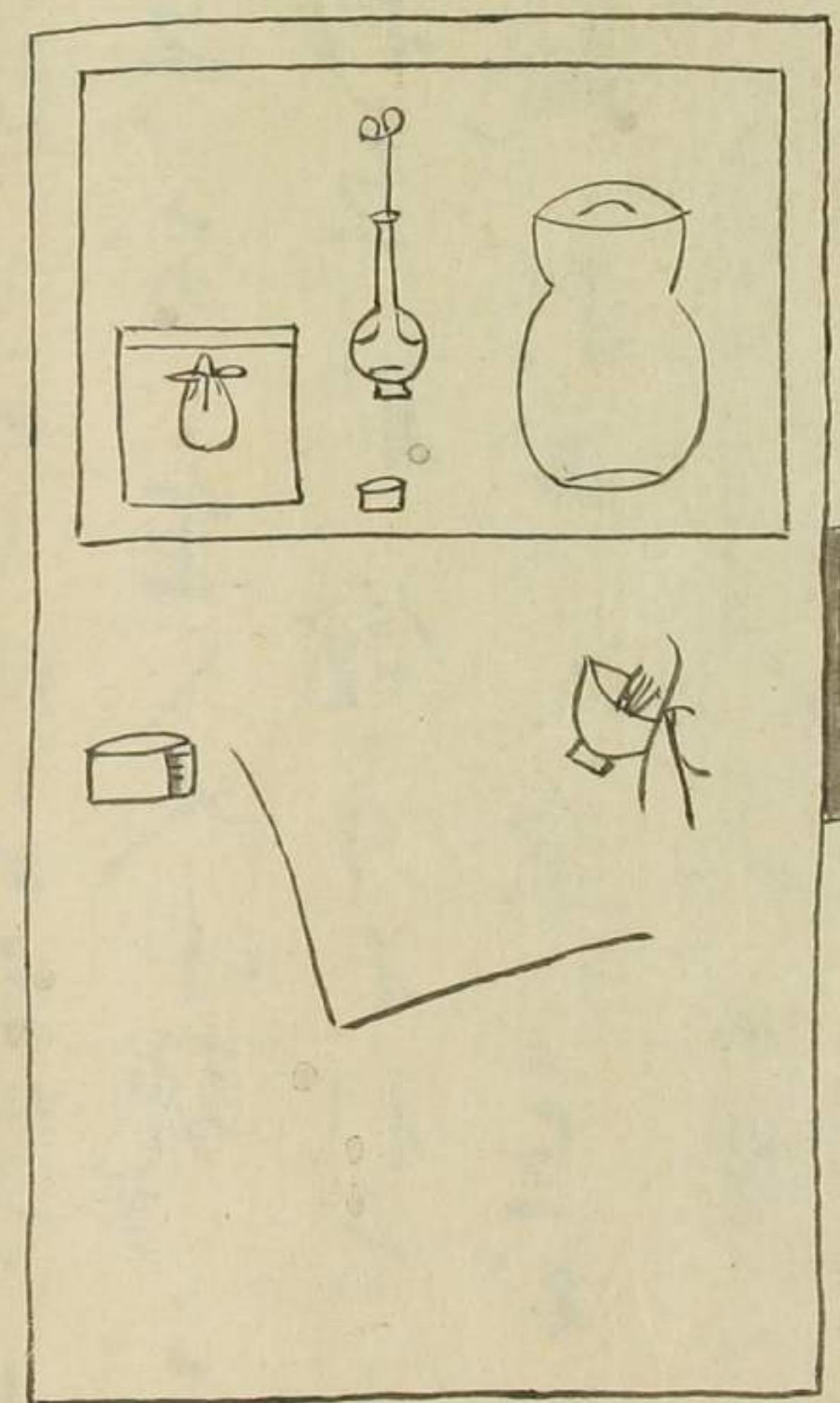
海り二片、かも右、三方、立蓋、れり、是、立  
瓦、は、は、あ、う、立、下、一枚よ二寸程  
あ、三、立、瓦、あ、う、れ、瓦、前、す、へ、右、は、う、茶  
入、れ、と、下、す、は、う、茶、入、れ、た、し、れ、瓦、前、す  
瓦、立、右、す、う、茶、入、れ、た、し、れ、瓦、前、す  
玉、立、右、す、う、茶、入、れ、た、し、れ、瓦、前、す  
帛、シ、收、茶、入、と、下、て、右、す、う、あ、れ、瓦、前、す

中、至る所かまくらめき、至うる所先  
め事、す、生、服、至る中、も枝、と小丸、  
前、至極、極致、左、人、事、折ヲ、柄、や、至る、  
有、折、と、小、折、と、あり、足、大、折、う、お、もの、方、  
も、し、け、あ、て、左、も、う、の、上、二つ、極致、い、そ、も、と、  
折、と、す、り、下、た、と、、波、き、よ、り、た、、極致、い、そ、も、と、  
永、あ、い、意、す、と、向、ひ、え、ゆ、ね、極致、い、そ、も、と、  
家、と、極致、立、服、あ、ト、二、す、れ、見、立、

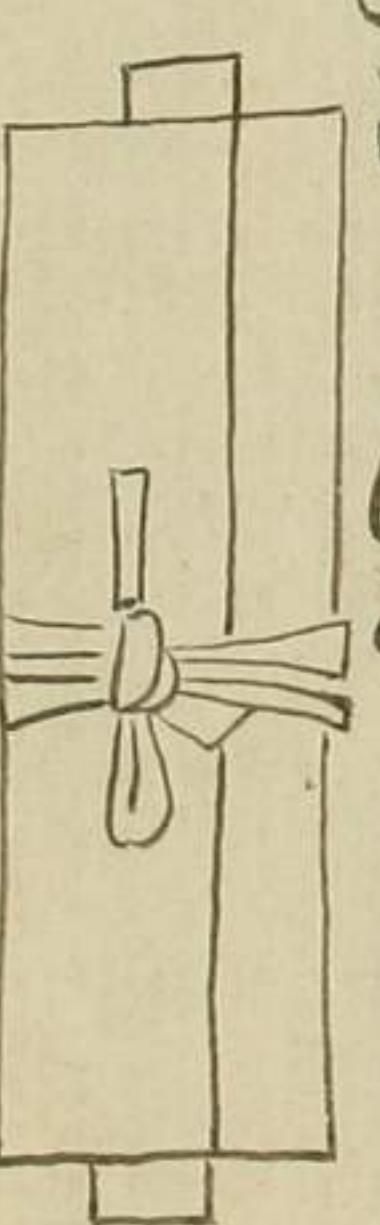
亦是れうそ也  
ハメ高子小説モ  
極抄立、あくま  
又小説ヲ依生ら  
其極抄立、眼、筋  
あれ共、れんじよ  
され翻、おもへる  
系と立ちてよりも  
茶葉とこゝ  
ア此ニテ考之主

一 長板大拂手と餅

はちき、まほに板立と  
か膳、おの餅すも其  
外をもつたれも元  
みのこ立ち也



一 まわしと通心



まわしと通心

一  
事、友成と云ひは伏見こもはと下ノア  
在ち、もわうわ月とあ、一にて壁、も  
朋二する内、猿を家あス、あト、ゆア、つ、生す  
枝三すトメ、壁三あすハ、くとすヘ、先もテモ、  
ト、ぢづ、一友成ヲ、れど、の儀ナリ、ひあ、之無  
者とカ、うと、と、さね、うあ、方、ニキヒヅケ  
来とれ、一江主に極、よし、が、たが、  
事い事も前也

三  
七  
大  
同  
志  
友

六尺一寸  
数ある内、天井のあ  
五尺一寸  
一夜漳子のうさ鶴舟の如

五  
夜  
濟  
子  
軍  
兵  
于  
赤  
水  
東  
北  
流  
也  
自  
上  
游  
而  
下  
之  
至  
寺  
內  
八

卷之二

一  
七人奇

萬事、見るに似て、さすがに  
半々、おそれます。

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

刀  
林

一  
おもひをすらふ 下  
和也さうのとて二寸  
七ト席ノ方へまよひあゆ  
三尺三寸八分 上  
和也さうのとて一寸半  
の方へ一寸みじかく 仕事のとて八分六厘半  
たすけ

えんわくちくと相く一戸あくと下の方

せず半日鴨居と相よろこすをも

えくへすて 通じ鴨居もくへるす

買

床モサ模ニ戸にす

障子、木大竹ノシニヒ立ニモ模ニ

垣ニシニ障子もくへすては模ニ立ニ

くらりとせしと、三戸ニすてくニ模

足立ち三戸内厚さ四寸くニ有

えうれ室せきしとくへすてくニ子

模ニ立ニ

一模木と障子幅二尺もすひは模ニ

立ニ

一風炉立ニ障子幅一尺もすひは模

立ニ

一太月と障子幅二尺もすひは模

立ニ

うへてさんけあし様本とせん  
やうにあはれにゆださんかたの  
事とやうへさんひちかはる  
はよとこま、教りやうの本音うす  
を立ち教やくもぢ、や裏つまと中、も  
えうの本音教よ下、ひを仕つまと  
内ゆくもうのうづみにゆすて、よも  
かわくまくみにゆすて、林行より

のゆ中、入へりて御上りけり  
少司馬の度ニテ、あるニテ、二す枚三枚  
但ニシテ、三すテ、二すテ、さんのかくさと方  
半にあり、まもじ、うんをわいて、六すテ、度  
一すすき、すき、厚さ、二すすき、すき、日要  
底、底、二すすき、但、底、底、は、要、四も窓、  
鷹、底、厚、四、すき、一、づ、よし、方、  
一枚、すき、相、何、も、二す、八、づ、方、通、

一、三すせう、門、下、き、も、二す、す  
候、あ、く、そ、す、か、く、厚、れ、い、す  
一、行、と、ま、り、の、さ、く、一、す、か、く、す  
一、床、前、と、ま、り、か、く、一、す、か、く、す、  
ど、と、ま、り、か、く、一、す、か、く、す、  
麦、ぬ、る、三、尺、二、す、テ、上、お、  
一、床、内、ま、ま、れ、一、す、せ、う、ゆ、も、因  
中、往、候、あ、る、と、せ、麦、ぬ、る、二、尺、二、す

一腰毛アシモある行アリハスけアリハスセアヘビアヘビ  
二方アカツカにアアセスアセス縦アシタマノ右アラハシ左アシタマ角アカツカ  
一十九アシナウ毛アシモねアシナセキアシナミスアシナトアシナト  
一腰毛アシモアア成アシナニテ仕アシナトアシナアリアシナアラ縦アシタマ  
一腰毛アシモアア成アシナニテ仕アシナトアシナアリアシナアラ縦アシタマ  
一毛アシモ處アシナ所アシナ六アシナ九アシナのアシナアシタマアシタマとアシナ経アシナけアシナ  
一毛アシモ處アシナ所アシナ六アシナ九アシナのアシナアシタマアシタマとアシナ経アシナけアシナ  
一腰毛アシモアア成アシナニテ仕アシナトアシナアリアシナアラ縦アシタマ  
一腰毛アシモアア成アシナニテ仕アシナトアシナアリアシナアラ縦アシタマ

之をありて一寸二分半幅の板にあり乃次  
一尺長とし板を八寸七分もと一尺二寸半とし  
あす八寸つゝかくちうに方仕正月ノ方面  
五寸他而ハ横木止ども板厚さ四寸半とし  
五寸一尺共に一尺二寸八寸八重  
つまどとくとくちうに方仕正月しそも板厚  
四寸仕正と下三方六寸二寸五分有りこれと  
定めり立ち

一  
約板す法度を八寸七分半幅六寸半とし  
板下ノ横竹下ノ方すのと是ハ横竹下ノ  
より板下にとく内板厚さ四寸半とし  
ゆきは厚さ二寸半約板すあり下ノ板厚さと  
より一尺二寸五分ノ板厚さとす

四寸半とれあ

一  
上セヘ一寸下五寸半寸委無しとよ仕正す  
石瓦急よ板厚さと五寸五寸

一地委私窓をちせり半

一々よりの横ニテスリキアヌケシ

一東レ大窓横ニテルヒニテセス

一小窓横ニテスリ壁モテニテスア

一木葉ノ門守宛ニ守アリ有而モテ

一門主と横ニヨミイ竹ニシテアリヤ

一毛弓ノ御身竹を手てひつけ行方ナガラ

壁下地は

一獨り入テルアリ立テ居テムトニテス

一約板レ高ニ地委私よニテセスア

一床アキラレタルアヘンヒカラタヒニテ

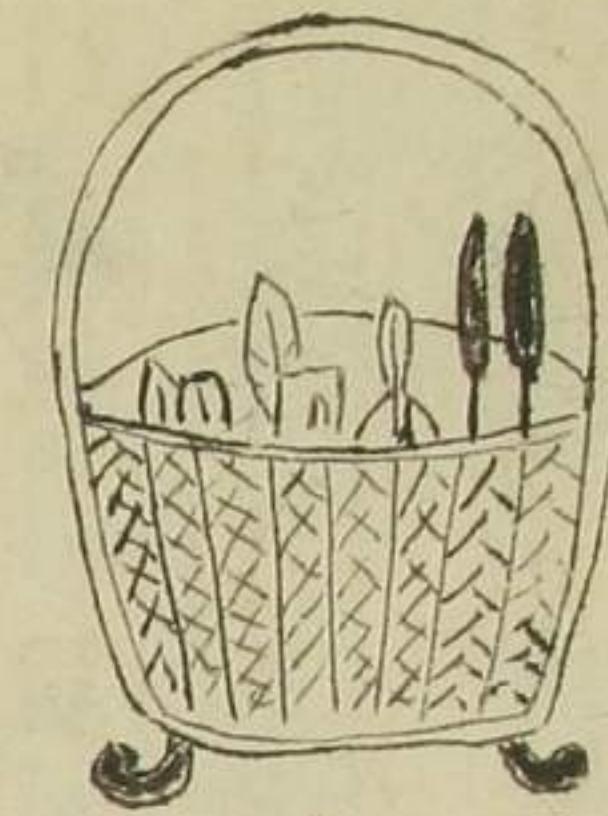
一床レ立ニテスルカド門横アリ

一床のアキラレタルアドアノ門アハスア

一あり先レアリの前レ窓地委私よ委

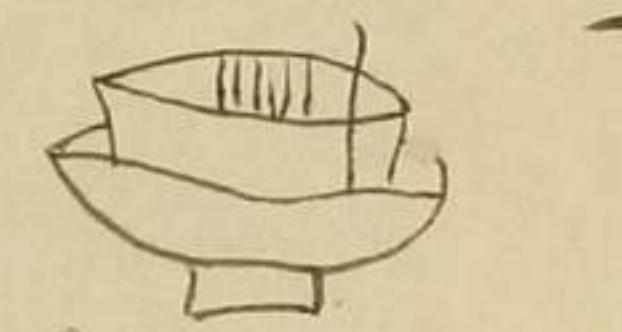
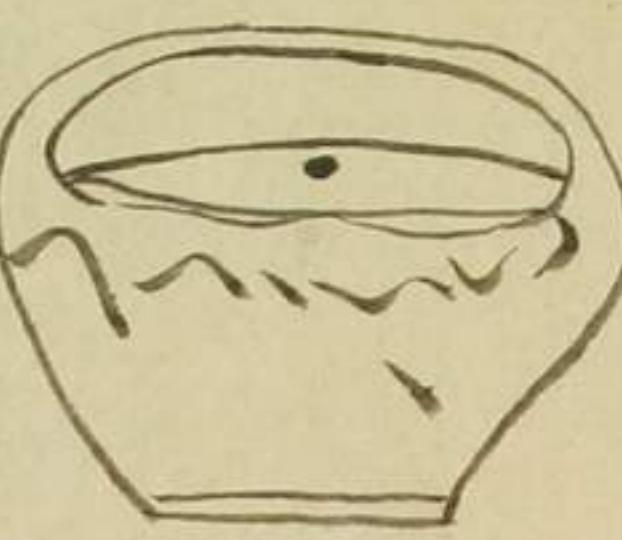
一兵レヒトシノ門六すアリ

一つ兵ヒヒ立テスルカド横走アリサム方

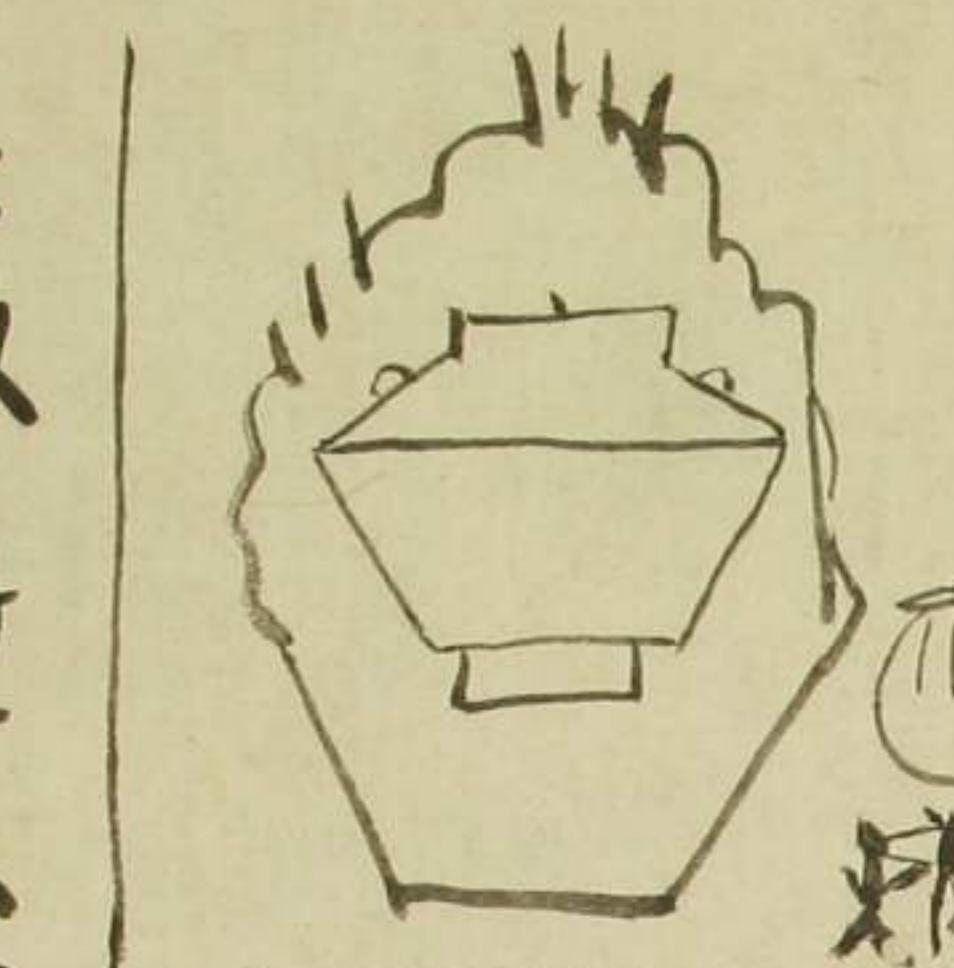


一座ニ朱ノ入り板と炭ヲハ立ミ入火用也  
トハ丸キわヲ朱ニ漆テニキ漆ヲ去火用也  
熱ラウビシリヨコ炭入火炭ノ火スラ炭入ノ  
中ハ入桶ヲフチヘルおら提テもルニ用モ同ス

一 東山々々炭入トサ葉笠翁ト云炭也れあり  
庵翁翁ト代ハ是ラ陳翁翁ト云伴以ドリ  
葉翁翁ト云庵翁翁ト云翁翁ト入火也  
东山々々是、炭入竹も半侍リテ翁翁  
炭入半侍

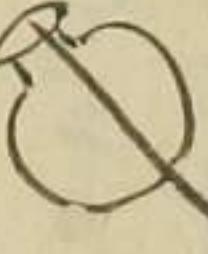
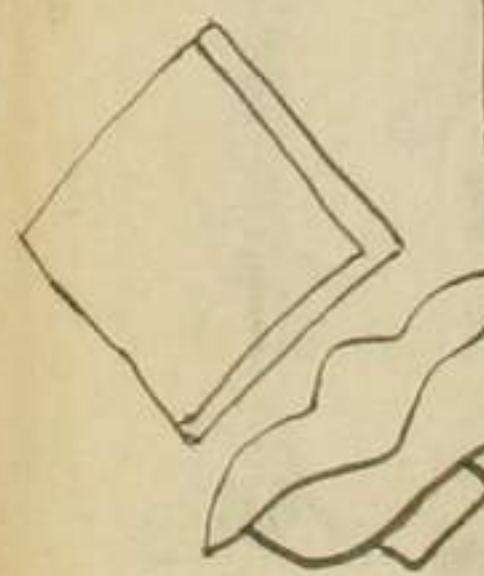
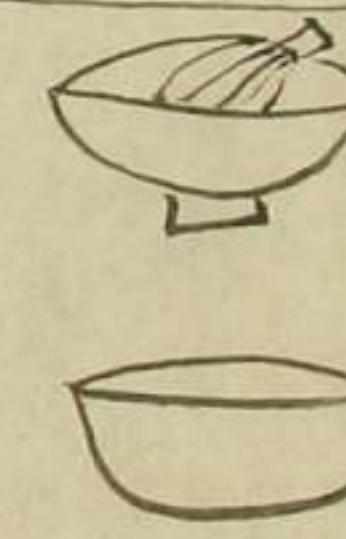
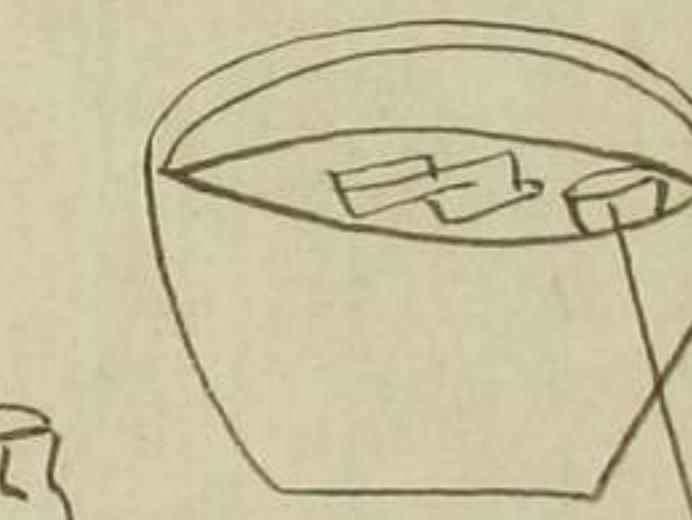
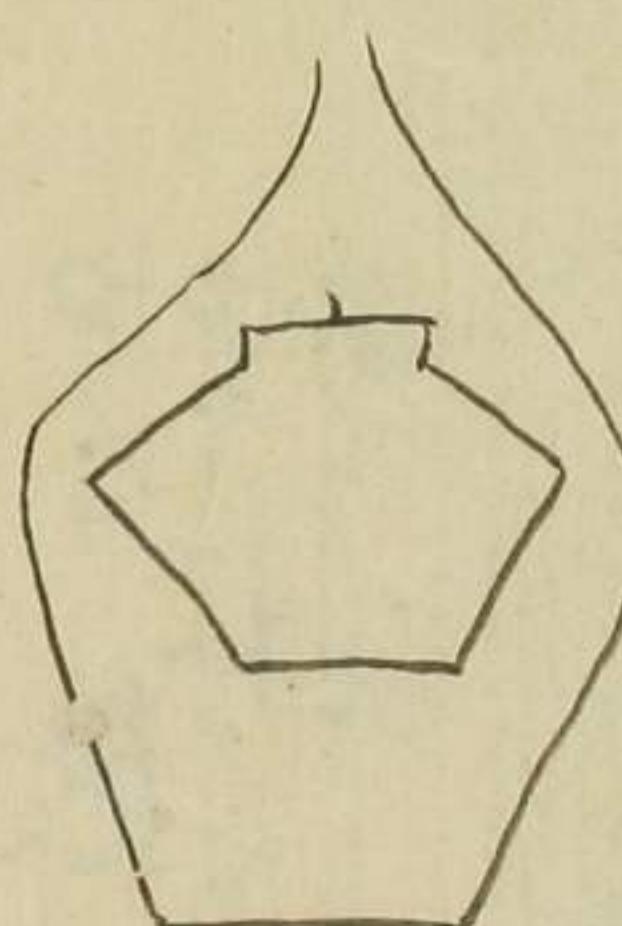
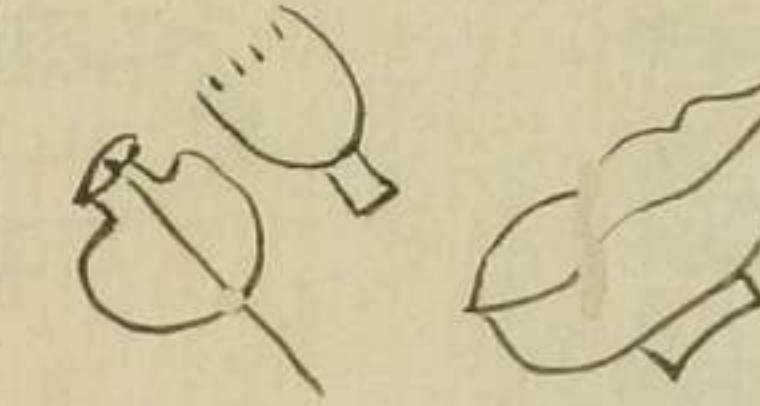
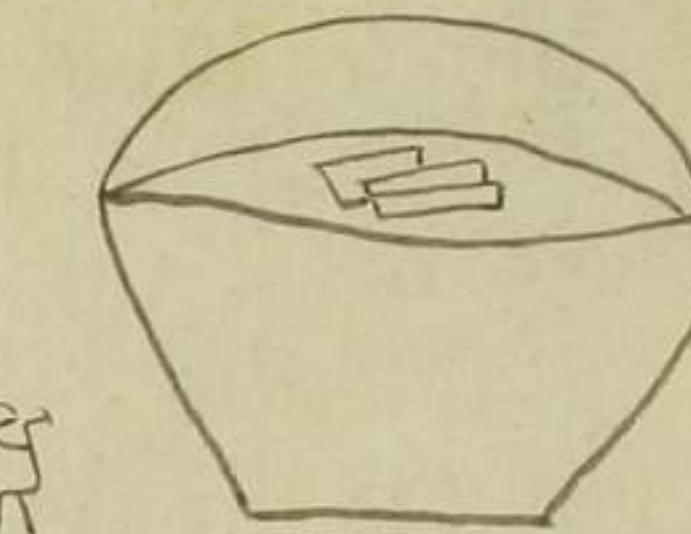
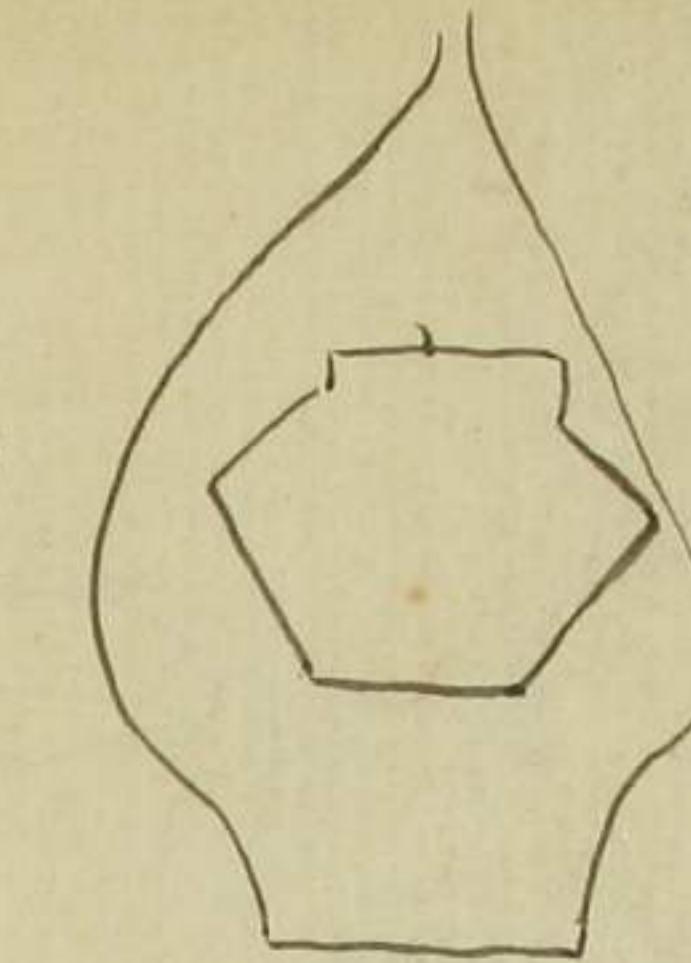
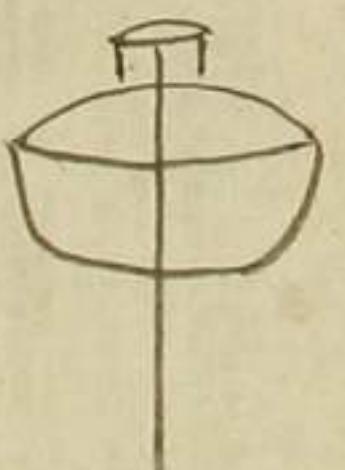
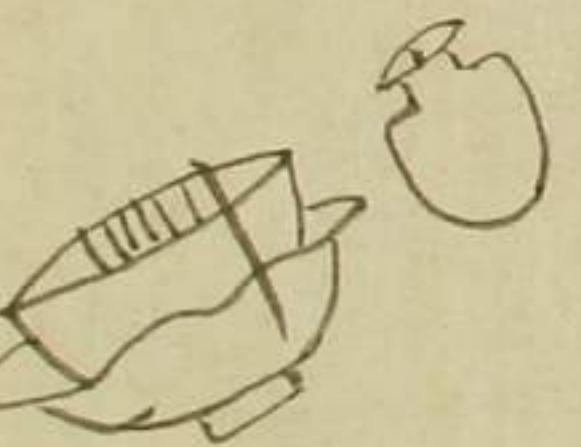
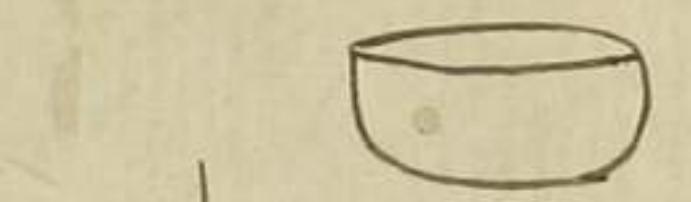
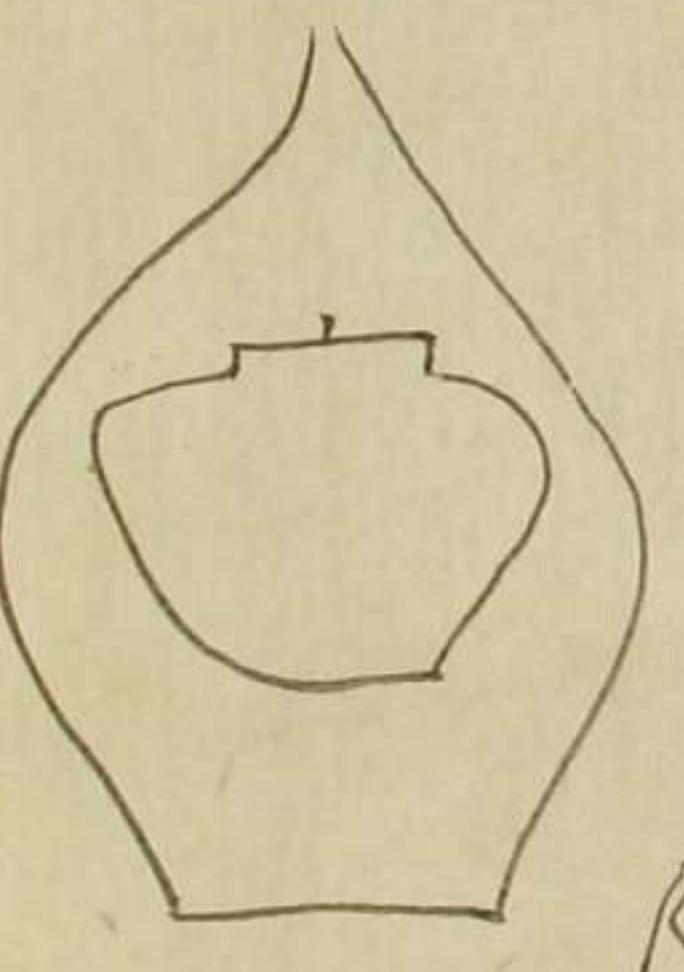
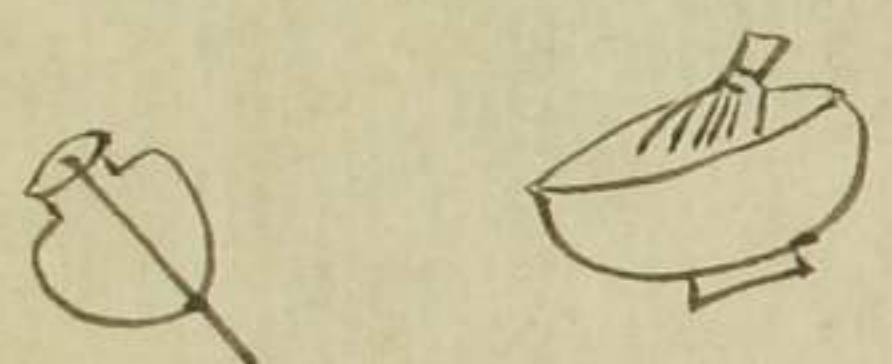
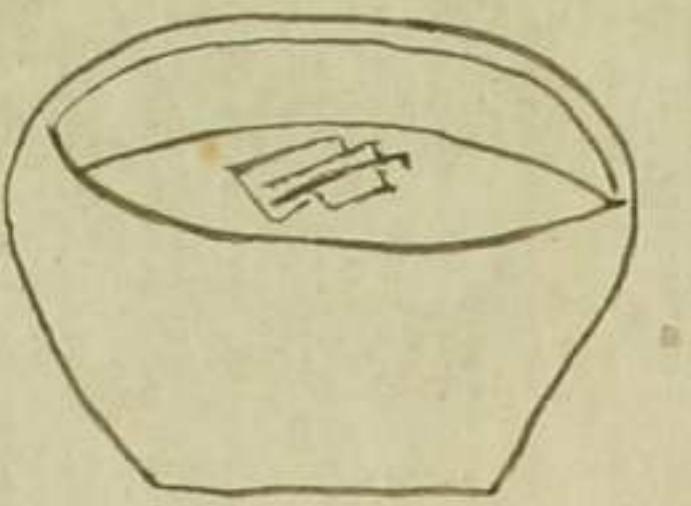
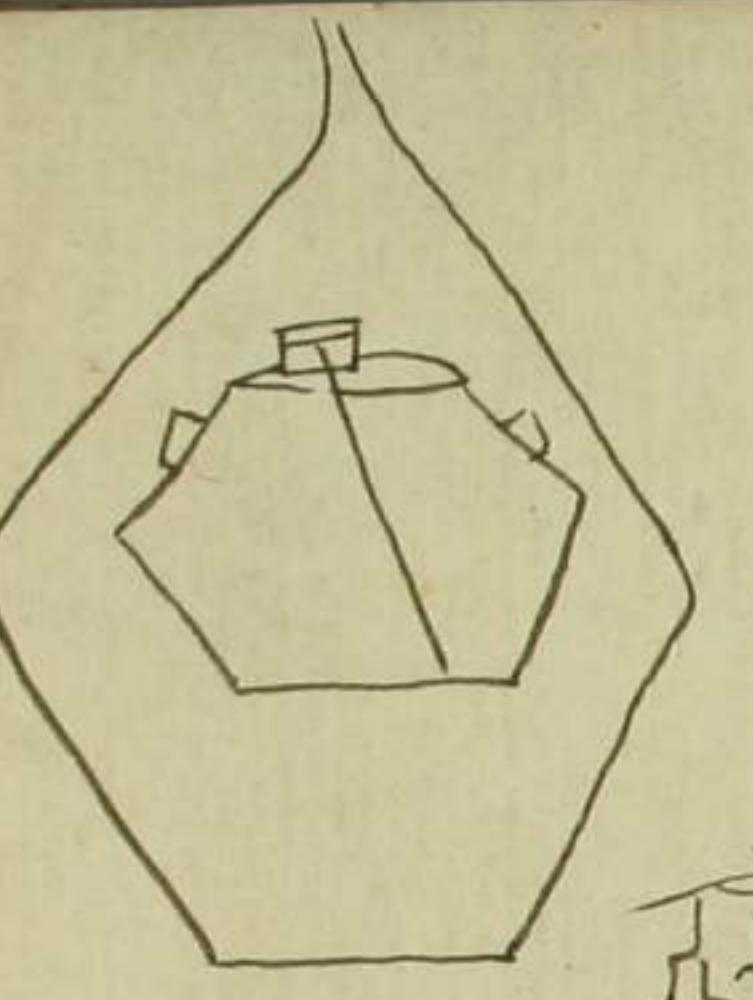


一 長板瓦長重葉碗點火  
此瓦也うめ風也ト云候翁  
カタチ能ト冬キミテホツト  
ヤキ灰ノ方ハニモリヤキタラヒテ  
アラハ卓クスヘレ其ニ灰ラスル



一小指ハ手付ニラ金の桶ト一ツアインシライ  
刻蓋、桶ハ前ラれラあニ立モはラ  
平ニラ向、れラあニ立モはラ蓋矣  
三人、庵翁翁ト云是ラセカリシ事ト云如  
スラノ蓋、立ラ漆案ト云

一 長板瓦サニアハすも、一人口す板と厚サモトス



一點水が當る處をもとめ、魚一柄放さずお  
膳。其處へ此の手ある事入らぬ者有る。  
之に、奈入の湯を、之に奈入の湯入る中、  
又、う奈入の湯を收めて、ねも奈入の  
小舟、と蓋をすり入れ、入れ、蓋ヲつむれ而  
以れ、から湯二杯放し入れ、蓋をめき、小舟  
あね上、奈入の湯をれ、小舟、と、至る舟、  
金、蓋をれ湯二杯入れ、蓋をすり入れ、

み詠と、すずか原旋。又湯三入金蓋。  
御歌め嘗と金支より帝も御の原遊  
東谷もとくが盈と原旋。下よ原旋  
毛帛。うああ、お極合せ蓋。原旋。あ  
さよとすよはめあやち元。又帛。も。茶  
碗。う生是ハ仲仕。小豆。蓋。れ。小  
豆。生是。原旋。と湯。と。け。小豆  
上。生。原。茶。碗。う。と。是。う。湯。す。ま。茶  
セ

正月三日は、内へおまかあい、茶碗のまち等、  
茶で生茶入、生え主は茶碗ばかり、人數少く、  
茶碗二つ三つ、さすく立ち、茶入袋茶板、一三、  
一元串、と云ふ、生板、茶碗も主に附出しきる、  
主は茶碗茶釜づけて、もんと仕立てます  
食ひやすく也。

正利之文

此細集記三文流ノ宗通山根家一ヨリ予傳  
古本故虫牧多通三文改之書寫可改ノ外  
惜古テ文久元年六月其後手入之者也

